川上村遺跡詳細分布調査報告書

1984

長野県南佐久郡川上村教育委員会

明治大学図書館

川上村遺跡詳細分布調査報告書

1984

長野県南佐久郡川上村教育委員会

大深山遺跡復原住居

大深山遺跡出土香炉形土器・釣手土器

序

川上村教育委員会

教育長　由井和人

時代の移り変りと共に人の考え方、生活様式も変化してまいります。現在に生きる私達は古を思う時、あまりの変り様に唯々驚嘆するばかりです。このよい時代にどっぷり漬っている時に、ふと「これでよいのだろうか」と不安を感じます。この不安は言いあらわせない「むなしさ」であり「ものたりなさ」です。これはものに対する価値感が唯物的でありすぎ、精神面の欠如によるものと思います。多くの人達が遺跡などを通じて古代を模索し、古文書を解読することによって、私達の祖先のその時代時代の生き方を確認することにより、今日的生きざまの疑問への解明的志向はそれをうらづけて居ると思います。現に川上村でも村誌の刊行の計画をもって居りますが、これは村の歴史を知ることにより、その中に現時点をおき、更に将来への発展の糧にすべきものだと思考されます。

この度、数十年前から多くの諸先輩によって、村内に既に28箇所もの遺跡が発見され発堀されその資料が収集され保存されて来ましたが、いま又更に原始・古代の人達の生き方を解明する唯一の手がかりである全村的な遺跡の分布調査を行うことは、体系づけた調査をし、記録保存し、資料の散逸を防ぎ、その中から私達の祖先の生活様式を浮び上がらせ、学ぼうとするのが目的であります。

この調査は、以前からたくわえられていた資料をもとに昭和58年11月から5ケ月にわたって行われたもので、その間、国・県の助成を受け御指導を得て、佐久考古学会・川上村教育委員会・川上村文化財保護委員会、その他多くの村民の皆様の御協力によって実地踏査が行われ、更に報告書の作成は佐久考古学会の数名の方によってなされ、資料は所有者の皆様から多くの提供を得て完成に至りました。心から感謝し厚く御礼申し上げます。

例　　言

1、本書は、昭和58年度文化財保護事業として行った、川上村遺跡詳細分布調査の報告書である。

2、本調査は、国・県の補助事業として川上村教育委員会が実施した。

3、本調査は、由井和人教育長を団長とし、地元の佐久考古学会員を調査員に、文化財保護委員、教育委員、各地区の地元の方々等の協力を得て実施した。

4、本書に挿入した、カード・地図・挿図・図版等の作成は下記の者が行った。

カード・地図の作成……井出正義、地図トレース……島田恵子

写 真 撮 影……山中年行・上田　貢・由井　港

写 真 焼 付……上田　貢

遺跡図版作成……井出正義・由井茂也

遺物図版作成……島田恵子

拓　　本……由井　明

分布調査採集遺物の整理……由井　明

石 器 実 測……保坂典子・相川幹子・宮坂直子・市野浩世・上住直子

石器トレース……保坂典子・相川幹子・宮坂直子

土器実測・トレース……島田恵子

挿図18・19は、由井茂也他「横尾遺跡」川上村教育委員会 1983から抜粋した。

挿図27・28は、戸沢充則他「報告・野辺山シンポジウム1981」から抜粋した。

5、本書の編集は、島田恵子が行い、由井茂也が校閲・監修した。

凡　　例

1、カードに記入した遺跡略図は、約1：25,000に統一してある。

2、石器実測図の縮尺は$\frac{2}{3}$、縄文土器の実測図は$\frac{1}{4}$、土師器・灰釉・陶器の実測図は$\frac{1}{2}$に縮尺してある。

3、図版中遺物の縮尺は、$\frac{1}{2}$～$\frac{1}{6}$としてあり、各々の図版に縮尺は明記してある。

なお、本調査・報告書作成にあたり、文化財保護委員・教育委員・各林野保護組合長・各分館長・村誌編纂室の上田貢氏・各地元の皆さん、および採集遺物の調査等に心よく応じ、御協力・御援助をいただいた方々に厚く御礼申し上げます。

目　　次

巻頭図版
序
例　言・凡　例
目　次
I　遺跡詳細分布調査の経緯……1
1　調査に至る動機と経緯……1
2　調査団の構成……1
南佐久郡川上村遺跡一覧表……2
1　二本木遺跡カード……4
1　二本木遺跡全景……5
2　上の原遺跡カード……6
2　上の原遺跡全景……7
3　しだみじゅく遺跡カード……8
3　しだみじゅく遺跡全景……9
4　小川原遺跡カード……10
4　小川原遺跡全景……11
5　上の段遺跡カード……12
5　上の段遺跡全景……13
6　大深山遺跡カード……14
6　大深山遺跡全景……15
6　大深山遺跡第25号住居址実測図……16
6　〃　〃　出土土器実測図……17
6　〃　〃　〃　写真……18
7　東原Ａ遺跡カード……19
7　東原Ａ遺跡全景……20
7　東原Ａ遺跡出土土器写真……23
7　東原Ａ遺跡　〃　……24
8　水の元遺跡採集遺物写真……24
8　水の元遺跡カード……25

8　水の元遺跡全景……26
9　寒い沢遺跡カード……28
9　寒い沢遺跡全景……29
10　菅の平遺跡カード……30
10　菅の平遺跡全景……31
10　菅の平遺跡採集石器……32
10　菅の平遺跡　〃　……33
11　馬場平遺跡カード　……34
11　馬場平遺跡全景……35
11　馬場平遺跡採集石器……36
11　馬場平遺跡　〃　……37
11　馬場平遺跡　〃　……38
12　よしのしり遺跡カード……45
12　よしのしり遺跡全景……46
13　御堂窪遺跡カード……47
13　御堂窪遺跡全景……48
14　大海道遺跡カード……49
14　大海道遺跡全景……50
15　深山口遺跡カード……52
15　深山口遺跡全景……53
15　深山口遺跡採集土器写真……57
15　深山口遺跡採集土器・石器写真……58
16　兵部遺跡カード……59
16　兵部遺跡全景……60
17　赤土平遺跡カード……61
17　赤土平遺跡全景……62
18　横尾遺跡カード……63
18　横尾遺跡全景……64
19　天神林遺跡カード……66
19　天神林遺跡全景……67
20　七久保遺跡カード……68
20　七久保遺跡全景……69

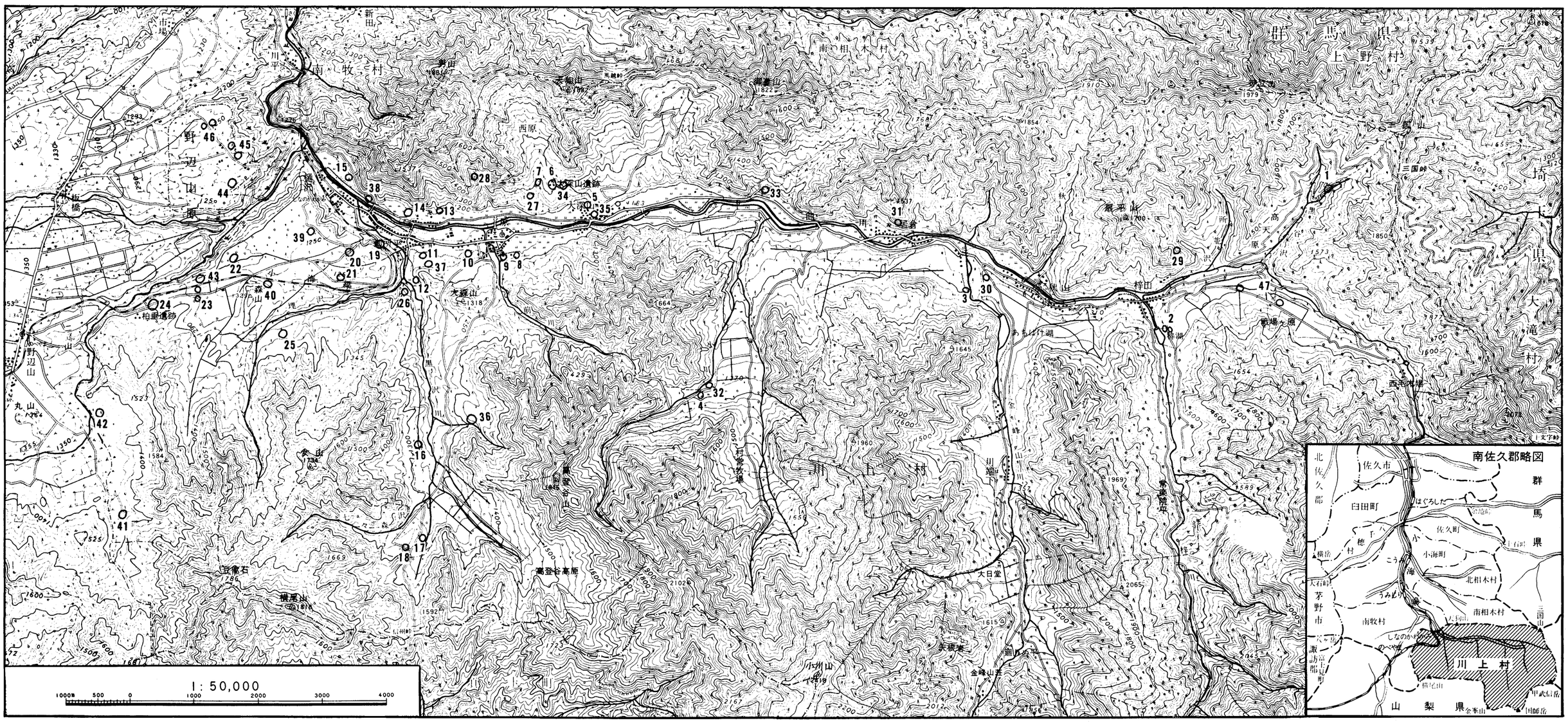
21　唐沢遺跡カード……70
21　唐沢遺跡全景……71
21　唐沢遺跡採集石器写真……72
22　切草遺跡カード……73
22　切草遺跡全景……74
23　西の腰遺跡カード……76
23　西の腰遺跡全景……77
24　柏垂遺跡カード……78
24　柏垂遺跡全景……79
24　柏垂遺跡採集石器写真……85
24　柏垂遺跡　〃　〃　……86
24　柏垂遺跡　〃　〃　……87
24　柏垂遺跡　〃　〃　……88
25　馬飼場遺跡カード……89
25　馬飼場遺跡全景……90
26　三屋敷遺跡カード……91
26　三屋敷遺跡全景……92
27　東原Ｂ遺跡カード……94
27　東原Ｂ遺跡全景……95
28　穴沢遺跡カード……96
28　穴沢遺跡全景……97
29　赤谷遺跡カード……98
29　赤谷遺跡全景……99
30　村木遺跡カード……100
30　村木遺跡全景……101
31　上の山遺跡カード……102
31　上の山遺跡全景……103
32　笹目木遺跡カード……104
32　笹目木遺跡全景……105
33　姥ケ瀞遺跡カード……106
33　姥ケ瀞遺跡全景……107
34　花の木沢遺跡カード……108

34　花の木沢遺跡全景…… 109
35　宮下遺跡カード…… 110
35　宮下遺跡全景…… 111
36　青木の平遺跡カード…… 112
36　青木の平遺跡全景…… 113
37　詰堀遺跡カード…… 114
37　詰堀遺跡全景…… 115
38　蕨窪遺跡カード…… 116
38　蕨窪遺跡全景…… 117
39　浜場遺跡カード…… 118
39　浜場遺跡全景…… 119
40　東森遺跡カード…… 120
40　東森遺跡全景…… 121
41　三沢遺跡カード…… 122
41　三沢遺跡全景…… 123
42　大平遺跡カード…… 124
42　大平遺跡全景…… 125
43　日影遺跡カード…… 126
43　日影遺跡全景…… 127
44　坂上遺跡カード…… 128
44　坂上遺跡全景…… 129
45　立石遺跡カード…… 130
45　立石遺跡全景…… 131
46　久保遺跡カード…… 134
46　久保遺跡全景…… 135
47　戦場ケ原遺跡カード…… 136
47　戦場ケ原遺跡全景…… 137
47　村内の石棒…… 138
47　分布調査採集遺物…… 138

挿　図　目　次

第１図　川上村遺跡分布図
第２図　上の段遺跡出土土器実測図……16
第３図　大深山遺跡第25号住居址出土土器実測図……17
第４図　東原Ａ遺跡出土の縄文早期土器拓影……21
第５図　東原Ａ遺跡出土土器拓影……22
第６図　水の元遺跡採集土器拓影……27
第７図　寒い沢遺跡採集土器拓影……27
第８図　馬場平遺跡採集石器実測図No. 1 ……40
第９図　〃　No. 2 ……41
第10図　〃　No. 3 ……42
第11図　〃　No. 4 ……43
第12図　〃　No. 5 ……44
第13図　大海道遺跡採集土器実測図……51
第14図　七久保遺跡採集土器実測図……51
第15図　深山口遺跡採集土器拓影No. 1 ……54
第16図　〃　No. 2 ……55
第17図　〃　No. 3 ……56
第18図　横尾遺跡Ｈ１号住居址出土土器実測図……65
第19図　赤土平遺跡採集石器実測図……65
第20図　切草遺跡採集土器実測図……75
第21図　柏垂遺跡採集石器実測図No. 1 ……80
第22図　〃　No. 2 ……81
第23図　〃　No. 3 ……82
第24図　〃　No. 4 ……83
第25図　〃　No. 5 ……84
第26図　三屋敷遺跡採集土器拓影……92
第27図　立石遺跡採集石器実測図……132
第28図　〃　土器拓影……133

川上村遺跡分布図


南牧村
南相木村
上野村
群馬県
埼玉県
大滝村
川上村
野辺山原
野辺山
柏垂遺跡
大深山遺跡
大深山
大蓋山
梓山
梓田
三国峠
三国山
大日堂
常楽院平
横尾山
豆腐石
高登谷高原
村営牧場
戦場ヶ原
西平戦場
1: 50,000
南佐久郡略図
佐久市
臼田町
佐久町
小海町
北相木村
南相木村
南牧村
川上村
山梨県
長野県

Ⅰ　遺跡詳細分布調査の経緯

1　調査に至る動機と経緯

先土器時代から縄文時代にわたって著名な遺跡を持つ川上村も、近年開発による破壊が進んでいる。これらの遺跡を確認し破壊から守ることは急務である。そこで今回国・県の補助金を受け、村内遺跡の詳細分布調査を行うことになった。

まず、調査のため村を一巡した。本村は、高原野菜の有名な産地だけに、河岸段丘から山麓の大平原まで、あますところなく野菜畑である。野菜の収穫は、10月いっぱいかかり、11月は、寒気で大霜や降雪の心配があり、そのために現地調査は、短期間に実施しなければならなかった。11月15日に開始した調査は、川端下から樋沢まで、村内8部落が順調に進んで、11月26日に終了することができた。結果は、すでに確認されている遺跡はいうまでもなく、新しく発見されたもの19箇所を加え、遺跡遺物が確認された。

しかし、広大な村全域から見れば、山林原野に覆われて足跡のおよばなかった地域も少くない。このような場所で、特に樋沢のまつなぎ、御所平の男山・二ノ窪・蟻生原・原の大原・高登谷山麓・大深山の八窪・居倉の高町などについては、今後も注意していただきたい。また、金峰山川の豊富な清流の河岸段丘にありながら、一箇所の遺跡も確認できなかった川端下の地域は、むしろ不思議であった。各地区とも地元の皆様の注意をお願いし、さらに補完していただきたい。

2　調査団の構成

調査団長　由井和人（教育長）

総務事務主任　山中年行（総務社会教育係長）

調　査　員　由井茂也・井出正義・由井　明・島田恵子

調査補助員　関　　基・由井幸憲・吉沢　学・上田　貢・原　猪佐夫・川上　憬
山中重徳・原　好正・由井　港・由井雅彦・小原文一・高橋滝雄
岩水木平・吉沢豊児

下記の方々よりは遺物の提供と御教示を賜わりました。厚く御礼申し上げます。
（敬称は略させていただきます。）

川上礼三・関　決次・由井　満・新海ゆき子・由井貞夫・由井一昭
由井好文・篠原庄一・吉沢時之助・吉沢　靖・篠原正水・龍昌寺
大深山考古館・由井祐太郎

南佐久郡川上村遺跡一覧表

番号	種別	時代	名称	所在地	地目	備考
1	包蔵地	縄	二本木遺跡	梓山二本木	山林	昭41調査
2	〃	先・縄	上の原遺跡	梓山上の原・北坂上	畑	
3	〃	平	しだみじゅく遺跡	居倉しだみじゅく	〃	
4	〃	縄	小川原遺跡	居倉横川	〃	
5	〃	縄・平	上の段遺跡	大深山上の段	畑・神社 考古館・墓地	
6	〃	縄	大深山遺跡	大深山西原	史跡公園	史跡
7	〃	縄	東原A遺跡	原東原	山林	
8	〃	縄・平	水の元遺跡	原水の元	畑	
9	〃	縄	寒い沢遺跡	原寒い沢	宅地	
10	〃	先・縄	菅の平遺跡	原菅の平	畑	
11	〃	先・弥	馬場平遺跡	御所平馬場平	〃	昭28調査
12	〃	先	よしのしり遺跡	御所平よしのしり	〃	
13	〃	縄	御堂窪遺跡	〃 御堂窪	〃	
14	〃	平・中	大海道遺跡	〃 大海道	畑・宅地	
15	〃	縄・平	深山口遺跡	〃 深山口	畑	
16	散布地	先・縄・平	兵部遺跡	〃 兵部	山林	
17	包蔵地	〃	赤土平遺跡	原赤土平	畑	
18	〃	平	横尾遺跡	御所平横尾	畑・道路	昭49調査
19	散布地	縄	天神林遺跡	〃 天神林	道路・山林 鉄道線路	
20	包蔵地	縄・平	七久保遺跡	〃 東坂上	畑・山林	
21	〃	先・縄	唐沢遺跡	〃 唐沢	〃	
22	〃	先・縄 弥・平	切草遺跡	〃 切草	畑	
23	〃	先・縄	西の腰遺跡	〃 西の腰	〃	
24	〃	〃	柏垂遺跡	〃 柏垂	畑・山林	昭47調査

番号	種別	時代	名称	所在地	地目	備考
25	包蔵地	縄・平	馬飼場遺跡	御所平馬飼場	畑	
26	〃	縄	三屋敷遺跡	〃 西黒沢	〃	
27	〃	縄	東原B遺跡	原東原	〃	
28	散布地	先	穴沢遺跡	御所平穴沢	山林	
29	〃	縄	赤谷遺跡	梓山赤谷	〃	
30	〃	縄	村木遺跡	秋山村木	畑	
31	〃	縄	上の山遺跡	居倉上の山	畑・墓地 屋敷	
32	〃	縄	笹目木遺跡	〃 中原	畑	
33	包蔵地	平	姥ケ瀞遺跡	居倉うばがとろ	〃	
34	〃	平	花の木沢遺跡	大深山花の木沢	〃	
35	〃	縄・平	宮下遺跡	〃 宮下	畑・宅地 墓地	
36	〃	先・平	青木の平遺跡	原青木の平	畑	
37	〃	先・縄・平	詰堀遺跡	原詰堀	〃	
38	〃	縄・平	蕨窪遺跡	御所平蕨窪	〃	
39	散布地	縄	浜場遺跡	〃 浜場	〃	
40	包蔵地	先	東森遺跡	〃 東森	〃	
41	〃	縄	三沢遺跡	〃 三沢	山林・道路	
42	〃	先・縄	大平遺跡	樋沢大平	牧場	
43	〃	先・縄・平	日影遺跡	〃 日影	畑	
44	〃	先・縄	坂上遺跡	〃 坂上	〃	
45	〃	先・縄 弥・平	立石遺跡	〃 立石	〃	
46	〃	先・縄 弥・平	久保遺跡	〃 久保	〃	
47	散布地	先・縄	戦場ケ原遺跡	梓山戦場ケ原・横道	〃	

（先—先土器時代・縄—縄文時代・弥—弥生時代・平—平安時代・中—中世）

遺跡番号	1	遺跡名	二本木	遺跡の種類	包蔵地	部落名	梓山
地目	山林	面積	1,000m²	時代	縄文	調査年月日	58年11月16日

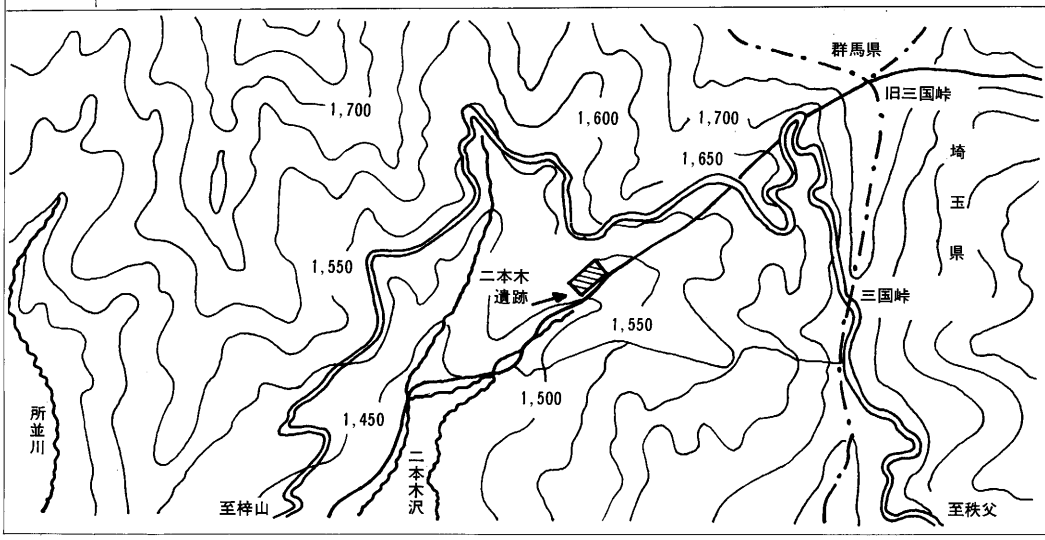
所在地・土地所有者	字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
	二本木	6－1	川上村			

遺物		
	採集遺物	黒曜石片5・チャート1 土器細片1
	既出遺物	昭和41年8月早稲田大学桜井清彦氏が発掘調査，土器細片1 石鏃(黒曜石)13,(内6点は局部磨製)不定形剝片石器5,(早稲田大学所蔵)

位置 地形 環境

千曲川の最上流梓山部落からさらに約2kmさかのぼり，それより支流二本木沢について，三国峠の旧道を約1,200mのぼった標高1,530m，南面する緩傾斜地に存在する。三国峠（旧峠）の頂上まではあと1kmの上りである。頂上に立てば北は群馬県多野郡，上野村，東は埼玉県秩父郡大滝村である。

遺跡の下方比高約10mの二本木沢の底には，谷川の水が流れている。遺跡は旧道をはさんで，比較的小範囲のものと思われる。付近は現在カラマツ林におおわれている。



1　二本木遺跡

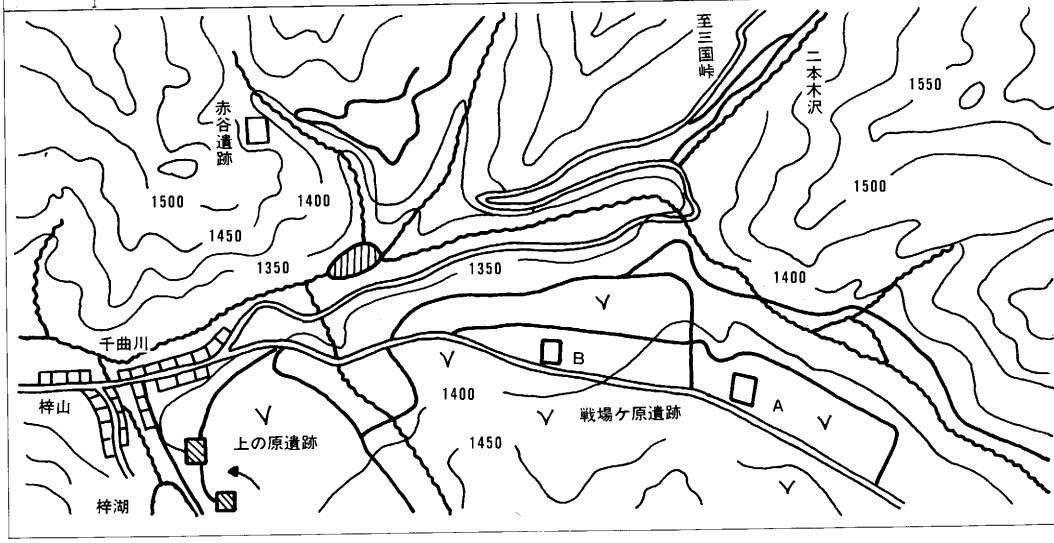
下は三国峠古道

遺跡番号	2	遺跡名	上の原	遺跡の種類	包蔵地	部落名	梓山
地目	畑	面積	6,000m²	時代	先土器 縄文	調査年月日	58年11月16日

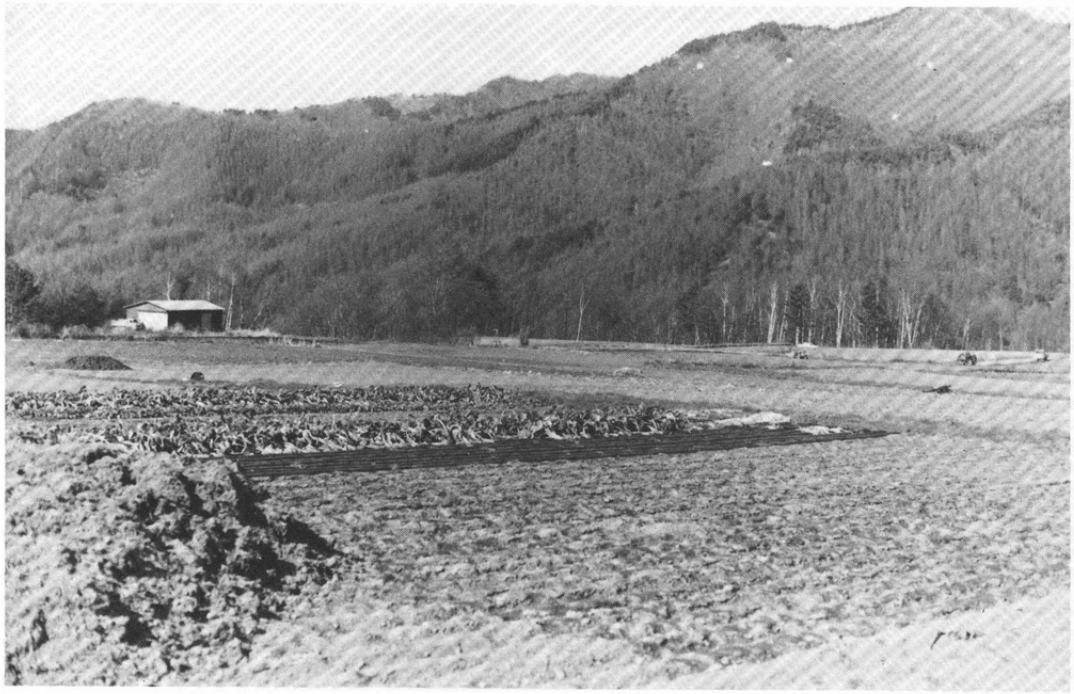
所在地・土地所有者	字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
	上の原西	432－3	風間春雄			
	〃	433－1	伊藤栄次			
	北坂上	426	高橋滝雄			

遺物		
	採集遺物	
	既出遺物	上の段…黒曜石・チャートのスクレーパー（関決次所蔵） 北坂上…黒曜石の石鏃１点（高橋滝雄採取）

位置 地形 環境	
	千曲川と梓川の合流点、梓山部落の南東の台地上の西端に位置する。東は広大な戦場ケ原の台地に連なり、西は比高50ｍの段丘下に梓湖があり、その北に梓山部落がつづいている。海抜1,360ｍ西北に緩傾斜する段丘面は現在は高原野菜畑で、遺跡は全面厚い客土がなされ、表面採取は困難である。



2　上の原遺跡



遺跡番号	3	遺跡名	しだみじゅく	遺跡の種類	包蔵地	部落名	居倉
地目	畑	面積	10,000㎡	時代	平安	調査年月日	58年11月17日

所在地・土地所有者

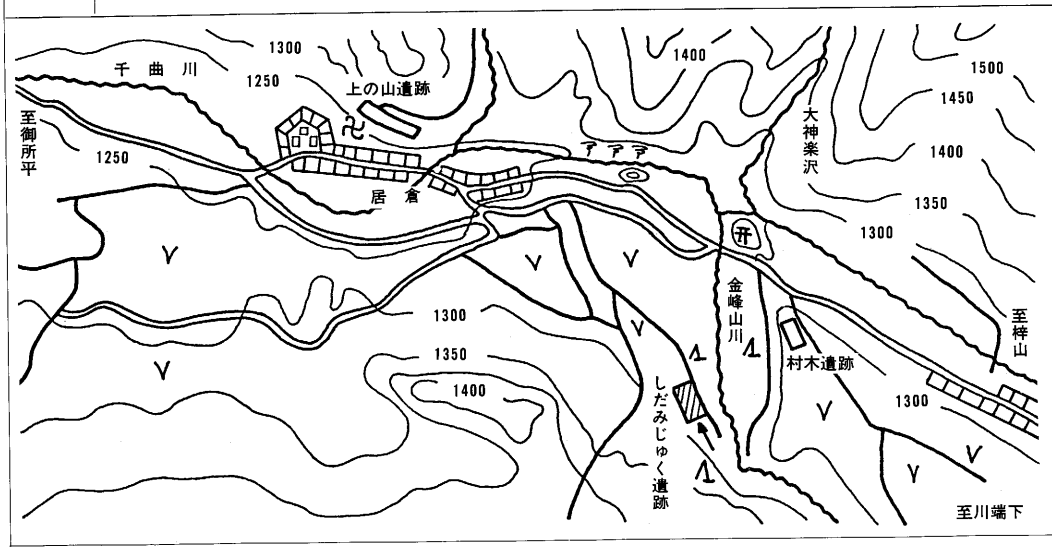
字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
しだみじゅく	59	伊藤嘉武			
〃	62	〃			
〃	96	田口吏夫			
〃	104	〃			
〃	107	〃			

遺物

採集遺物	
既出遺物	土師器・須恵器（由井港所蔵）

位置 地形 環境

金峰山川の千曲川合流点から、金峰山川左岸について、約700mさかのぼった狭い台地状の緩傾斜地にあったが、現在畑地造成で削平されてしまったので、遺物の採集は困難である。ここはもと金峰山登山の旧道にあたっていた。須恵器は大型の甕形の破片である。



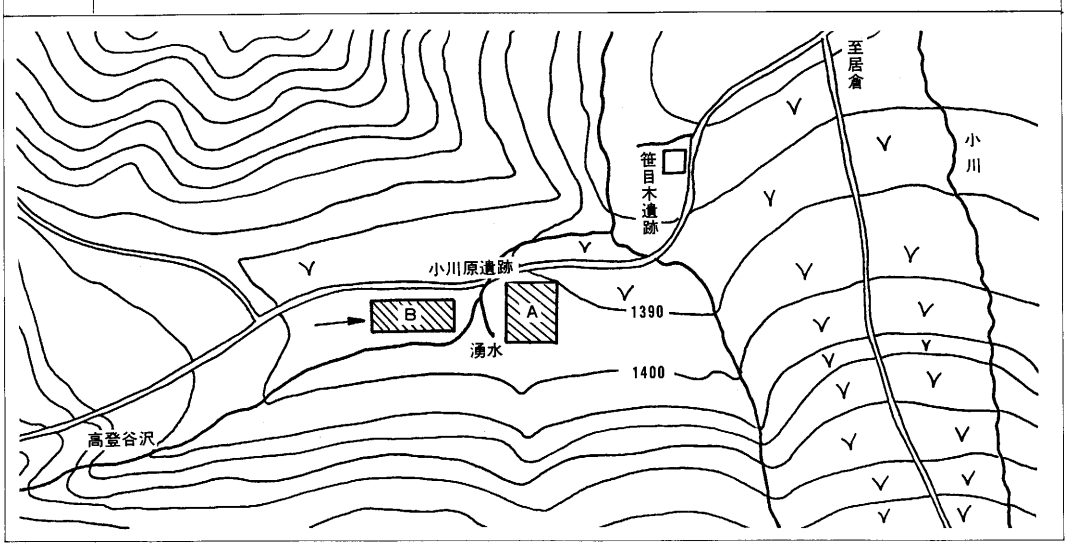
3　しだみじゅく遺跡

遺跡番号	4	遺跡名	小川原	遺跡の種類	包蔵地	部落名	居倉
地目	畑	面積	7,000㎡	時代	縄文	調査年月日	58年11月17日

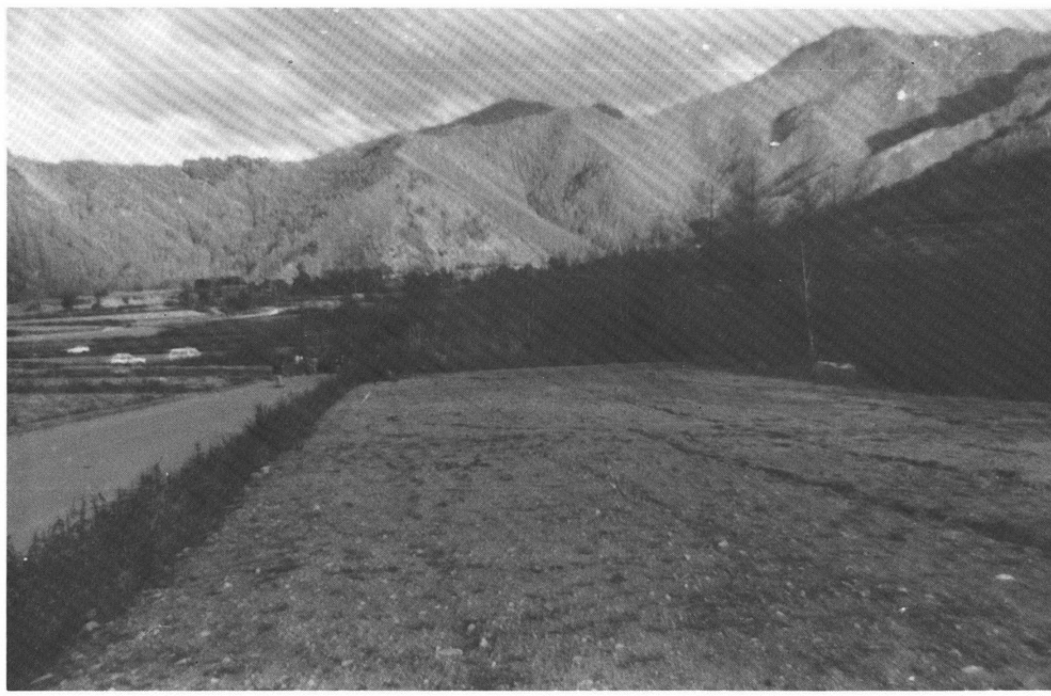
所在地・土地所有者	字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
	横川	38	古原哲人			
	原越路	11－イ	原信夫			

遺物		
	採集遺物	
	既出遺物	A地点…縄文中期土器 B地点…諸磯B式土器（由井満・居倉老人会所蔵）

位置 地形 環境	
	高登谷山の東北、標高1,390mの広い高原性台地で、高登谷沢の川をはさんで、A（横川）、B（原越路）2地点が接している。A地点の上部には豊富な湧水があり、B地点の南側は高登谷沢川が流れている。現在は全面客土が行われていて、表面採集はできない。



4　小川原遺跡



遺跡番号	5	遺跡名	上の段	遺跡の種類	包蔵地	部落名	大深山
地目	畑・神社 考古館・墓地	面積	10,000㎡	時代	縄文 平安	調査年月日	58年11月21日

所在地・土地所有者

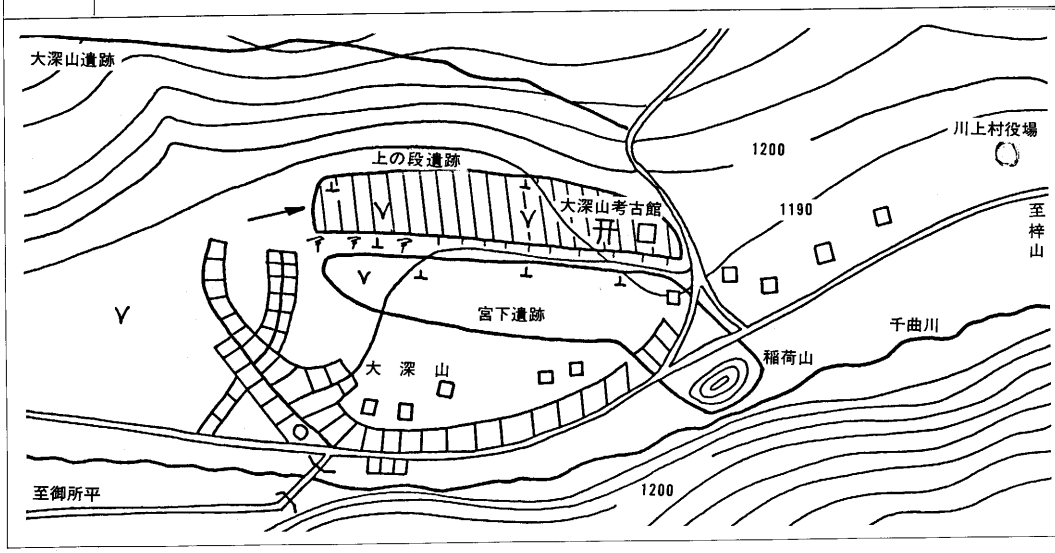
字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
東上の段	640	中島治平	西上の段	821	篠原安穂
	750	由井亮治		828	由井港
	751	大深山区		829	篠原庄一
	749・752	古宮神社境内		830	篠原政雄
	755	菊池盛雄		831	日向明人
	756	由井康久		832	藤原六嗣郎
	762・763	原忠一		834	〃
	757のイ	中島幸太		833	〃
	(：)	中島恒夫		835	原梅吉
	757のロ	中島文彦			
	758	〃			
	761	篠原正水			
	759	由井治			
	760	篠原正水			

遺物

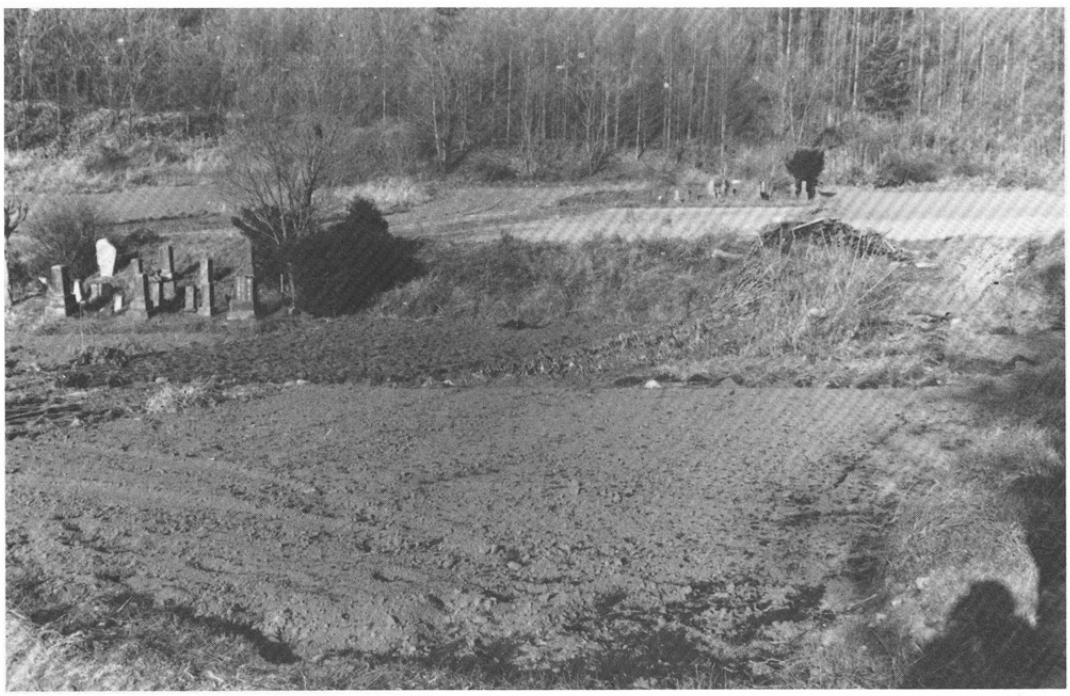
採集遺物	打石斧
既出遺物	縄文…勝坂式・加曽利E式・堀ノ内・加曽利B式、石鏃・打石斧・石棒・磨石・敷石、土師・須恵・灰釉（由井港・篠原正水・大深山考古館所蔵）

位置地形環境

大深山部落の北側山麓に添う段丘上に位置し、南面して日当たりよく、湧水もある。大深山考古館・古宮神社境内を含んで、その西方、段丘上段一帯の畑地に及ぶ。考古館建設時にも土器・石器を出土し、神社境内にはなお多く埋蔵されている。耕作中に住居の敷石と思われるものが数個発見されている。



5　上の段遺跡



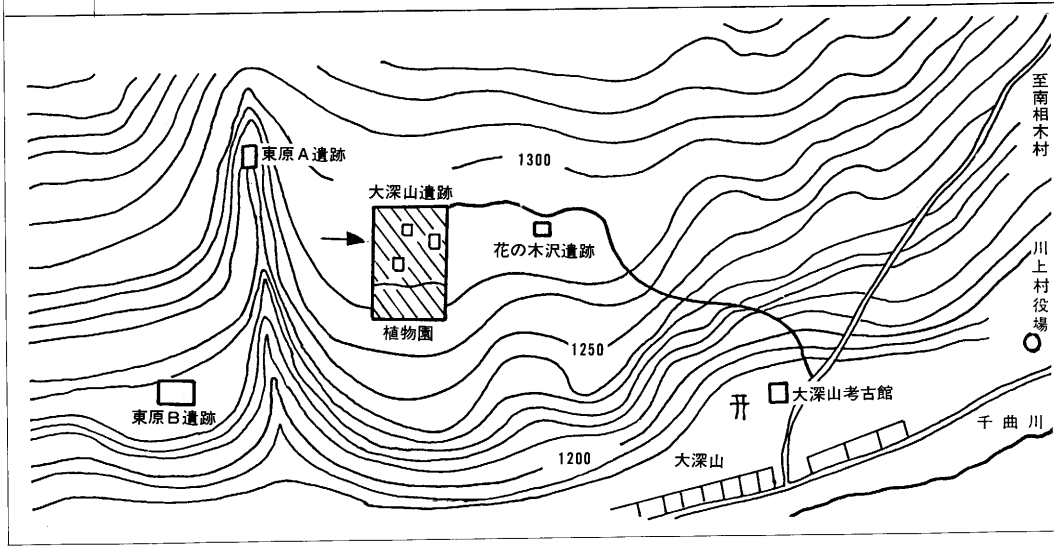
遺跡番号	6	遺跡名	大深山	遺跡の種類	国指定史跡	部落名	大深山
地目	史跡公園	面積	10,000	時代	縄文中期	調査年月日	58年11月21日

所在地・土地所有者	字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
	西原		川上村			

遺物		
	採集遺物	
	既出遺物	縄文中期住居址51・配石遺構・勝坂・加曽利E(曽利)・堀ノ内、石棒・石皿・打製石斧・磨製石斧・石槍・石鏃・石匙、土製耳飾・土偶(大深山考古館所蔵)

位置 地形 環境

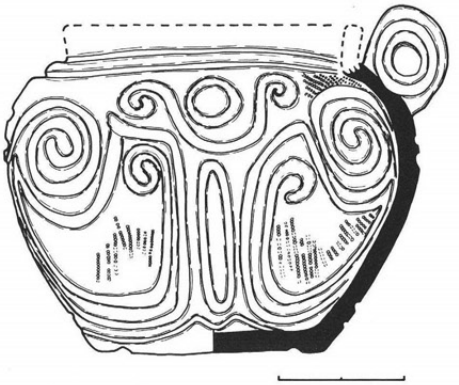
千曲川畔大深山部落の北方、比高120mの南面する台地上にある。うしろに天狗山(1,882m)を負い、千曲川を前面にした標高1,300mの緩傾斜の台地で、西方に深さ10mの沢を隔てて、東原A遺跡(縄文早期)がある。周囲は山林で自然がよく保存されている。昭和28年から数次にわたって発掘調査が行われてその全容が明らかにされ昭和41年国史跡に指定された。出土品は大深山考古館に保存展示されている。遺跡には復原住居3棟等があり、植物園もつくられている。



6　大深山遺跡

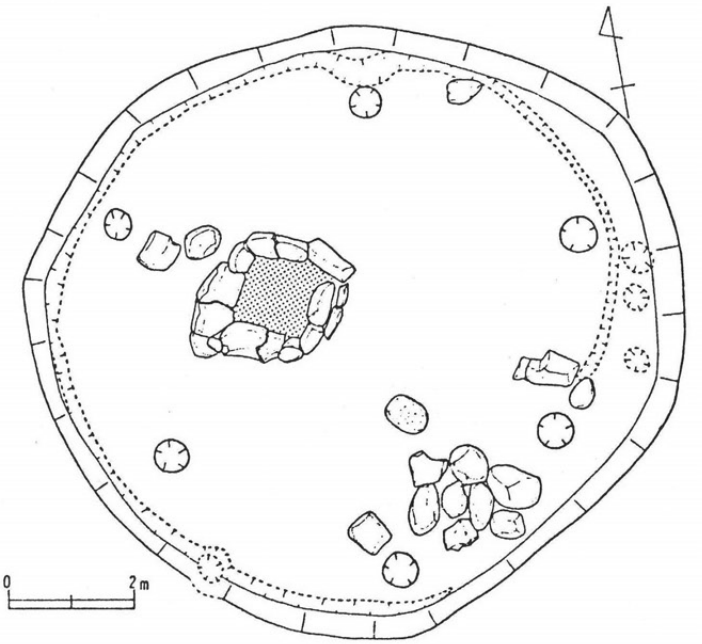
住居址と復原家屋

5　上の段遺跡



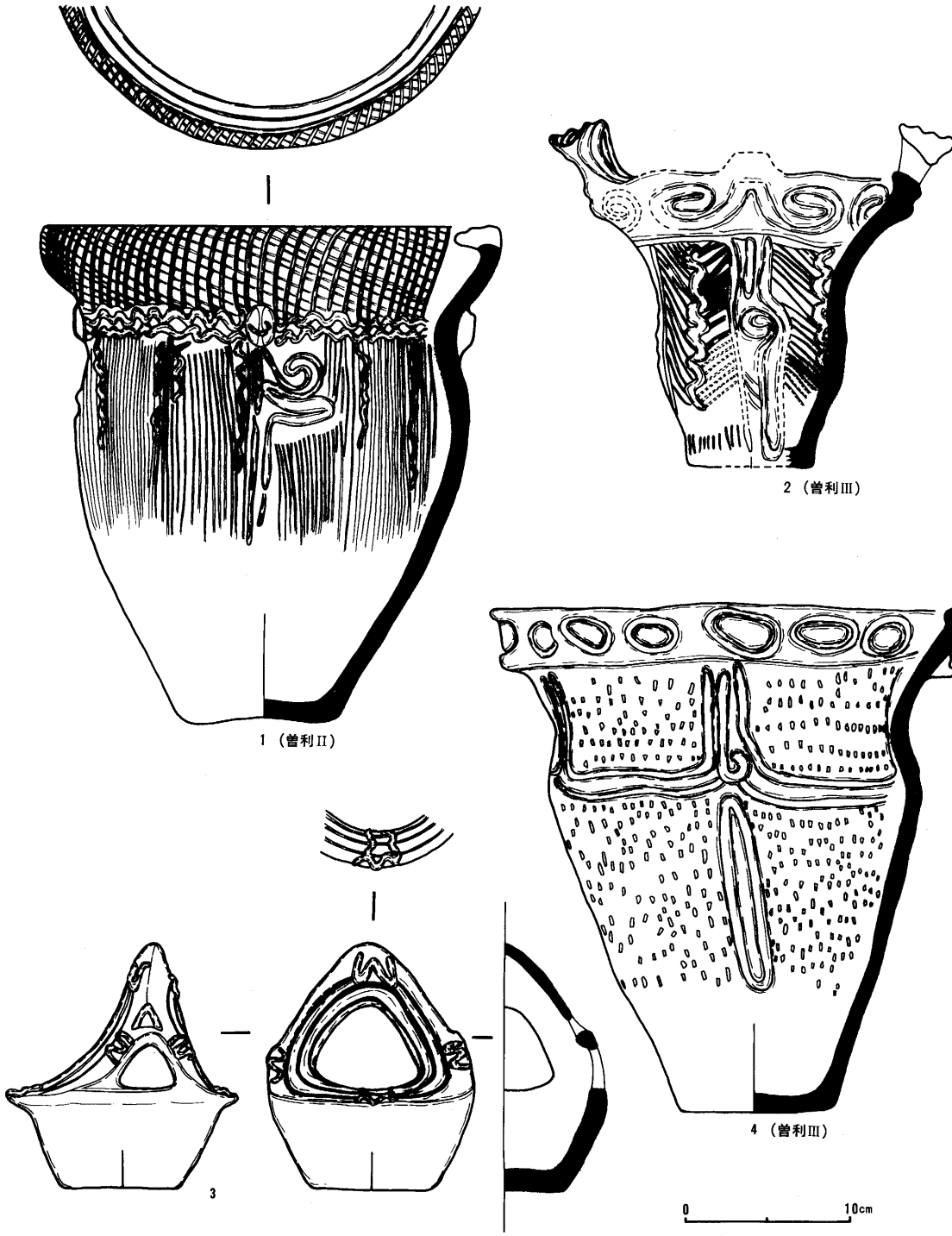
第２図　上の段遺跡出土土器実測図（１：３）
（由井茂也所蔵）

6　大深山遺跡



第25号住居址実測図

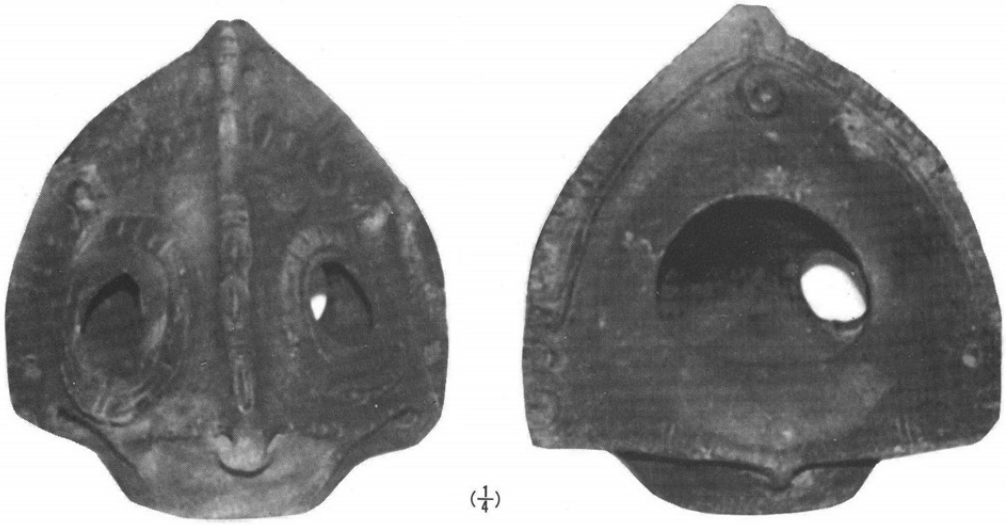
註）八幡一郎「信濃大深山遺跡」川上村教育委員会1976



第３図　大深山遺跡第25号住居址出土土器実測図（１：４）
（大深山遺跡考古館所蔵）

大深山遺跡第25号住居址出土土器

第15号出土の香炉形土器



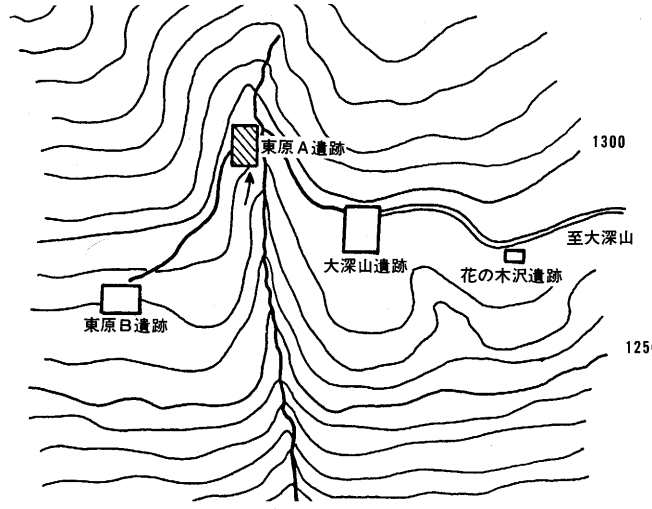
遺跡番号	7	遺跡名	東原A	遺跡の種類	包蔵地	部落名	原
地目	山林	面積	1,000m²	時代	縄文	調査年月日	58年11月21日

所在地・土地所有者	字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
	東原	1,454	新海世織			

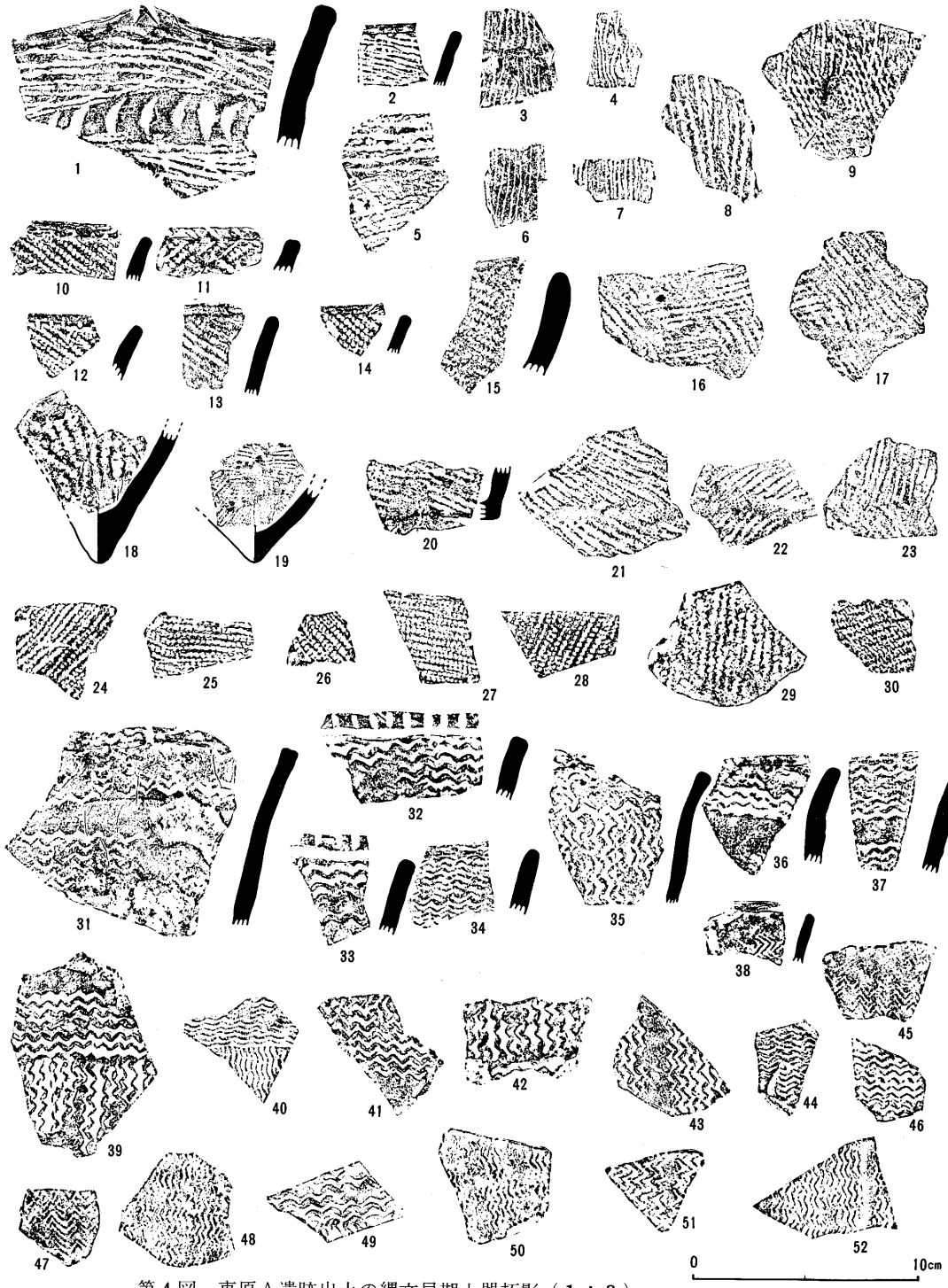
遺物		
	採集遺物	縄文中期土器片
	既出遺物	縄文早期（尖底・押型・撚糸）土器、中期土器、住居址3 （大深山考古館・由井港所蔵）

位置 地形 環境

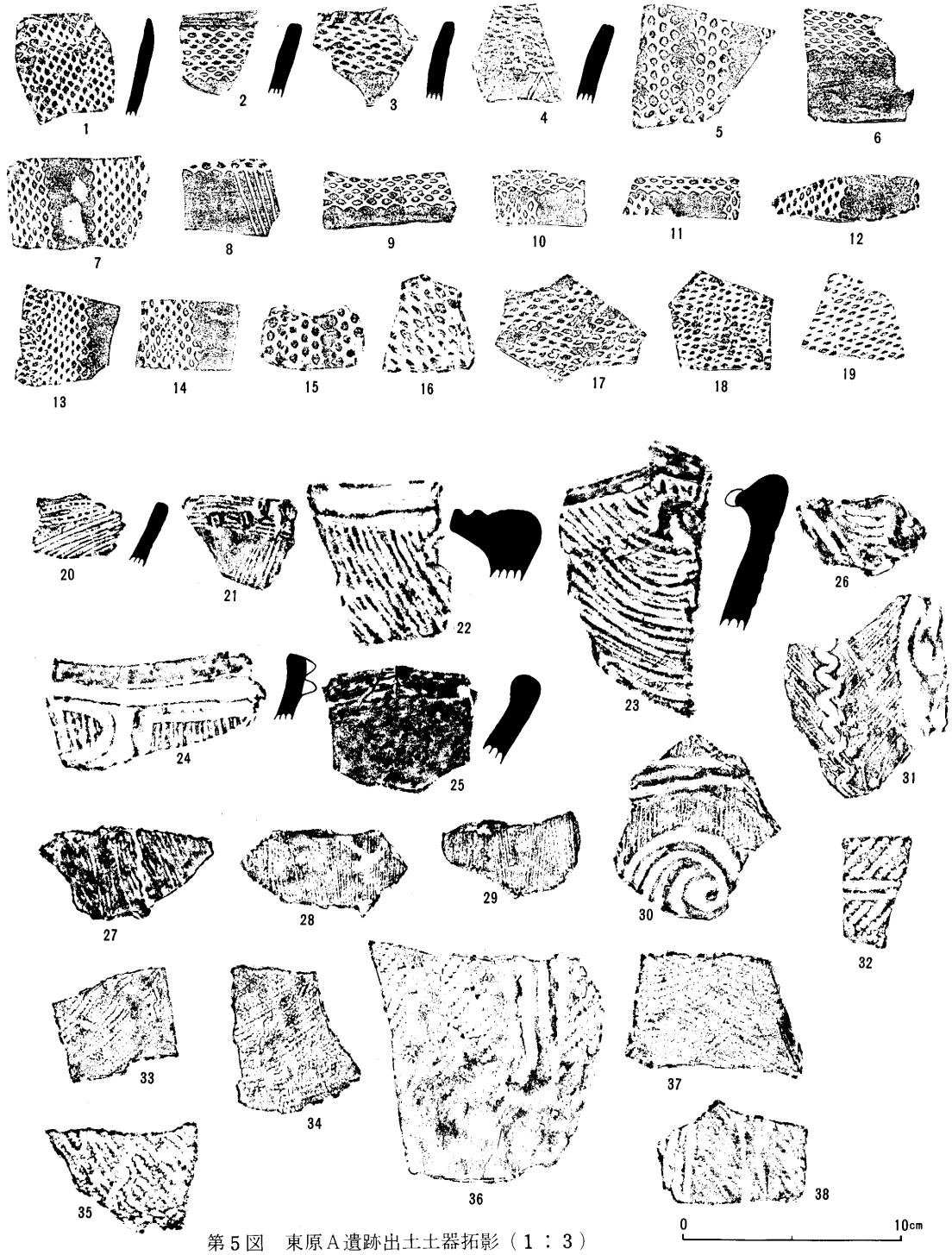
大深山遺跡の西、深さ約10mの東原沢（標高1,280m）の沢の西側の緩斜面にある。沢の底には渓流が流れている。南西250mに東原B遺跡がある。
従来「東原遺跡」とされていたが、今回の調査で、同字の中に新遺跡が確認されたので「東原A遺跡」と名称を改める。



7　東原A遺跡

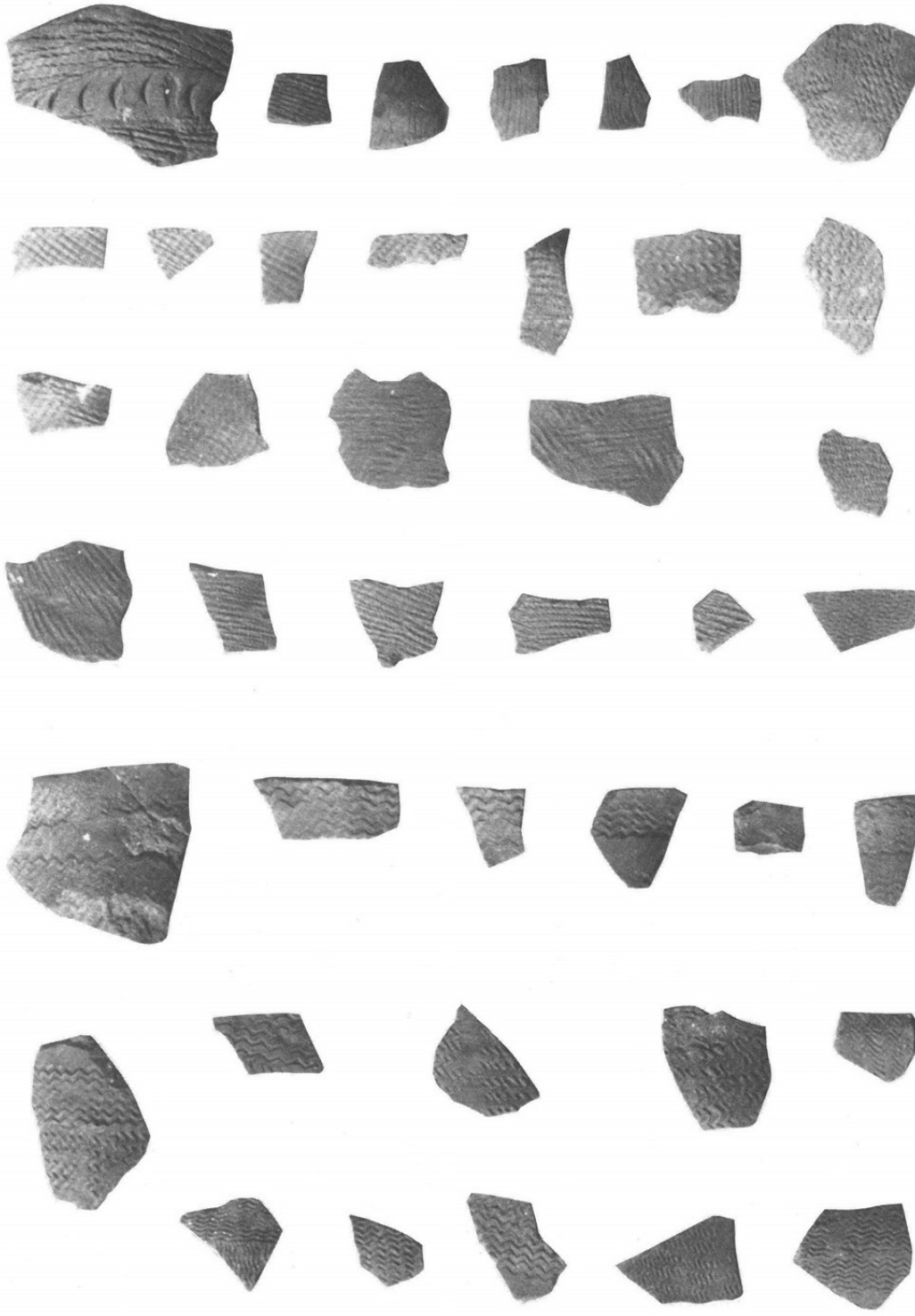


第４図　東原Ａ遺跡出土の縄文早期土器拓影（１：３）
（撚糸文１～９、斜縄文10～30、山形押型文31～52）
（大深山考古館蔵）

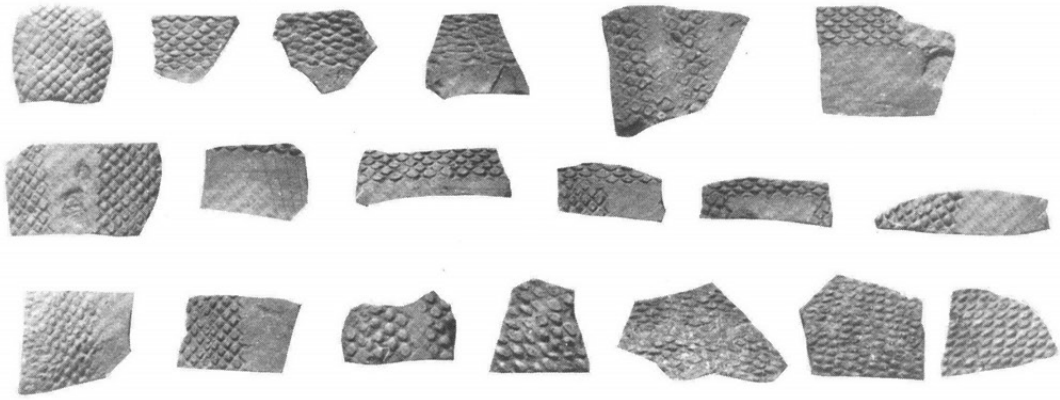


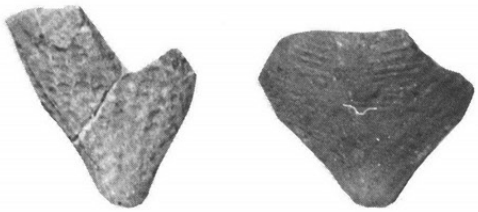
第５図　東原Ａ遺跡出土土器拓影（１：３）
（１～19 楕円押型文、20～21 諸磯Ｃ式、22～38 縄文中期後半の土器）
（１～19 楕円押型文、20～21 諸磯Ｃ式、22～38 縄文中期後半の土器）
（大深山考古館蔵）

7　東原Ａ遺跡出土土器（$\frac{1}{3}$）



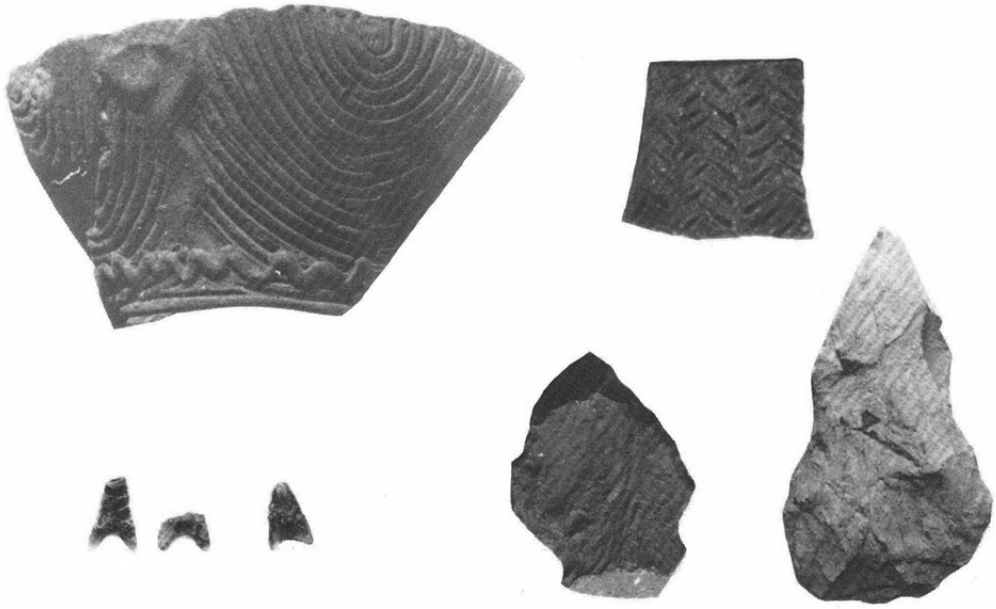
7　東原Ａ遺跡出土土器（$\frac{1}{3}$）





尖底土器（$\frac{1}{2}$）

8　水の元遺跡採集遺物（約$\frac{1}{3}$）



遺跡番号	8	遺跡名	水の元	遺跡の種類	包蔵地	部落名	原
地目	畑	面積	15,000m²	時代	縄文・平安	調査年月日	58年11月18日

所在地・土地所有者

字名	地番	氏名
水の元	857	新海善一
	858	渡辺弥高
	860	渡辺昭実
	861	渡辺六三
	862	新海善一
	863	由井正文
	867・870	渡辺喜郷
	871	井出有文

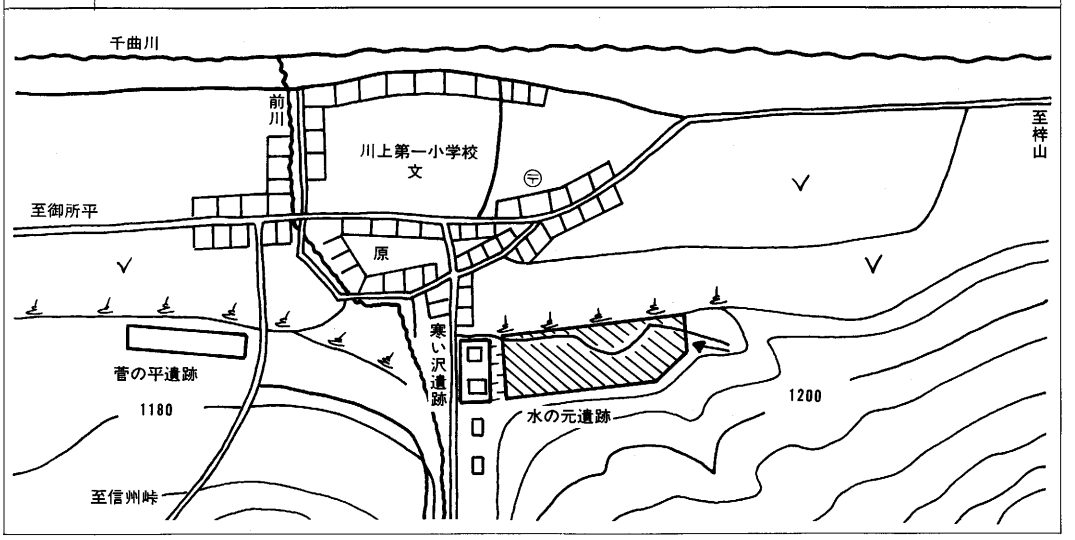
字名	地番	氏名

遺物

採集遺物	
既出遺物	縄文時代　打石斧・石匙・石鏃、土師器（平安時代） 〃　中期土器（曽利式）　（由井茂也・新海ゆき子所蔵）

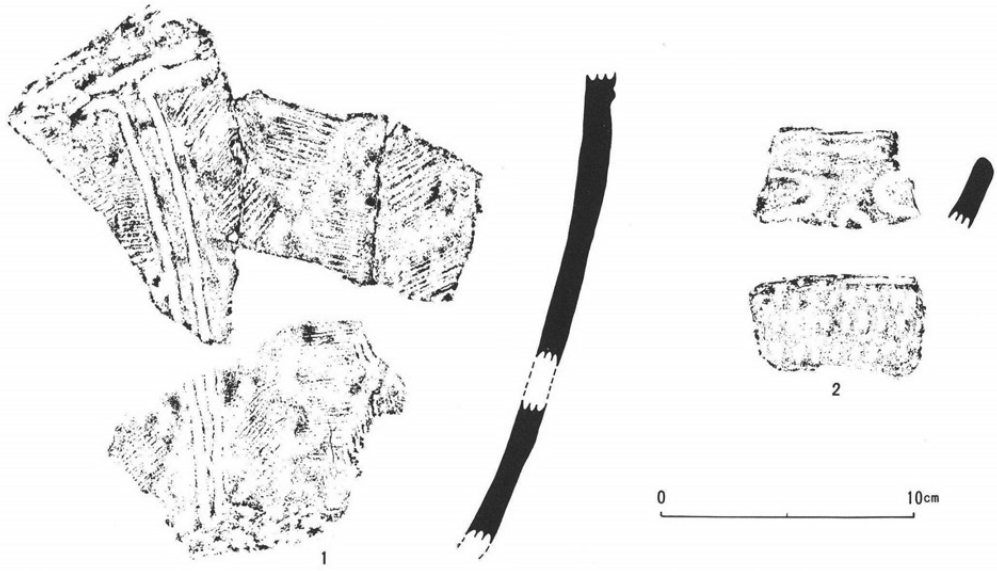
位置 地形 環境

原部落の南方、比高約10mの山麓台地上に位置する。西は北流する前川の段丘崖によって限られている。段丘崖下と前川の間の屋敷地は、縄文中期の寒い沢遺跡である。
南方山ぎわの斜面をけずって一帯の平担な畑地としている。全面に厚い客土が行われている。



8　水の元遺跡

第６図　水の元遺跡採集土器拓影（１：３）（新海ゆき子氏所蔵）



第７図　寒い沢遺跡採集土器拓影（１：３）（由井茂也氏所蔵）

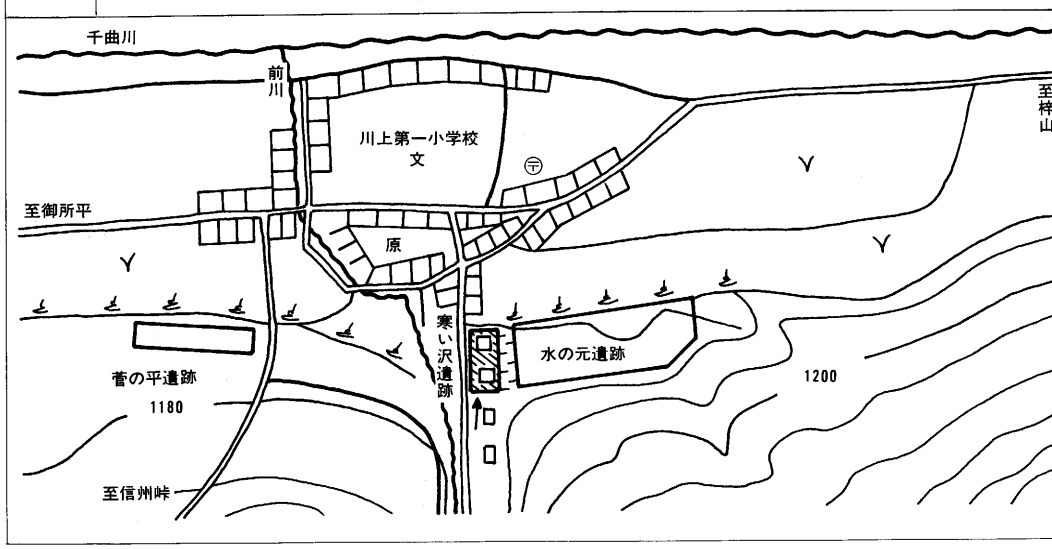
遺跡番号	9	遺跡名	寒い沢	遺跡の種類	包蔵地	部落名	原
地目	宅地	面積	1,500m²	時代	縄文	調査年月日	58年11月18日

所在地・土地所有者	字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
	寒い沢	857	新海善一			
	〃	859	渡辺弥高			

遺物		
	採集遺物	
	既出遺物	縄文中期　（由井茂也所蔵）

位置 地形 環境

原部落の南方、前川（高登谷山麓から北流して原部落の北方で千曲川に注ぐ）の氾濫原に位置する遺跡である。東方台地上の水の元遺跡の西端の段丘崖下にあって、新海善一・渡辺弥高両氏の宅地を中心とする。前川右岸の比較的小範囲に限られるものと考えられる。遺物は村営水道工事の際地下より出土した。



9　寒い沢遺跡

住宅の敷地となっている

遺跡番号	10	遺跡名	菅の平	遺跡の種類	包蔵地	部落名	原
地目	畑	面積	15,000m²	時代	先土器・縄文	調査年月日	58年11月18日

所在地・土地所有者

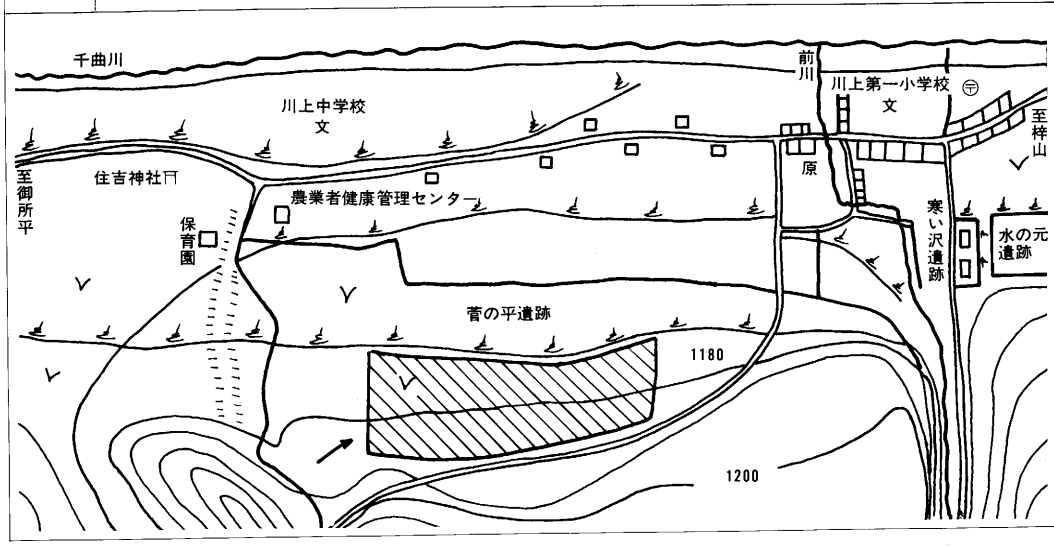
字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
菅の平	392	菊原源義	菅の平	408	中島寿助
	393	菊原甲子太郎		409	渡辺源広
	394	井出通		421	渡辺健一
	398	〃		422	〃
	399	井出光男		423	渡辺文雄
	400	井出隆徳		424	〃
	406	林保夫		437	〃
	405	〃		438	渡辺健一
	407	篠原彰一			

遺物

採集遺物	
既出遺物	ポイント・ナイフ形石器・スクレーパー・不定型石器・石鏃 （由井茂也・由井明・由井一昭所蔵）

位置 地形 環境

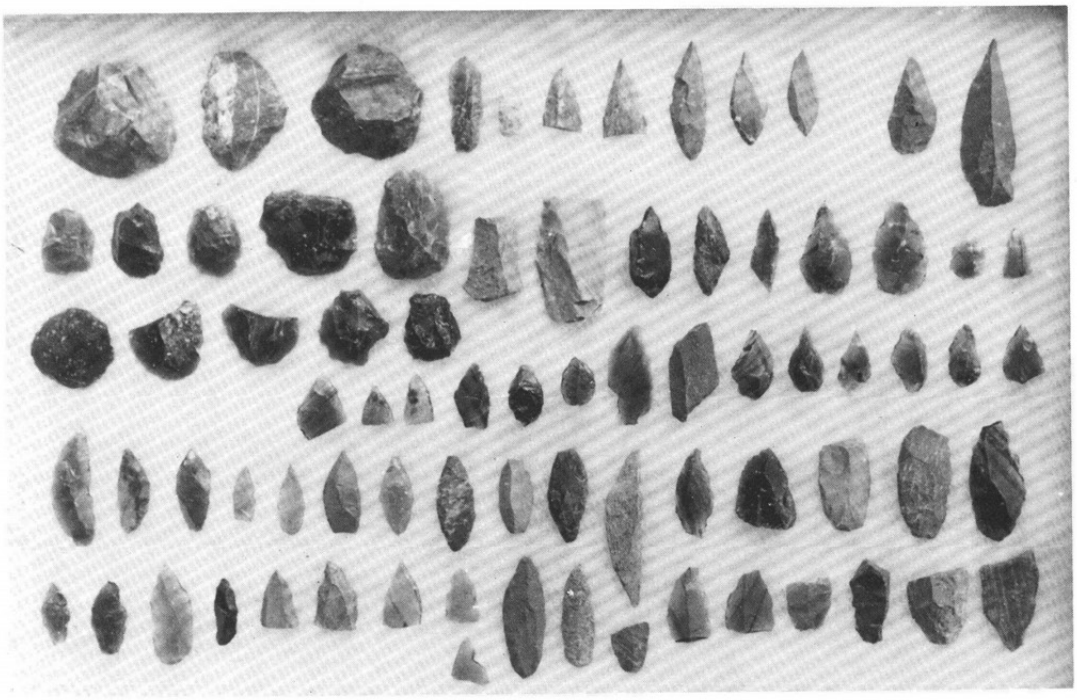
原部落の西方、川上中学校との間の県道の南側、千曲川にそって雛段のようにならぶ段丘の第三段丘上に位置する、段丘中央を縦断する農道をはさんで遺物出土地が分布する。標高1,170m、東方の前川右岸には寒い沢遺跡と水の元遺跡がある。西方段丘上には馬場平、詰堀の両遺跡がつづいている。農地改良のため客土が全面に行われている。

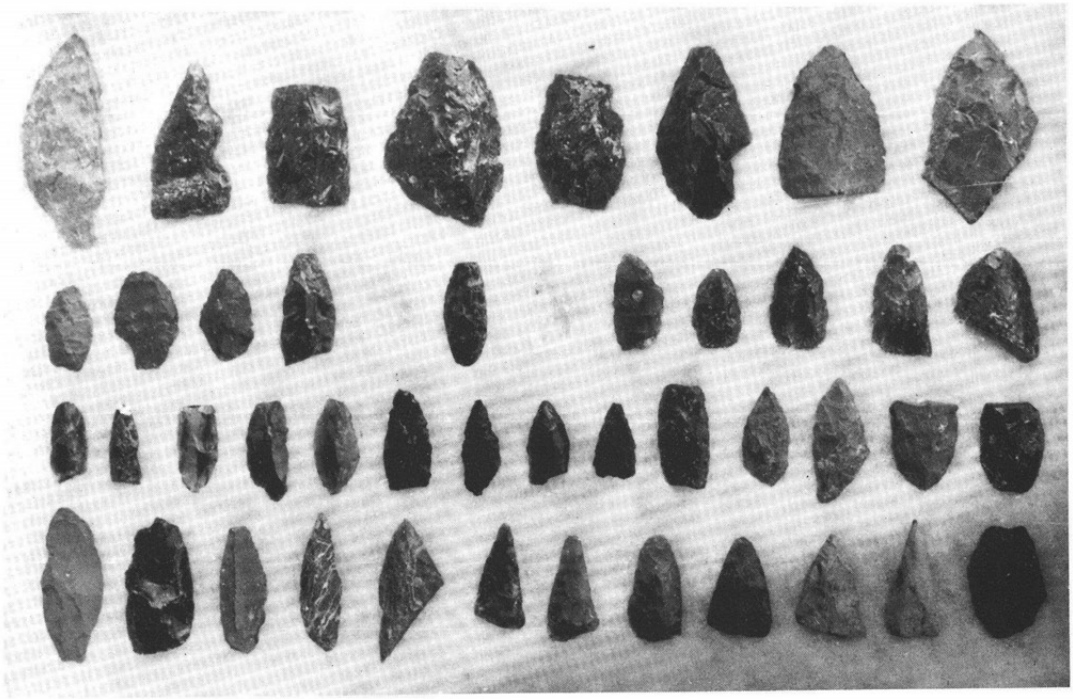


10 菅の平遺跡

10　菅の平遺跡採集石器（$\frac{1}{3}$）

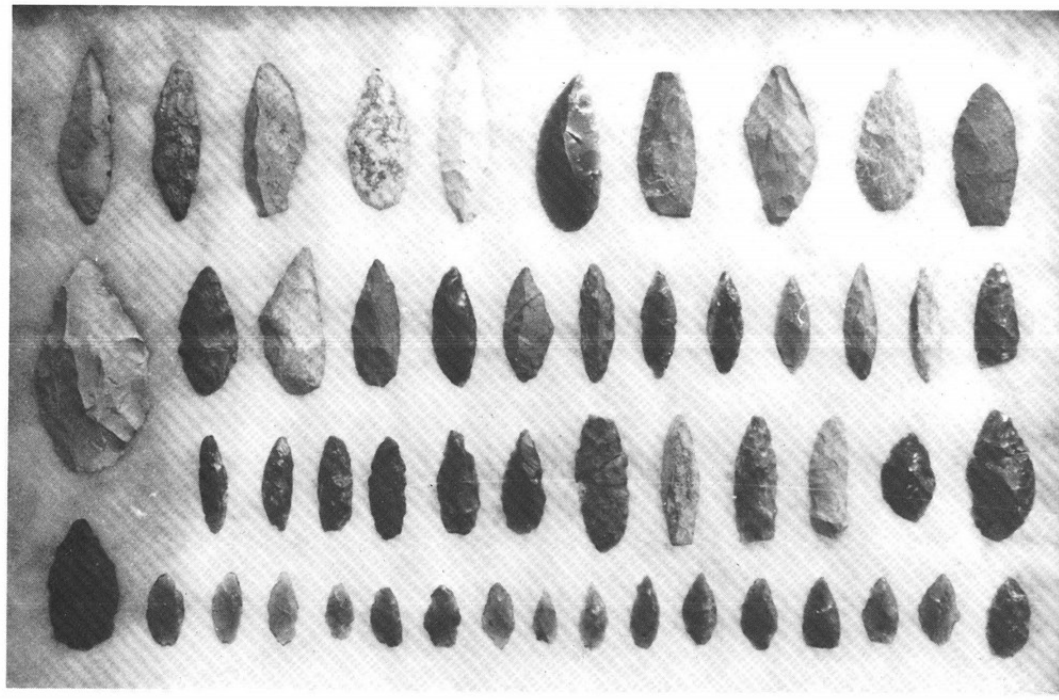
由井一昭所蔵

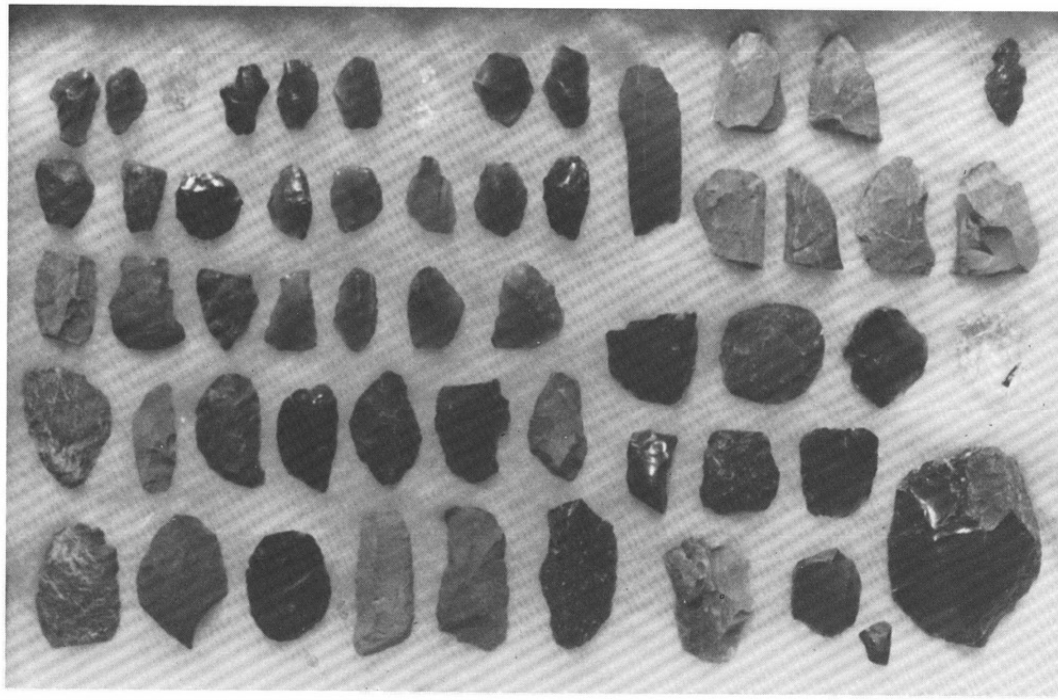




10　菅の平遺跡採集石器（$\frac{1}{3}$）

由井一昭所蔵





遺跡番号	11	遺跡名	馬場平	遺跡の種類	包蔵地	部落名	御所平
地目	畑	面積	5,000m²	時代	先土器・弥生	調査年月日	58年11月18日

所在地・土地所有者

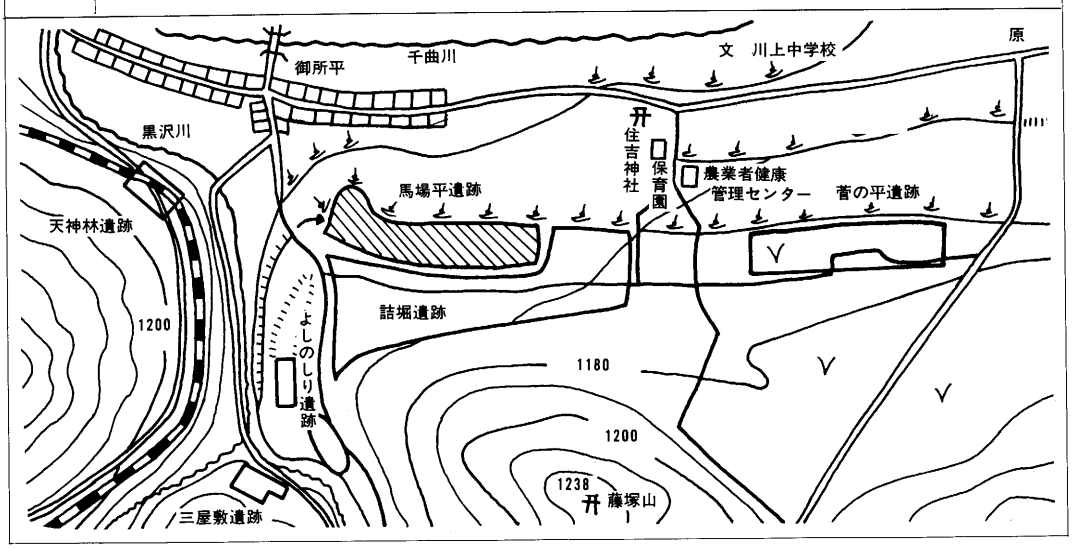
字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
馬場平	1,435	由井主計			
	1,436	由井近江			
	1,437	由井茂璞			
	1,438	由井富次郎			
前の山		由井庸云			

遺物

採集遺物	ポイント（頁岩製）1
既出遺物	ポイント・スクレイパー・ナイフ形石器・礫群遺構・弥生磨製石鏃3 （明治大学・由井茂也・由井明・由井一昭・由井祐太郎蔵）

位置 地形 環境

御所平部落の東方、住吉神社境内の森の南方の第三段丘上に位置する。広い一帯の段丘面の西北端の馬場平、前の山地籍にわたる比較的狭い範囲である。馬場平遺跡の東から南をとり囲んで字詰堀地籍で詰堀遺跡となっている。石器の出土は古くから知られていたが、昭和28年、明治大学芹沢長介氏によって尖頭器がローム層中より出土することが確認された学史的な重要遺跡である。

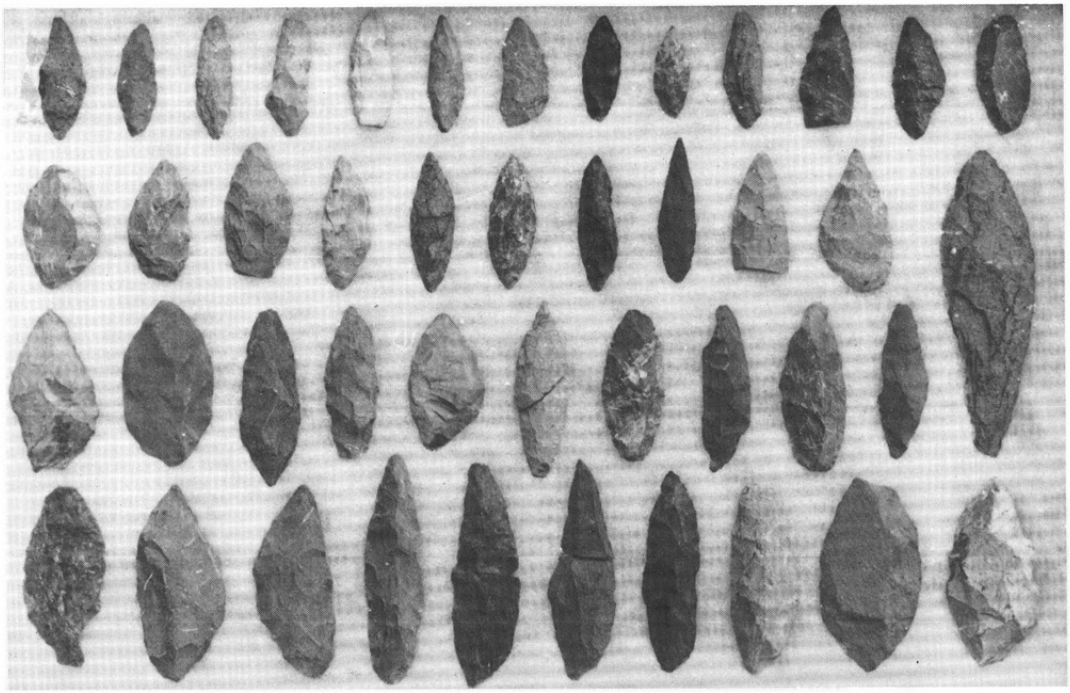


11 馬　場　平

11　馬場平遺跡出土石器（$\frac{1}{3}$）

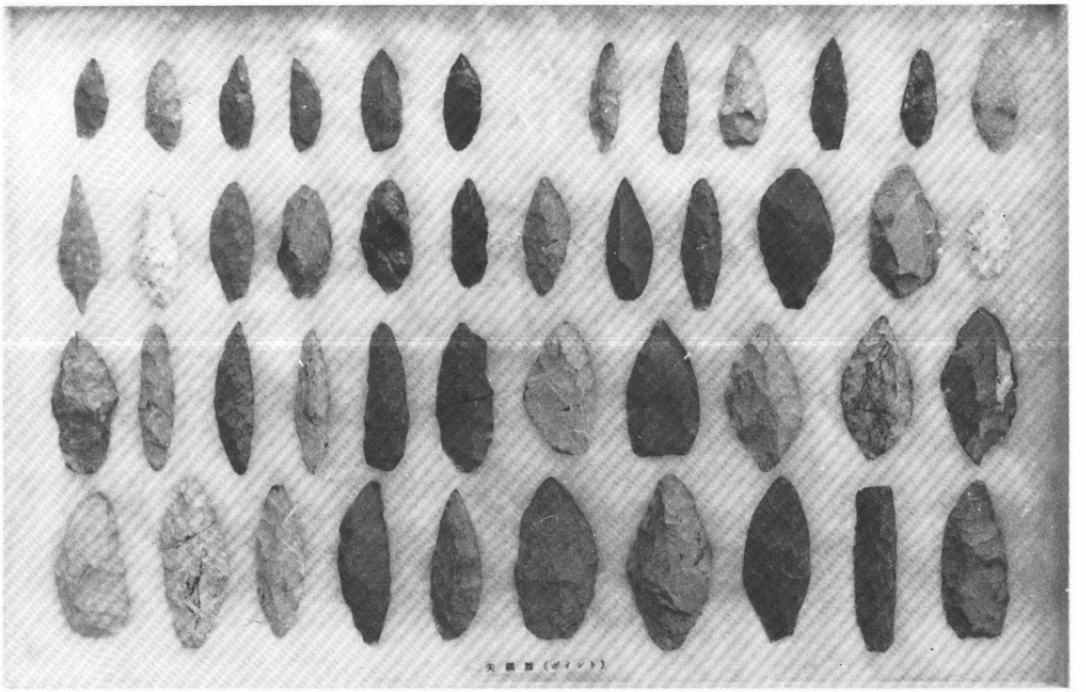
由井裕太郎所蔵

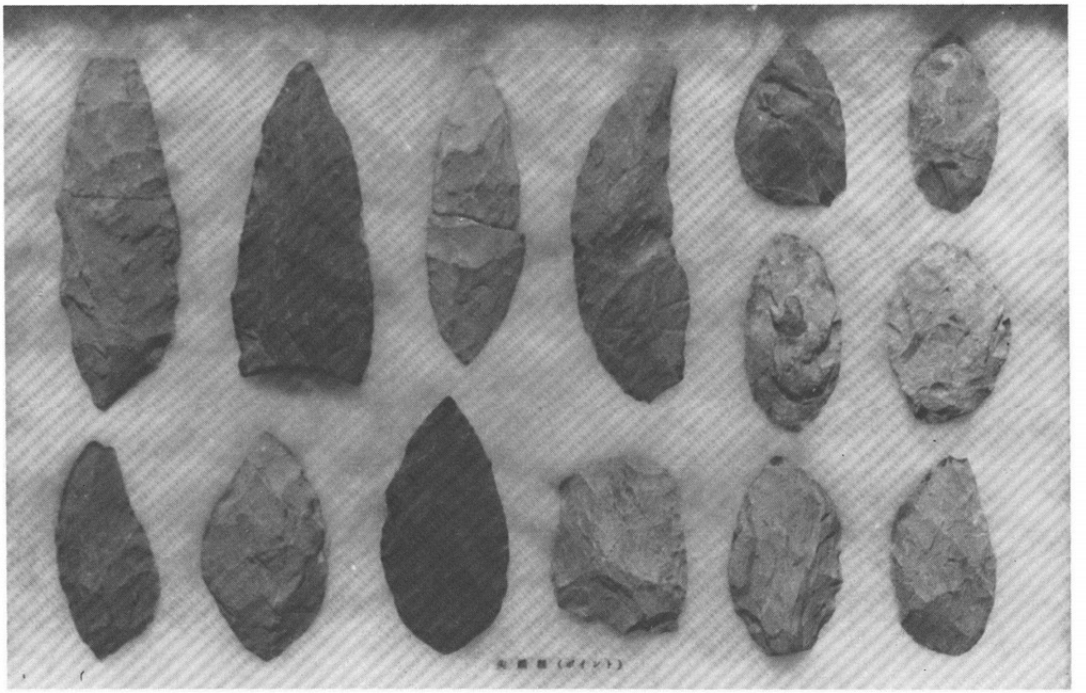
由井一昭氏所蔵



11　馬場平遺跡出土石器（$\frac{1}{3}$）

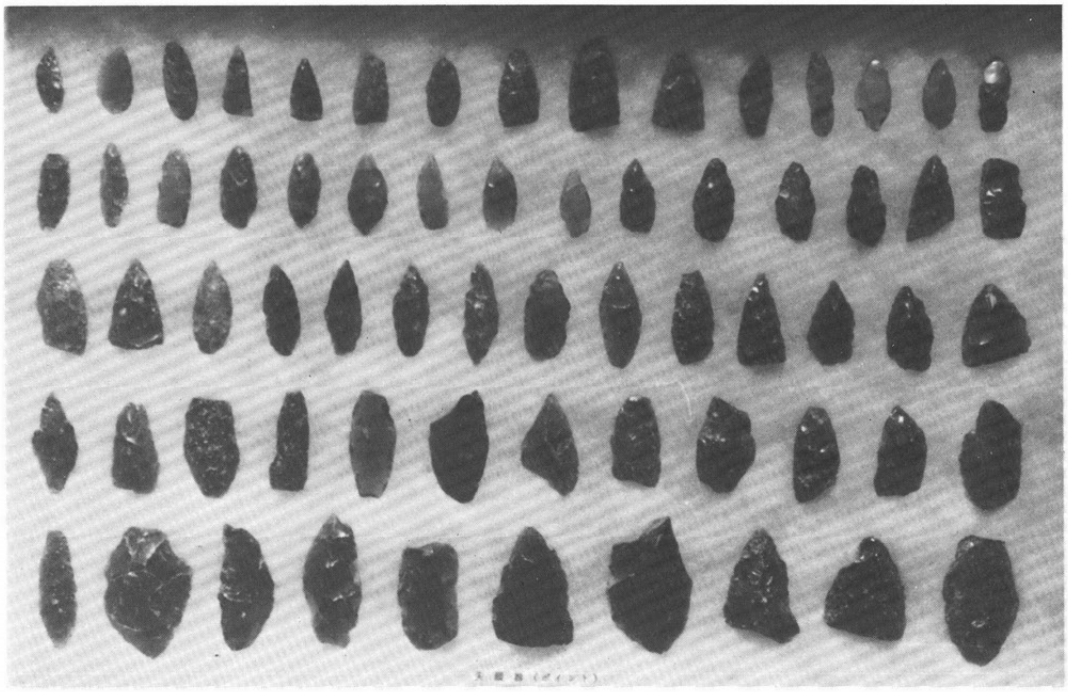
由井一昭所蔵





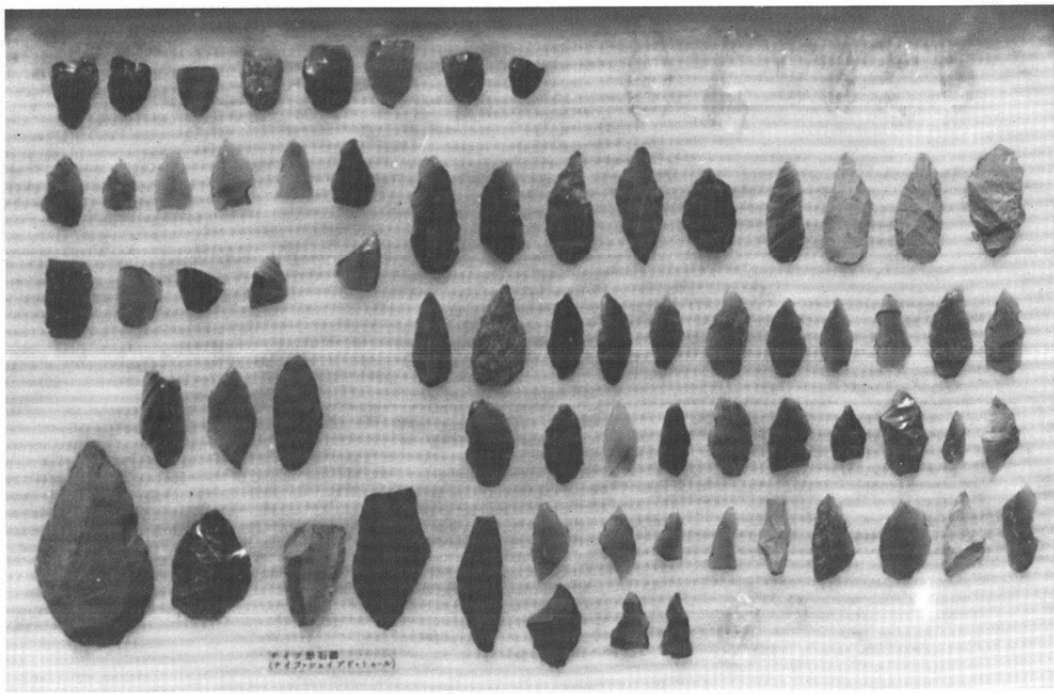
11　馬場平遺跡採集石器（$\frac{1}{3}$）

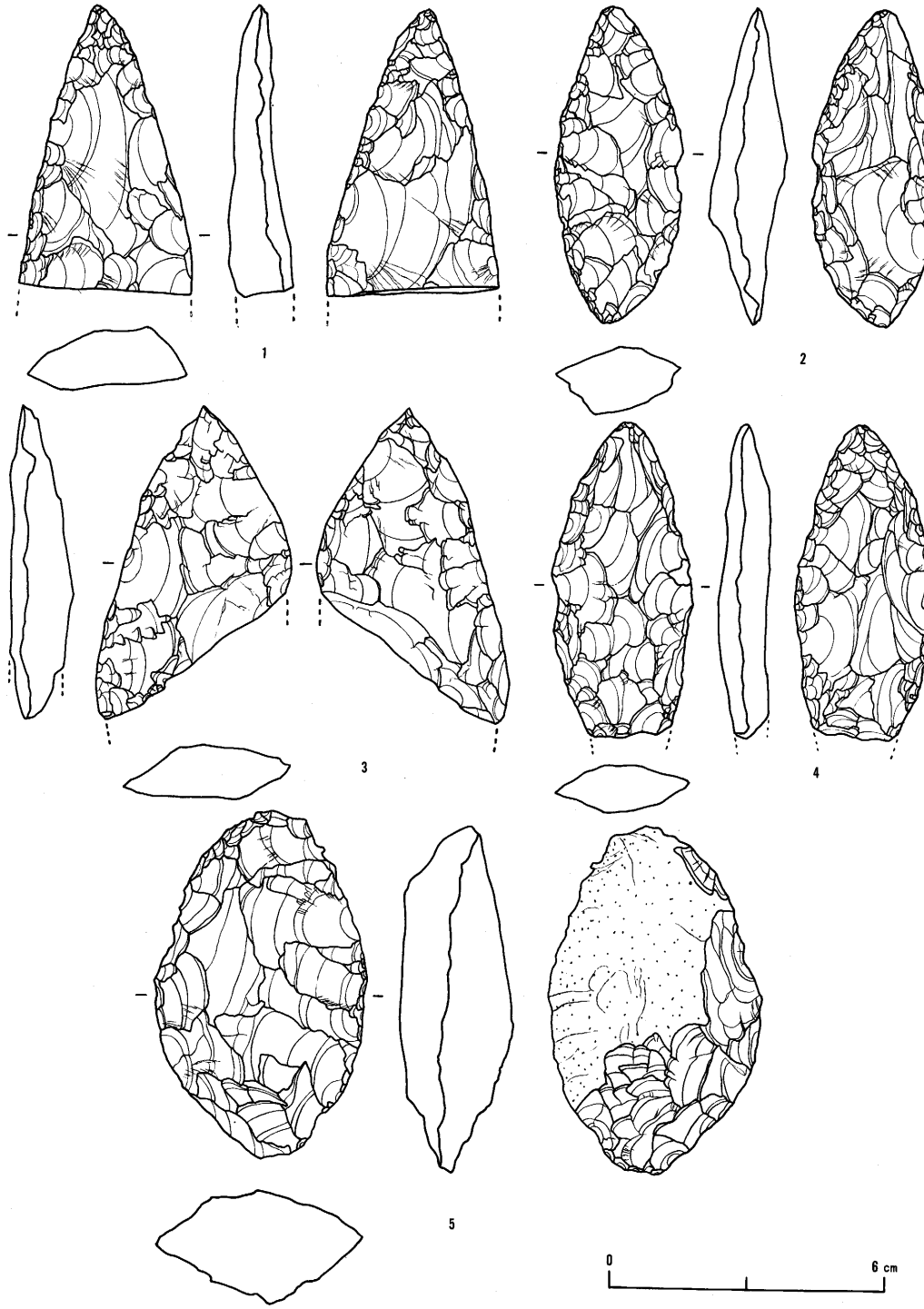
由井一昭所蔵



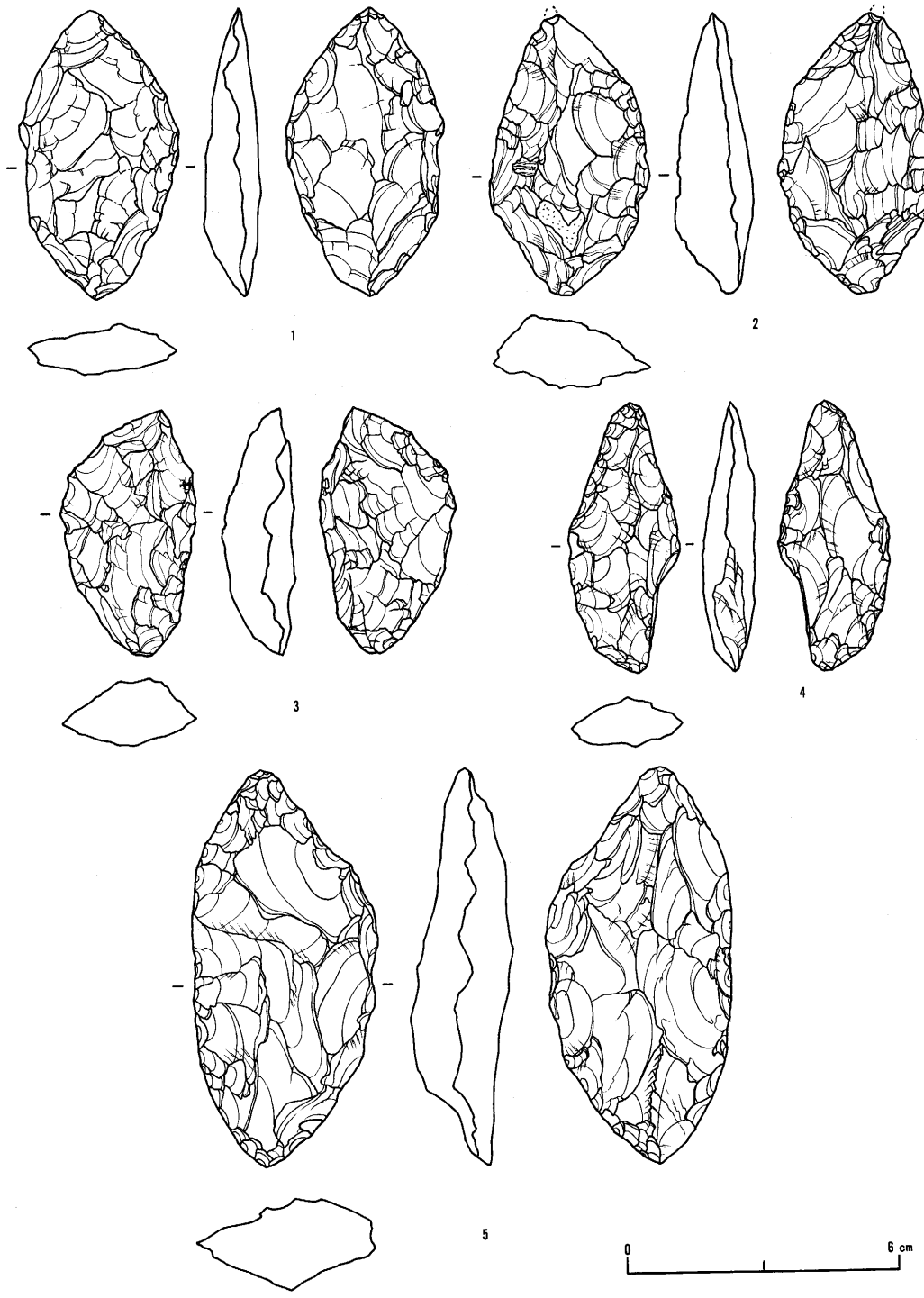
11　馬場平遺跡採集石器（$\frac{1}{3}$）

由井一昭所蔵



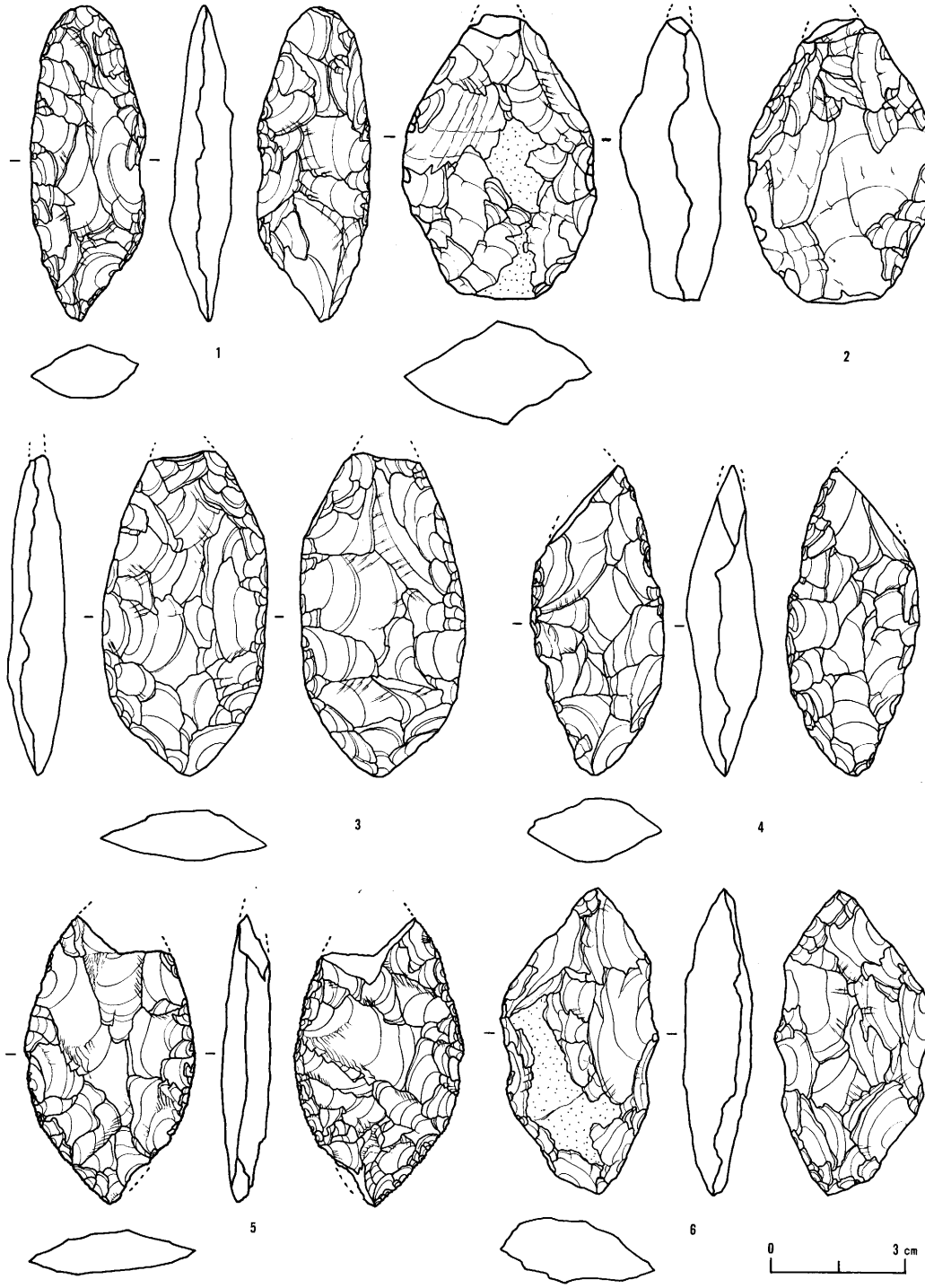


第８図　馬場平遺跡採集石器実測図（２：３）　１～５　槍先形尖頭器
（１～３・５　由井茂也、４　由井　明所蔵）

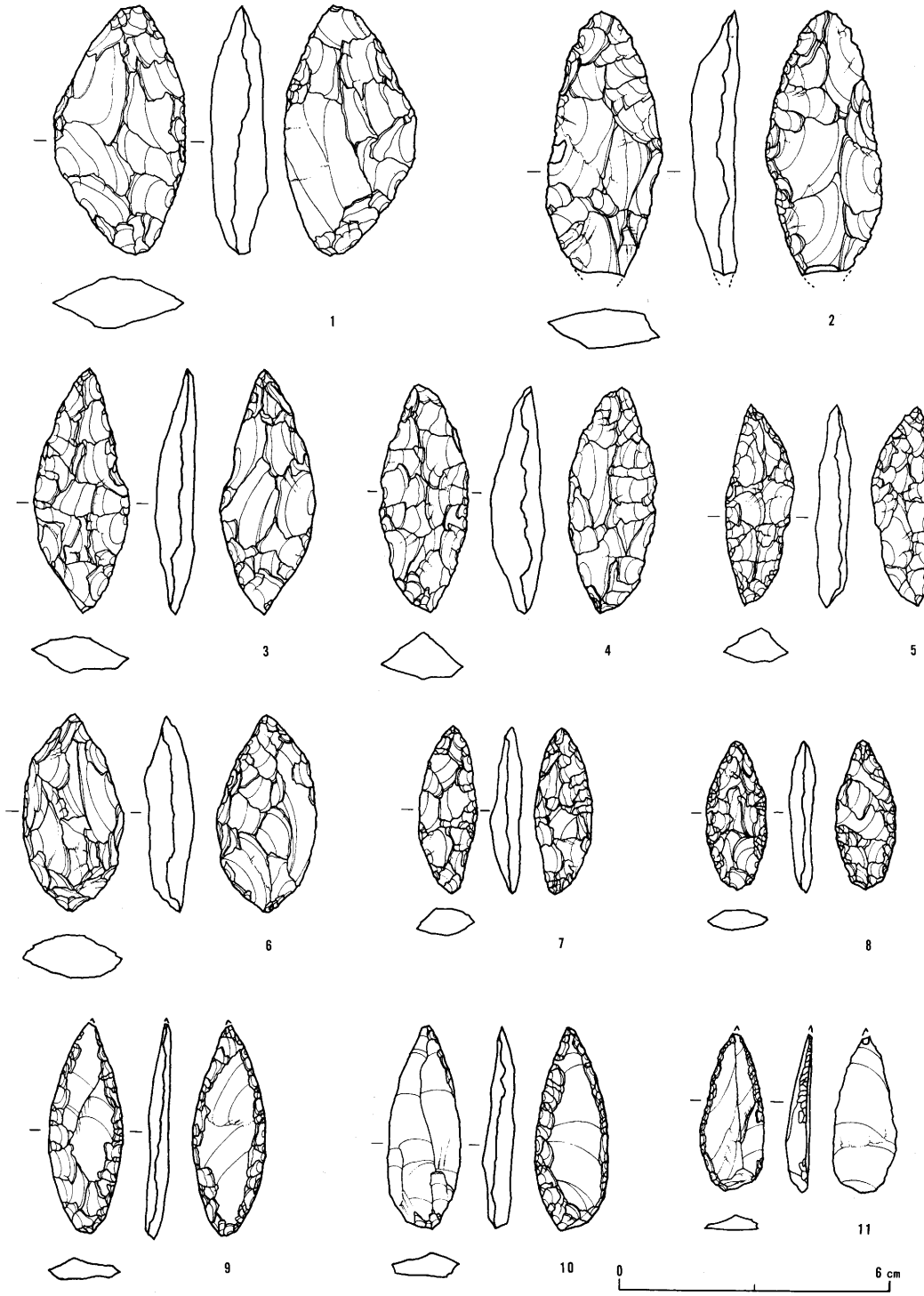


第９図　馬場平遺跡採集石器実測図（２：３）　１～５ 槍先形尖頭器

（１．２．４．５　由井茂也、３　由井裕太郎所蔵）

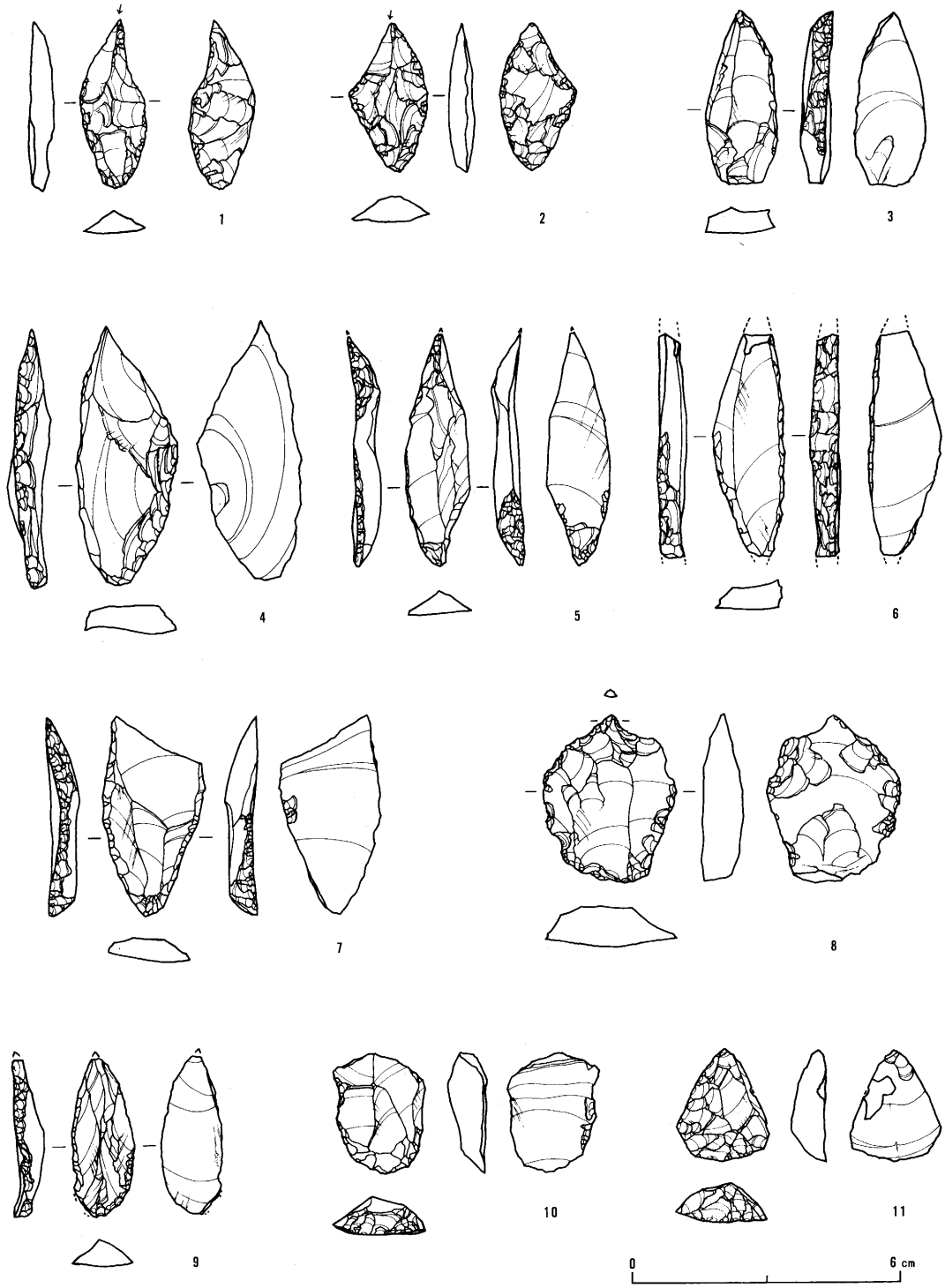


第10図　馬場平遺跡採集石器実測図（２：３）　１～６ 槍先形尖頭器
（１．６　由井裕太郎、２．４．５　由井茂也、３　由井　明所蔵）



第11図　馬場平遺跡採集石器実測図　2：3　1～10 槍先形尖頭器

（1．3．4．6 由井裕太郎　2．5．7．9．10 由井　明　8．由井茂也　11．由井一昭所蔵）



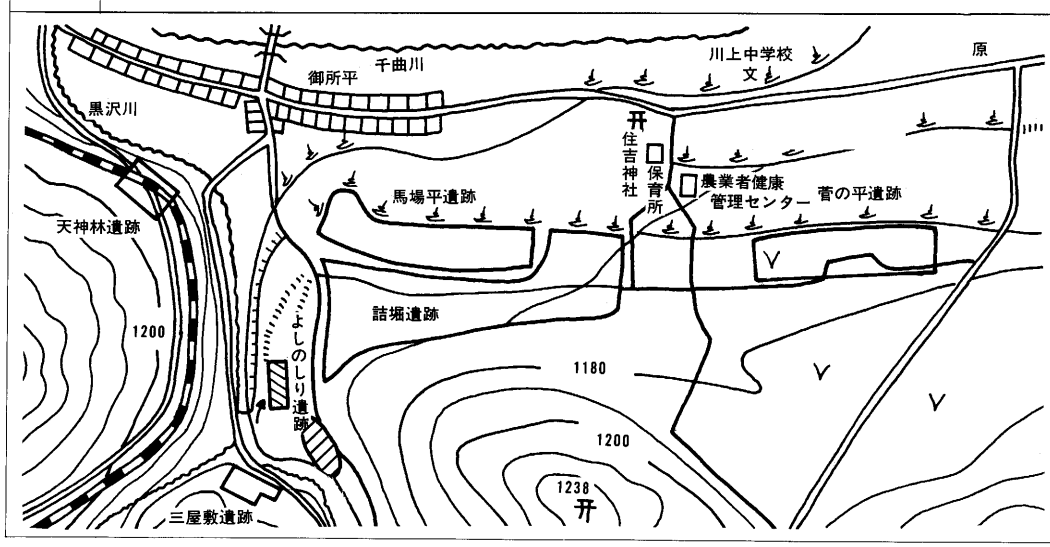
第12図　馬場平遺跡採集石器実測図 2：3　1．2 彫器　3～7．9 ナイフ形石器　8 石錐　10・11 掻器
（1．8．9 由井茂也　2．3．5．7．10 由井裕太郎　4 由井 明　6．11 由井一昭所蔵）

遺跡番号	12	遺跡名	よしのしり	遺跡の種類	包蔵地	部落名	御所平
地目	畑	面積	4,300m²	時代	先土器	調査年月日	58年11月22日

所在地・土地所有者	字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
	石休場	1477	由井政光			
		1462	〃			

遺物		
	採集遺物	スクレーパー
	既出遺物	小形ポイント・スクレーパー・ナイフ形石器 （由井一昭・由井茂也・由井明所蔵）

位置 地形 環境	
	馬場平・詰堀両遺跡の台地の南に接続し、黒沢川と藤塚山の間にはさまれ狭められた地形となる。黒沢川の屈曲部の右岸に数段の小段丘が形成されているうちの上段部に位置し、その北は詰堀遺跡に接している。黒沢川をはさんだ対岸の段丘端に、三屋敷遺跡がある。



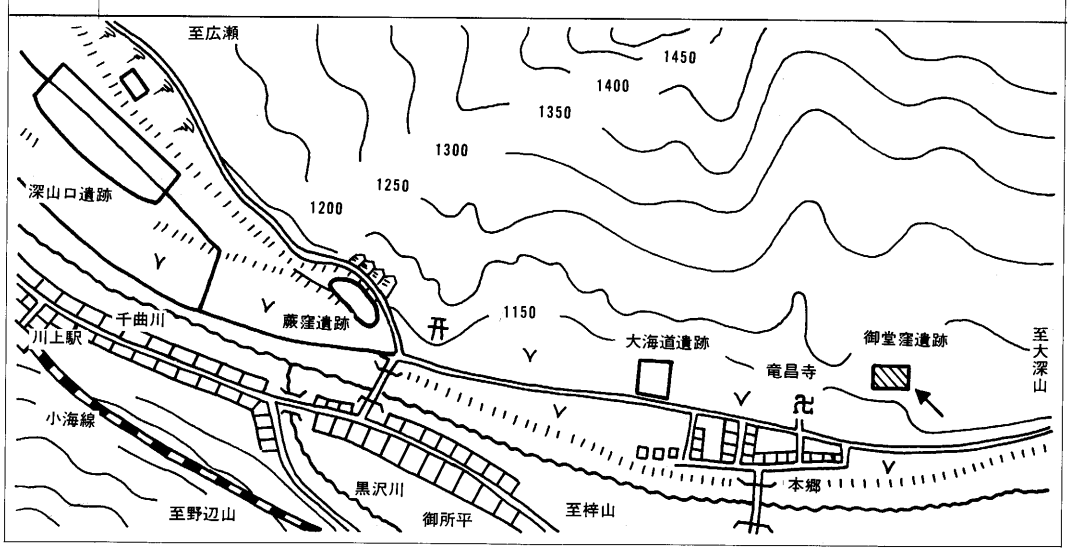
12　よしのしり遺跡

遺跡番号	13	遺跡名	御堂窪	遺跡の種類	包蔵地	部落名	御所平
地目	畑荒地	面積	1,000m²	時代	縄文	調査年月日	58年11月22日

所在地・土地所有者	字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
	御堂久保	535	竜昌寺 由井時治			

遺物		
	採集遺物	
	既出遺物	縄文前期（諸磯式・踊場式）土器　（由井茂也・由井貞夫蔵）

位置 地形 環境	
	千曲川右岸、御所平本郷区の北方、日向山の麓、標高1,160mの狭小な南面する小台地上にある。前面の千曲川畔の平担地より比高10m、西南方60mに竜昌寺があり、さらに西方山麓線にそって大海道、わらび窪、深山口等の遺跡が2kmにわたって連なっている。東方1,300mの台地上には大深山遺跡・東原A・B等の遺跡が存在する。現在畑地は多く荒地となっている。



13　御堂窪遺跡

遺跡番号	14	遺跡名	大海道	遺跡の種類	包蔵地	部落名	御所平
地目	宅地・畑	面積	6,000㎡	時代	平安・中世	調査年月日	58年11月22日

所在地・土地所有者

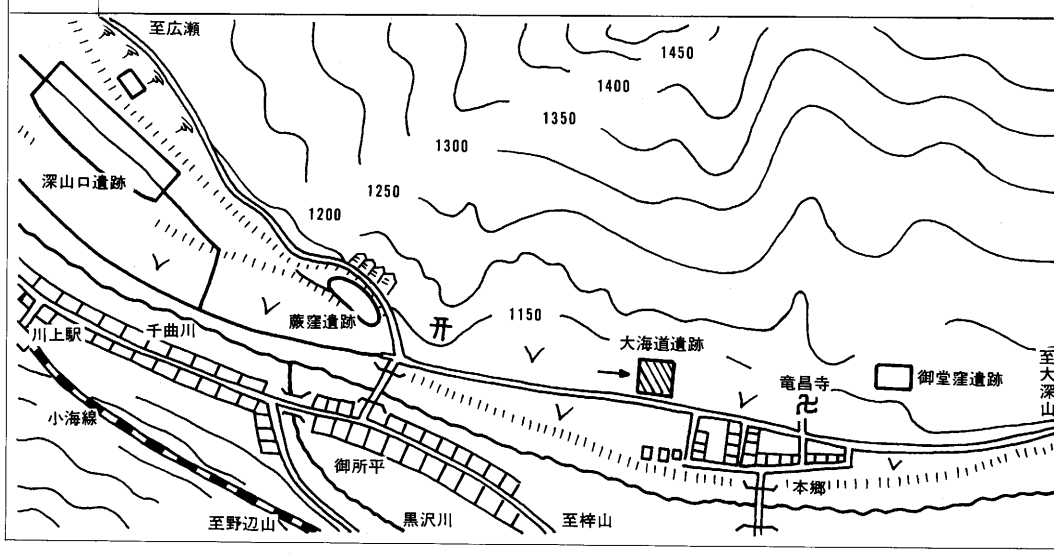
字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
中大海道	279	由井常夫			
	277	土屋陽一			
	278	由井かのと			
	280	由井江つき			
	272	由井吉三郎			
	273	中島　徳			

遺物

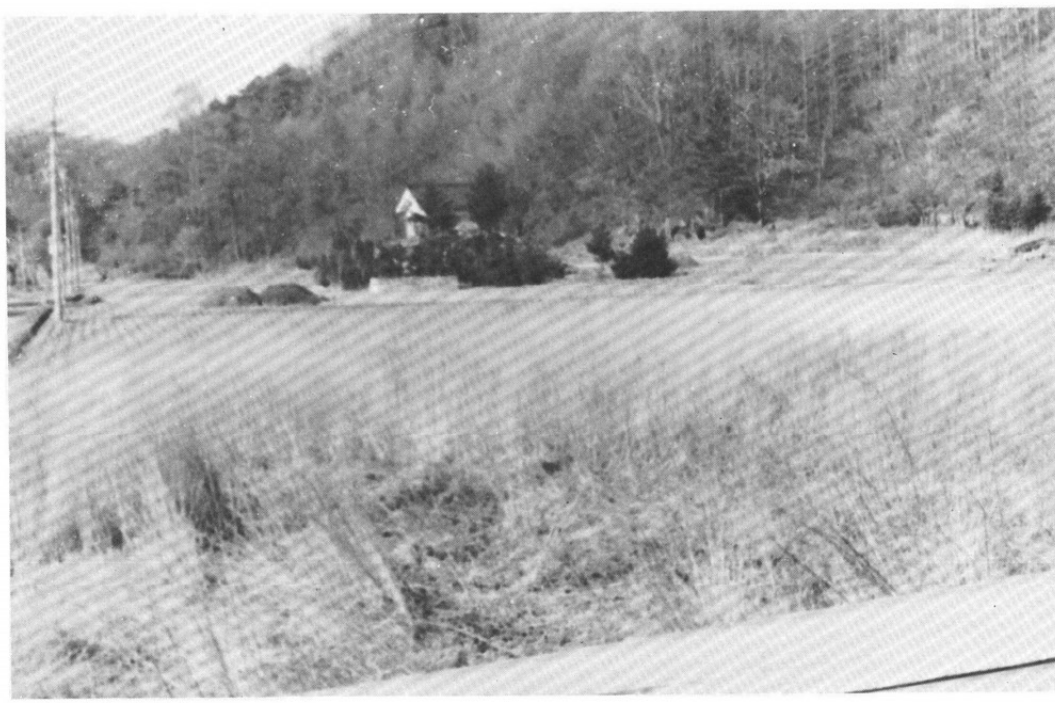
採集遺物	
既出遺物	土師質土器皿2・底部1、土師器破片、須恵器破片 （由井明・由井満所蔵）

位置 地形 環境

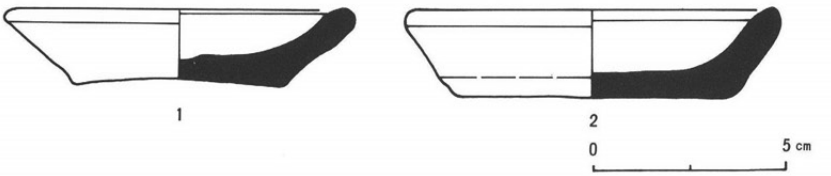
千曲川右岸、本郷部落の平担面で、内裏山の山麓と男橋・大深山線道路の間の畑地を中心とするが、遺物の散布は本郷部落から男橋の間の全域にわたっている。この平担面の千曲川ぞいに集落があったが水害のため対岸の御所平地区に移転した。現在付近に五輪塔、金山神社跡が残され、中世・古代の伝承地等が多い。



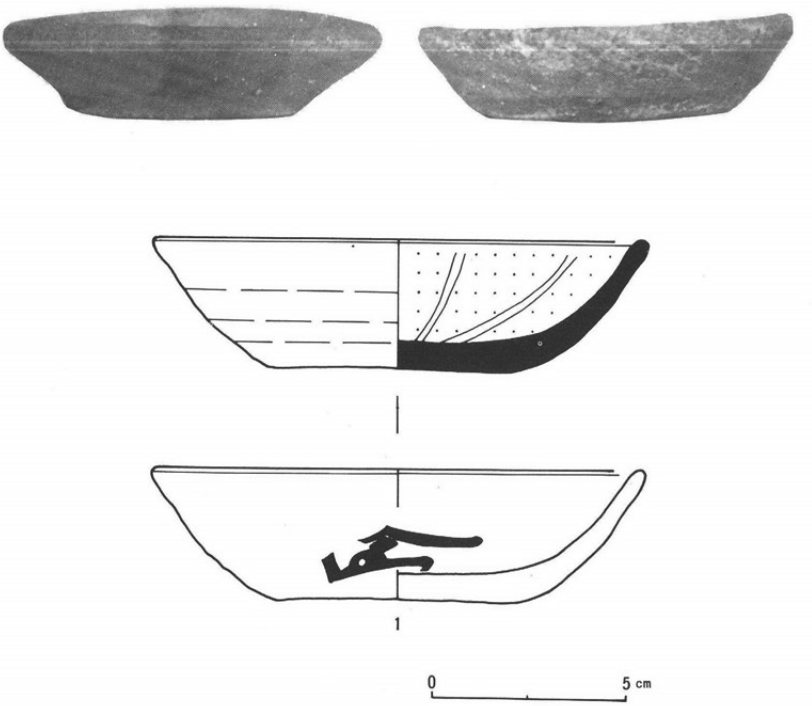
14　大海道遺跡



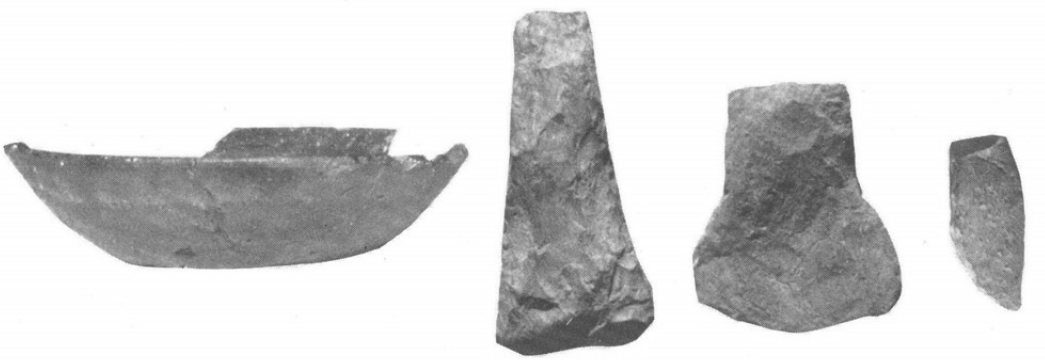
うしろは内裏山



第13図　大海道遺跡採集土器実測図（１：２）



第14図　七久保遺跡採集土器実測図（１：２）



遺跡番号	15	遺跡名	深山口	遺跡の種類	包蔵地	部落名	御所平
地目	畑	面積	70,000m²	時代	縄文・平安	調査年月日	58年11月22日

所在地・土地所有者

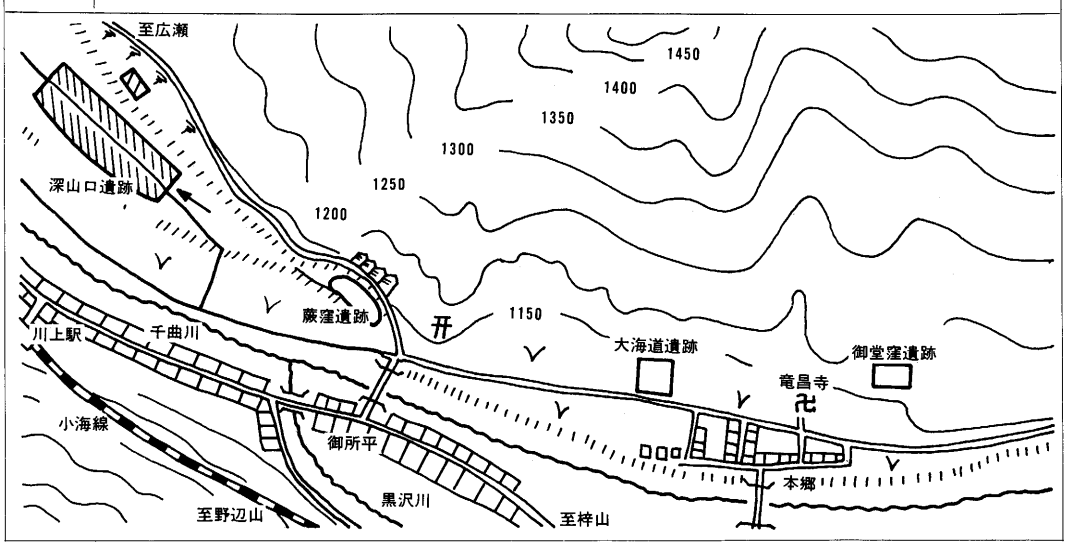
字名	地番	氏名	字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
深山口	141−3	今枝盛太	深山口	125−2	由井常夫	深山口	114	由井正治
	141−2	由井二平		125−1	由井峰重		105	高見沢隆雄
		由井宗祐		124−2	由井保雄		106·101	油井勝
	141−1	由井登喜美		129−2	吉沢辰男		100	吉沢時之助
	136〜139	今井坦		126-1·119	由井嘉		103	今井湜
	135	吉沢辰男		127−1	今井湜		102	由井悦之助
	134	中島浩		120−1	持田よし子		93	由井武久
	138−2	中島誉雄		120−2	中島博章		94	由井清作
	133	由井晥一		121	由井保雄		95	中島浩
	131	吉沢時之助		118	由井常夫		96	中島徳
	130	吉沢重信		115·104-1	由井嘉		91−1	今枝盛太
	125−4	由井かのと		116	由井俊一			吉沢忠重
	128−3	吉沢辰男		117	由井晥一			
	129−1	中島浩		122	吉沢学			

遺物

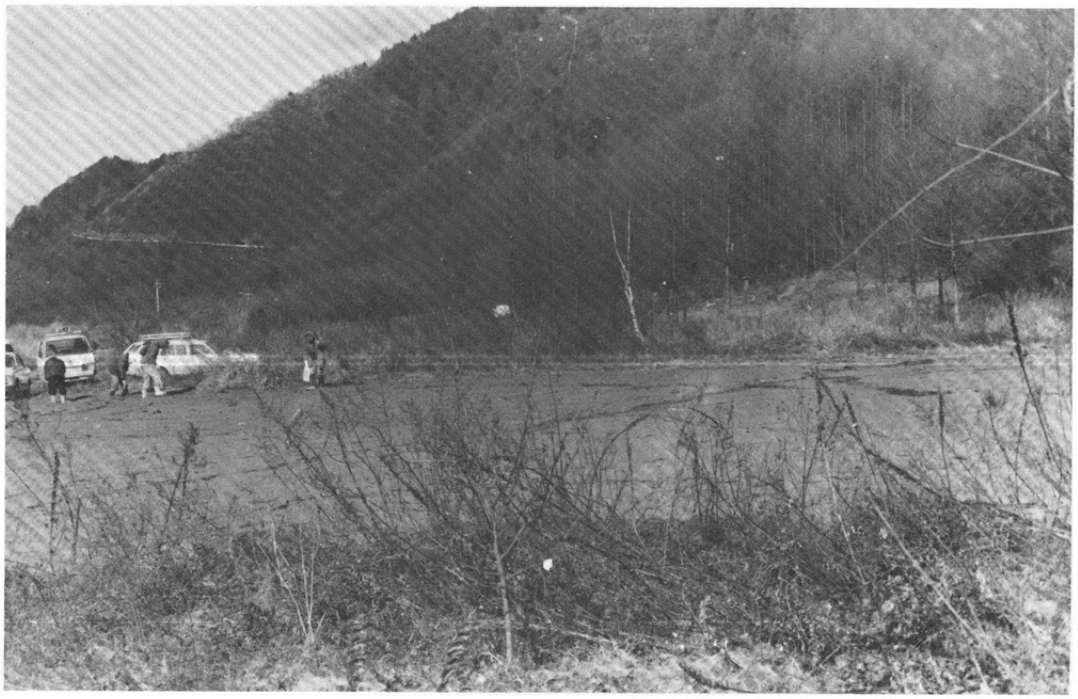
採集遺物	縄文後期土器片多数・小形石鏃・磨石斧破片、上の段で土師器片
既出遺物	縄文土器　加曽利B(堀の内式)　打石斧・磨石斧・石錐・石棒・石鏃 (吉沢時之助・吉沢秋人・由井貞夫・由井明・由井茂也所蔵)

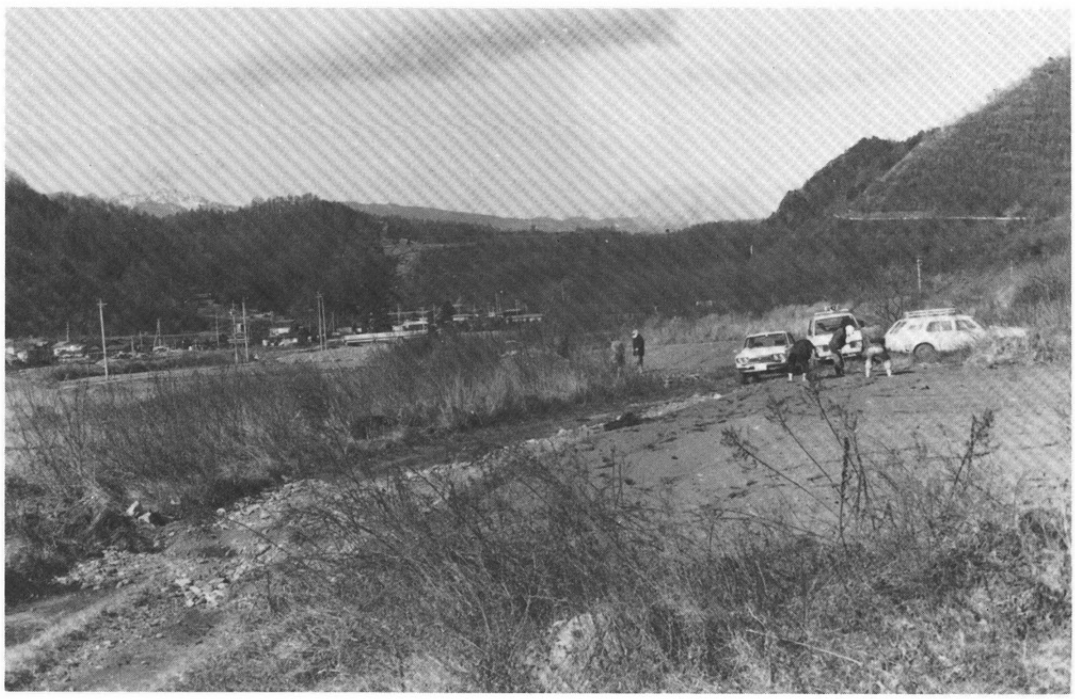
位置地形環境

小海線信濃川上駅の対岸、千曲川右岸の山麓台地で、南面する細長い段丘面上に位置し、千曲川との比高5〜10m、標高1,120m、川上村としては最も低地の遺跡である。東に接して蕨窪、さらに東方千曲川にそって大海道、御堂窪、上の段、宮下、東原、大深山等の大きな遺跡が4kmの間にならんでいる。
この遺跡の延長は500mに及び、はやくからたくさんの土器石器を耕作の間に出土し、特に石棒の数が多いのが目立つ(無頭のものが多い)。打石斧は撥形のものが多い。

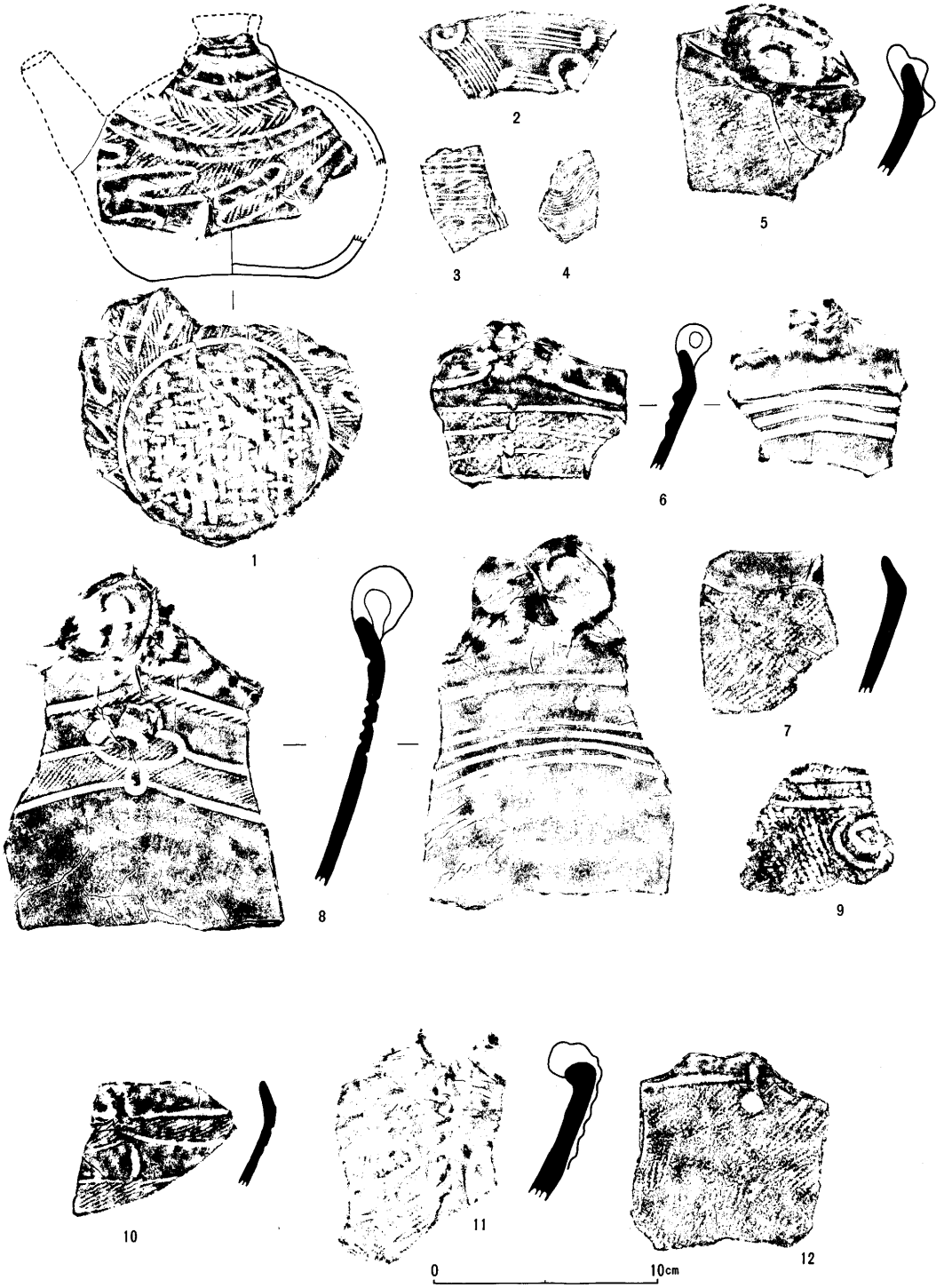


15 深山口遺跡



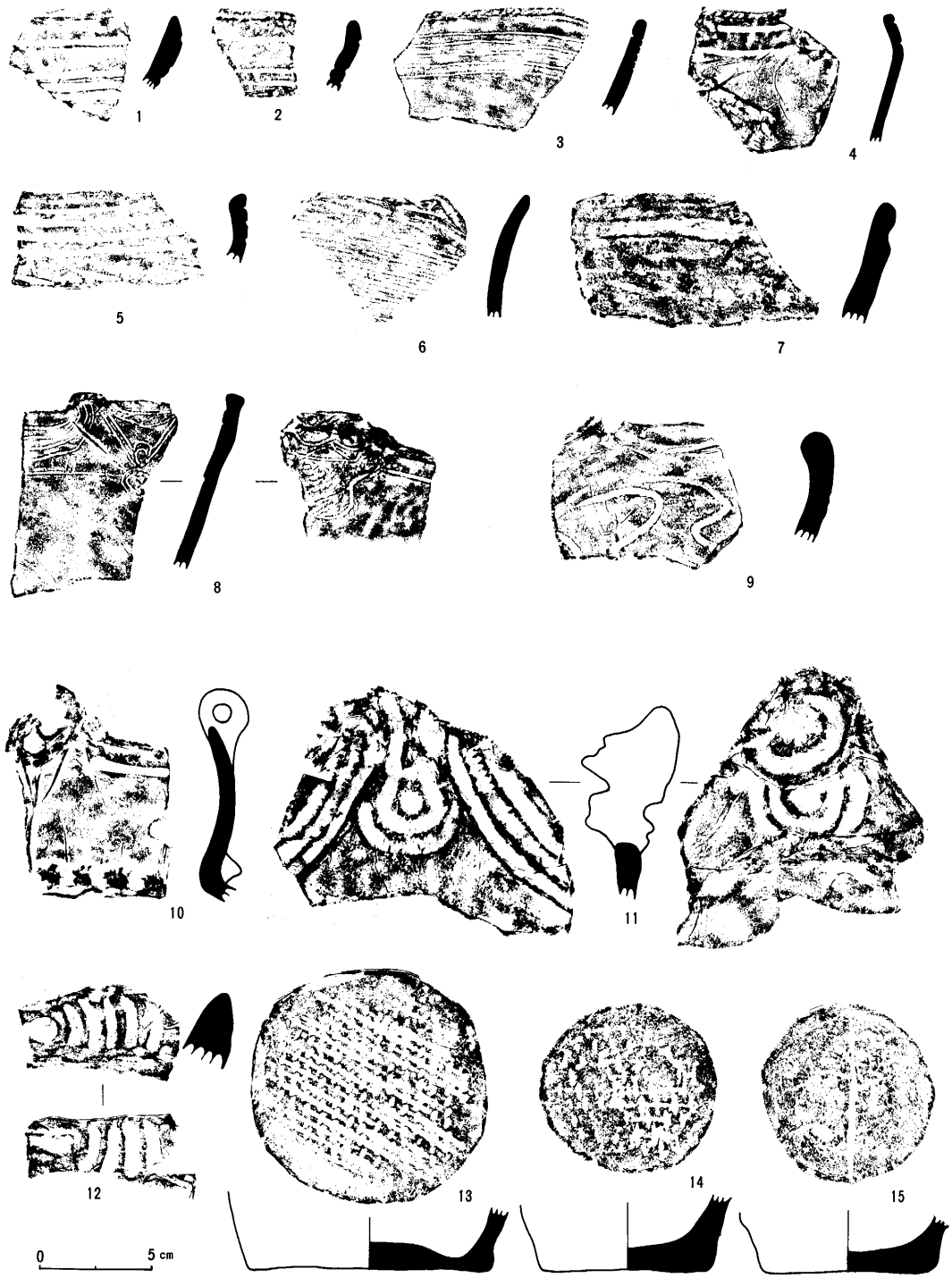


右上の道路は大蔵峠の道



第15図　深山口遺跡採集土器拓影No.1（1：3）

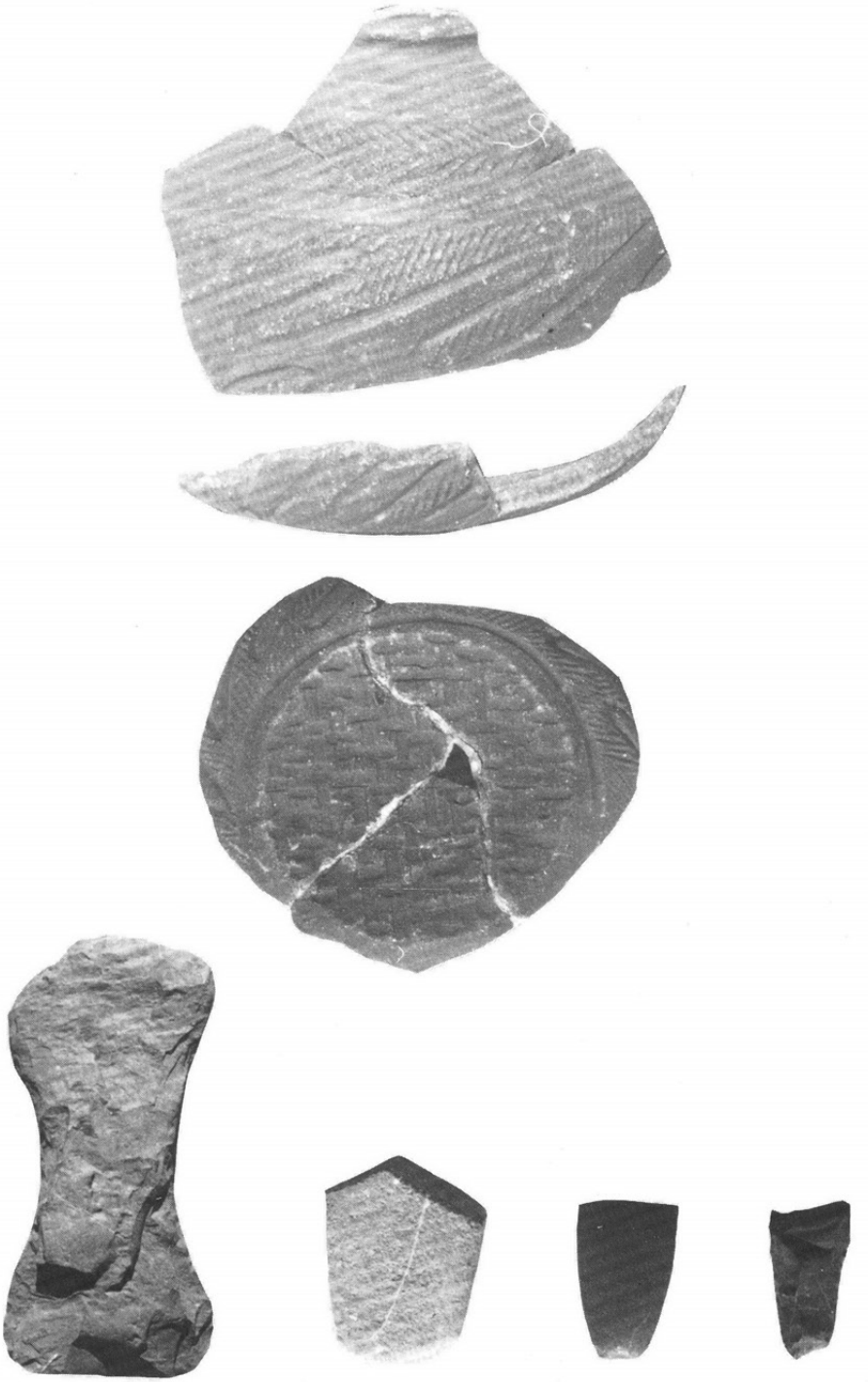
第16図　深山口遺跡採集土器拓影No.2（1：3）



第17図　深山口遺跡採集土器拓影No.3（1：3）

15　深山口遺跡採集土器（$\frac{1}{4}$）

15　深山口遺跡採集土器(1/2)・石器(1/3)

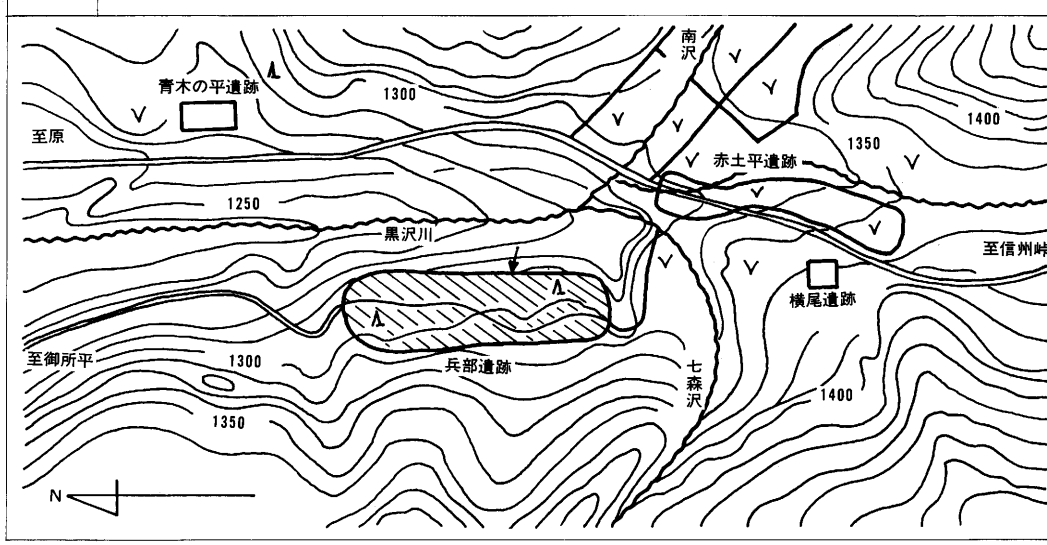


遺跡番号	16	遺跡名	兵　部	遺跡の種類	散布地	部落名	御所平
地目	山　林	面積	50,000m²	時代	先土器 縄文・平安	調査年月日	58年11月18日

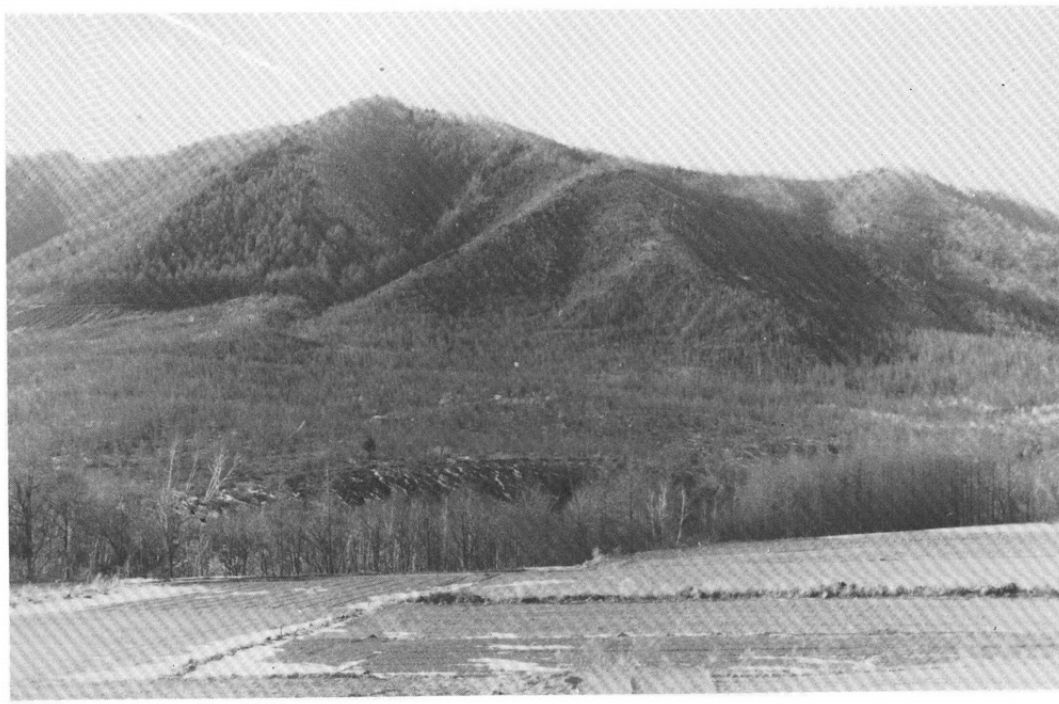
所在地・土地所有者	字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
	兵　部	1879の1	御所平 林野保護組合			

遺物		
	採取遺物	
	既出遺物	ポイント・ナイフ・縄文土器・石鏃・土師器（糸切底・内面黒色） （由井祐太郎・由井明・由井茂也所蔵）

位置 地形 環境	
	信州峠付近に源を発して北流する黒沢川の左岸、女山の山麓線にそって、標高1,290m～1,300mの等高線ぞいにつくられた林道を中心に、南北1kmにわたって分布する。南に接して赤土平・横尾等の遺跡があり、東北方、黒沢川の対岸に青木の平遺跡がある。遺跡は山林に覆われていて、遺物は林道付近で発見されている。



16 兵 部 遺 跡



前方の山すそ一帯が遺跡

遺跡番号	17	遺跡名	赤土平	遺跡の種類	包蔵地	部落名	原
地目	畑	面積	32,000m²	時代	先土器 縄文・平安	調査年月日	58年11月18日

所在地・土地所有者

字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
赤土平	195・196	井出純夫	赤土平	185－1	新海忠尚
	192	渡辺文雄		181	中島悦二
	189－2	杉山勉		174－1	田中喜知
	189－3	渡辺友重		137	杉山和典
	186－1	林保夫			
	186－2	杉山憲一			
	186－3	渡辺寅太郎			
	185－3	由井寿秋			
	185－2	新海元尚			

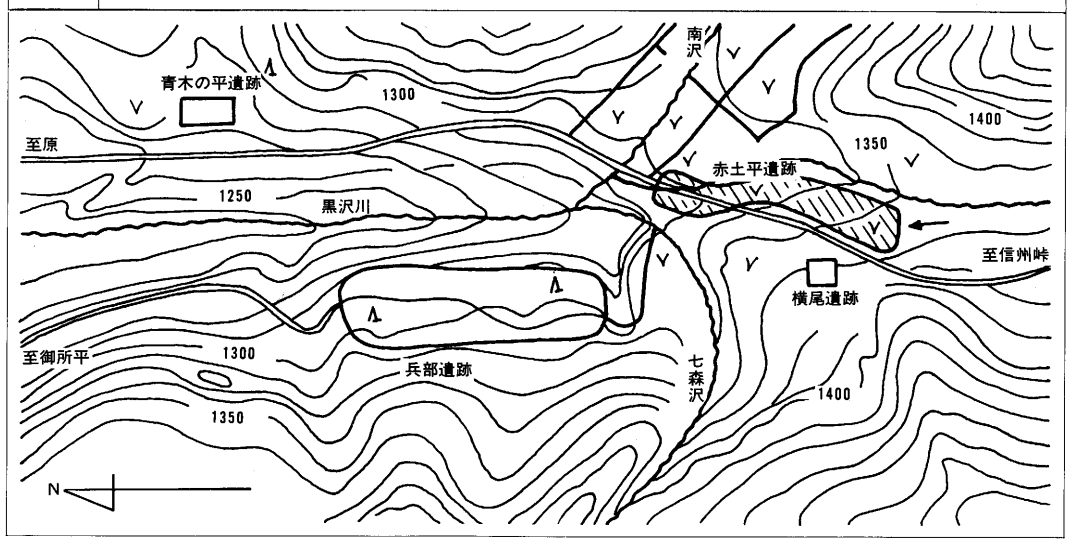
遺物

採集遺物	黒曜石片18
既出遺物	ポイント・スクレーパー(水晶製石器が多い)、縄文前期(諸磯B)、石鏃、打製石斧1　(由井満・由井茂也所蔵)

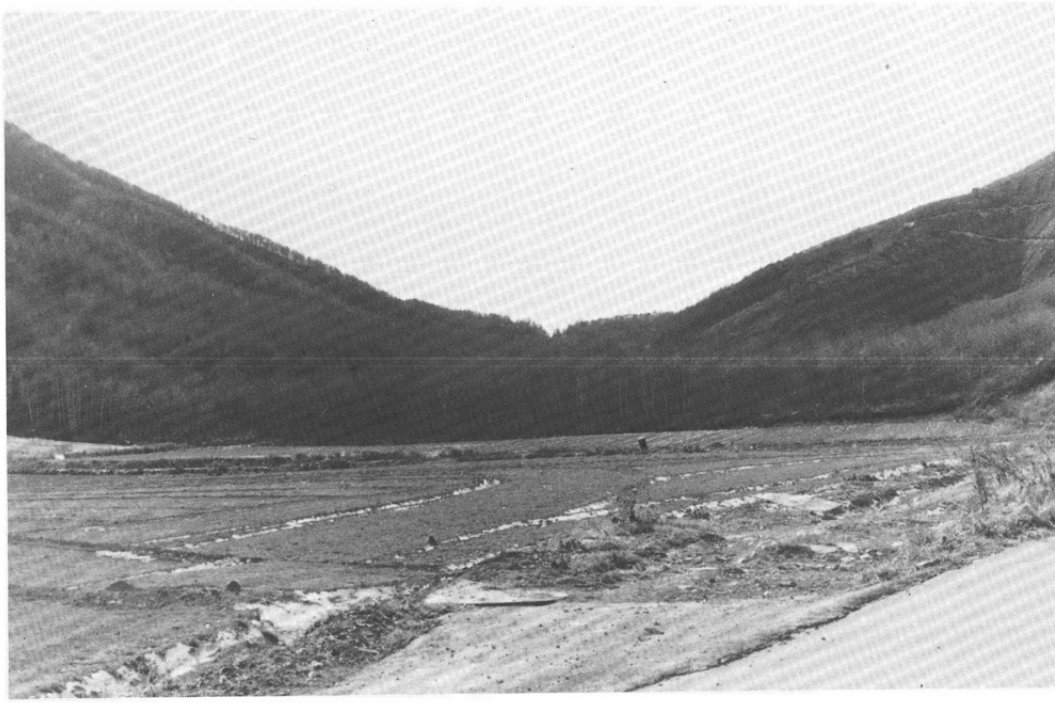
位置 地形 環境

信州峠の北麓で、原部落から信州峠を越えて、甲州小尾に通じる道路と、黒沢川最上流の細流との間に巾（東西）20～30m、長さ約900mにわたる南北に細長い遺跡である。北に接して兵部、西方の道上に横尾遺跡があり、北方約2kmに青木の平遺跡がある。遺跡の標高は1,300mから1,350mにわたる。

古くは牧場地帯で、遺跡名も牧場遺跡とよばれていたものである。現在は農地改良の客土が全面に行われている。



17 赤土平遺跡

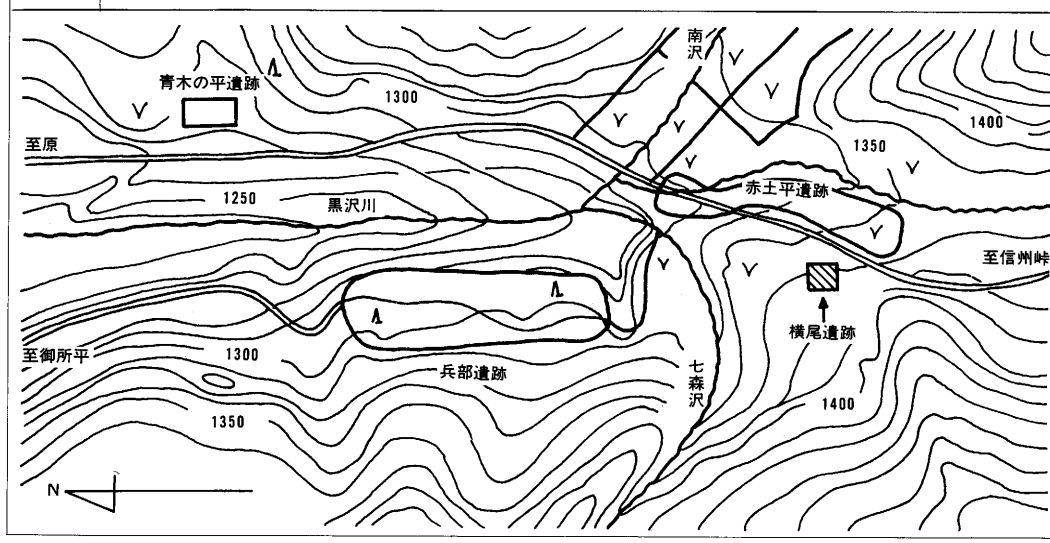


遺跡番号	18	遺跡名	横　尾	遺跡の種類	包蔵地	部落名	御所平
地目	畑・道路	面積	1,000㎡	時代	平安	調査年月日	58年11月18日

所在地・土地所有者	字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
	横尾	148	渡辺智昭			
		154	渡辺長市			
		155				

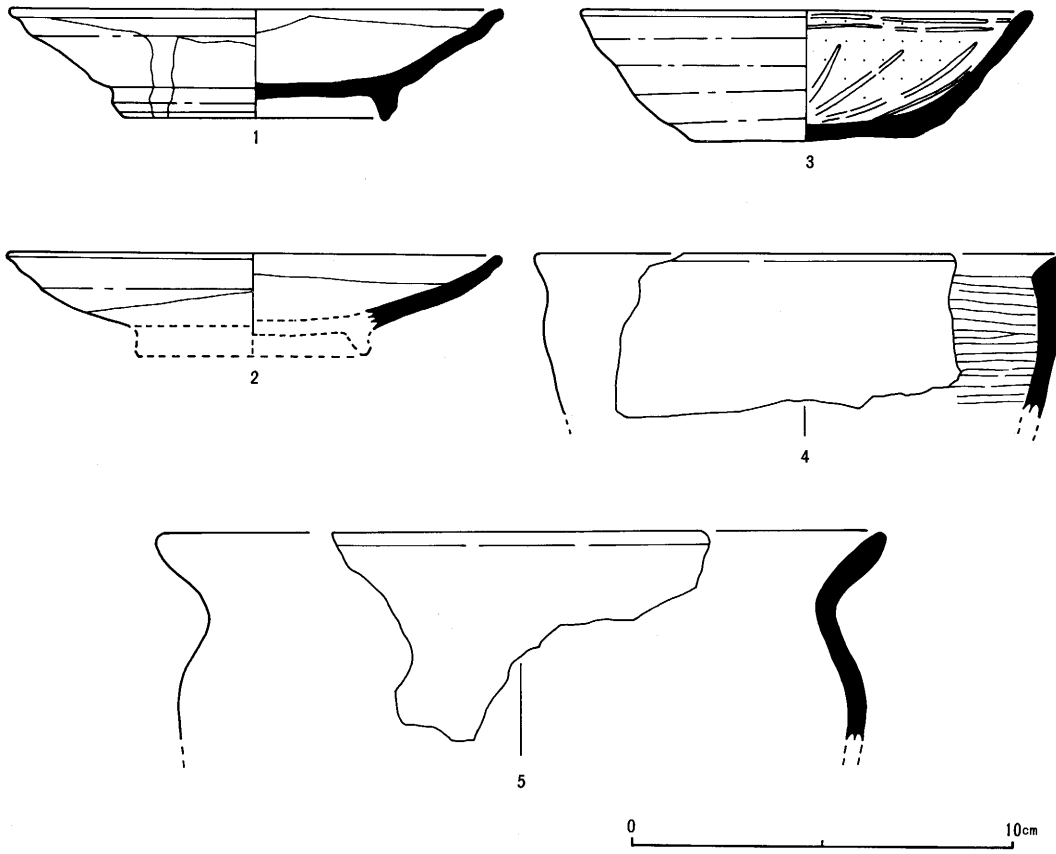
遺物		
	採集遺物	
	既出遺物	土師甕2、須恵、灰釉陶器、高台付杯2、焼失床張住居址1、集石遺構1、土壙1、木材炭化物、土師杯(内黒)2　(川上村教育委員会所蔵)

位置地形環境	
	御所平から黒沢川ぞいに信州峠を越えて甲州穂坂路に通ずる古来の交通路にそって、信州峠の北方山麓標高1,360mの北東面する緩傾斜地に位置する。昭和49年川上村教育委員会によって、開畑に伴う緊急発掘調査が行われ、土師(国分式)、須恵、灰釉陶器を伴う、板張りの床をもつ焼失住居址一棟が検出された。平安時代の高距集落址として注目すべき遺跡である。

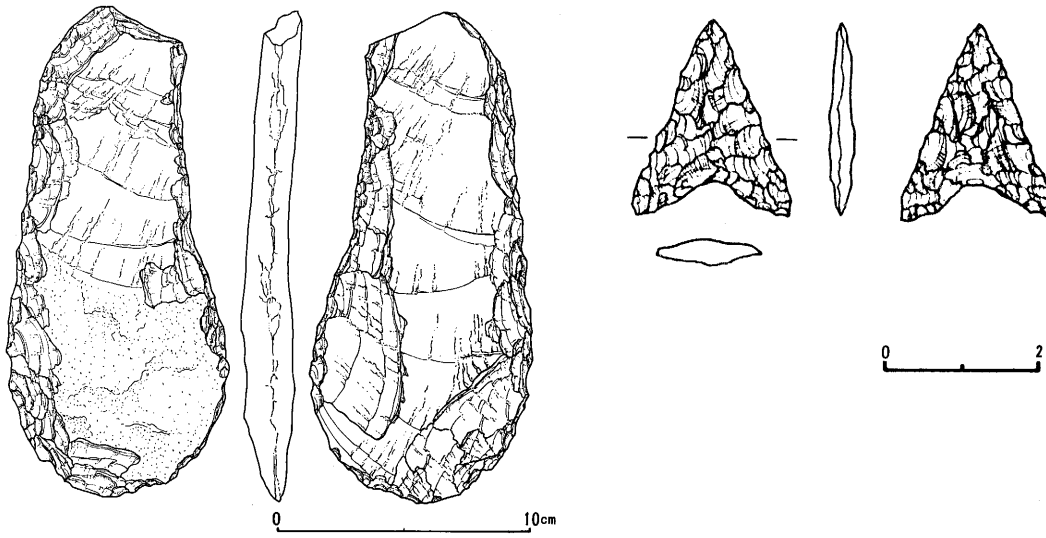


18 横 尾 遺 跡

遺跡は道路を中心に左右の畑地に及ぶ



第18図　横尾遺跡Ｈ１号住居址出土土器実測図（１：２）
（１・２　皿形土器〔灰釉陶器〕、３　杯形土器〔内面黒色〕、４・５　甕形土器）



第19図　赤土平遺跡採集石器実測図
（１．打製石斧1：3〔由井満所蔵〕、２．石鏃1：1〔由井茂也所蔵〕）

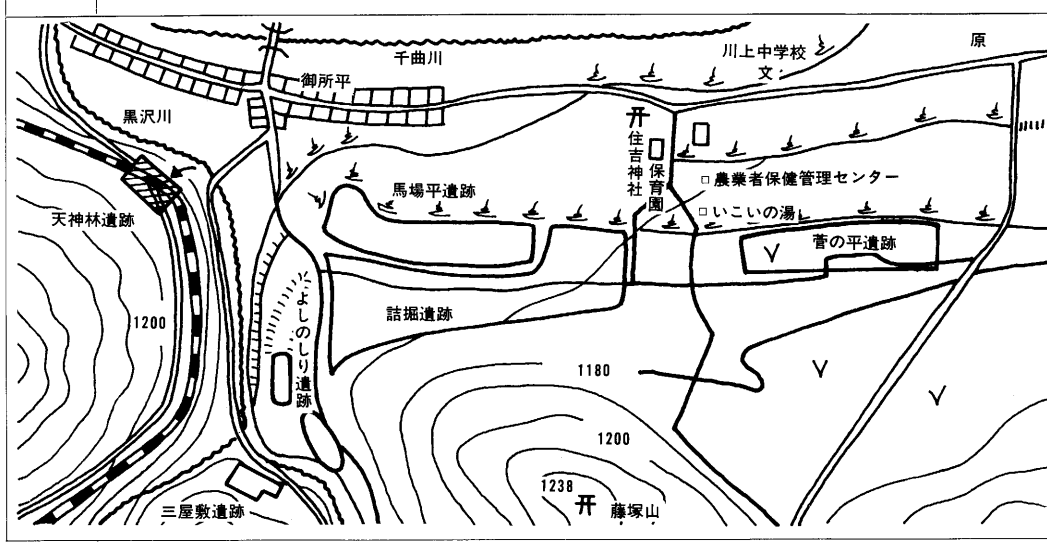
遺跡番号	19	遺跡名	天神林	遺跡の種類	散布地	部落名	御所平
地目	鉄道線路 道路・山林	面積	500m²	時代	縄文	調査年月日	58年11月22日

所在地・土地所有者	字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
	天神林	1,670	由井敏一			
		1,675	由井保雄			

遺物		
	採集遺物	
	既出遺物	縄文土器・石皿（由井茂也所蔵）

位置 地形 環境

御所平部落の南方、黒沢川を渡って埋原・野辺山原に通じる道路が次第に高さを増して、小海線のガードをくぐった付近に、道路と鉄道線路にまたがって天神林遺跡が存在する。昭和7年ごろ小海線の線路敷設工事の際、縄文土器と石皿が発見されたが、現在はその中心部分は鉄道と道路の敷地となっている。標高1,180m、東方眼下には黒沢川をこえて、馬場平・詰堀・よしのしり等の遺跡があり、西方台地上に上がれば唐沢・七久保・浜場等の遺跡がある。段丘崖中腹の遺跡である。



19 天神林遺跡

遺跡番号	20	遺跡名	七久保	遺跡の種類	包蔵地	部落名	御所平
地目	畑・山林	面積	3,000㎡	時代	縄文・平安	調査年月日	58年11月22日

所在地・土地所有者

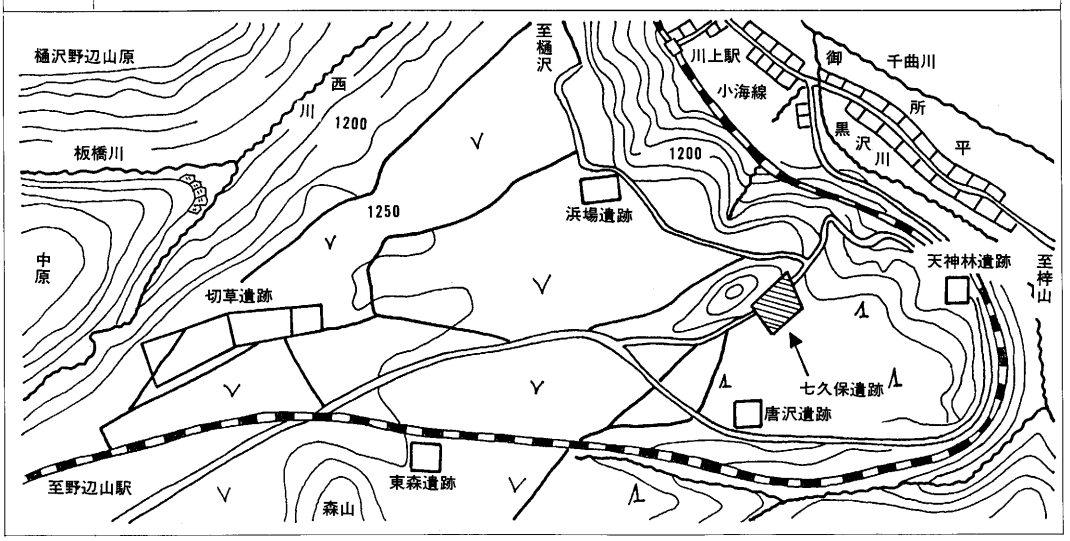
字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
東坂上	1,692−2	由井好文			
	1,744	由井晥一			
	1,741	中島喜夫			

遺物

採集遺物	
既出遺物	縄文土器・石鏃・打石斧（由井好文所蔵） 土師器杯（内面黒色・暗文墨書）　（由井明所蔵）

位置 地形 環境

天神林遺跡の西方約600m、埋原の台地上に達する、本遺跡は埋原台地の東端入口に位置する遺跡である。標高1,230m～1,240mの間にあって、東北に緩傾斜する、ゆるやかな沢をなす。遺跡は道路をはさんだ両側の畑地と山林を含み、浜場方面への道路の分岐点付近から道路拡巾の際、内面黒色暗文をもつ墨書土器（杯）を出土している。台地上には南に唐沢、西北に浜場等の遺跡がある。



20 七久保遺跡

道路をはさんで左右の畑と山林が遺跡

遺跡番号	21	遺跡名	唐　沢	遺跡の種類	包蔵地	部落名	御所平
地目	畑・山林	面積	30,000m²	時代	先土器・縄文	調査年月日	58年11月22日

所在地・土地所有者

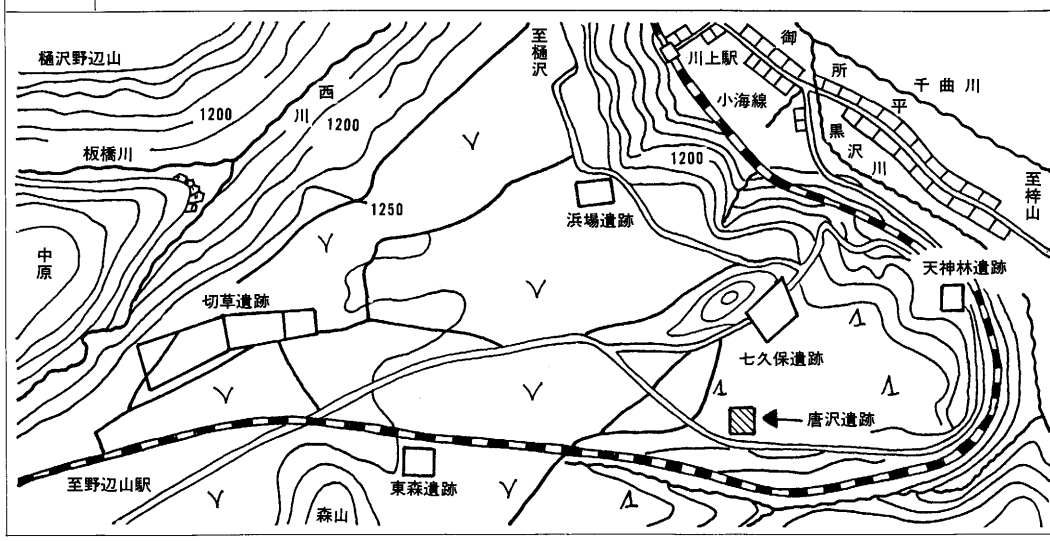
字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
唐　沢	1,700-イ-1	由井敬作			
	1,700-イ-2	〃			
	1,696-ロ	今枝盛太			
	1,696-ハ	〃			
	1,706-21	由井嘉久			
	1,706-25	由井弐幸			

遺物

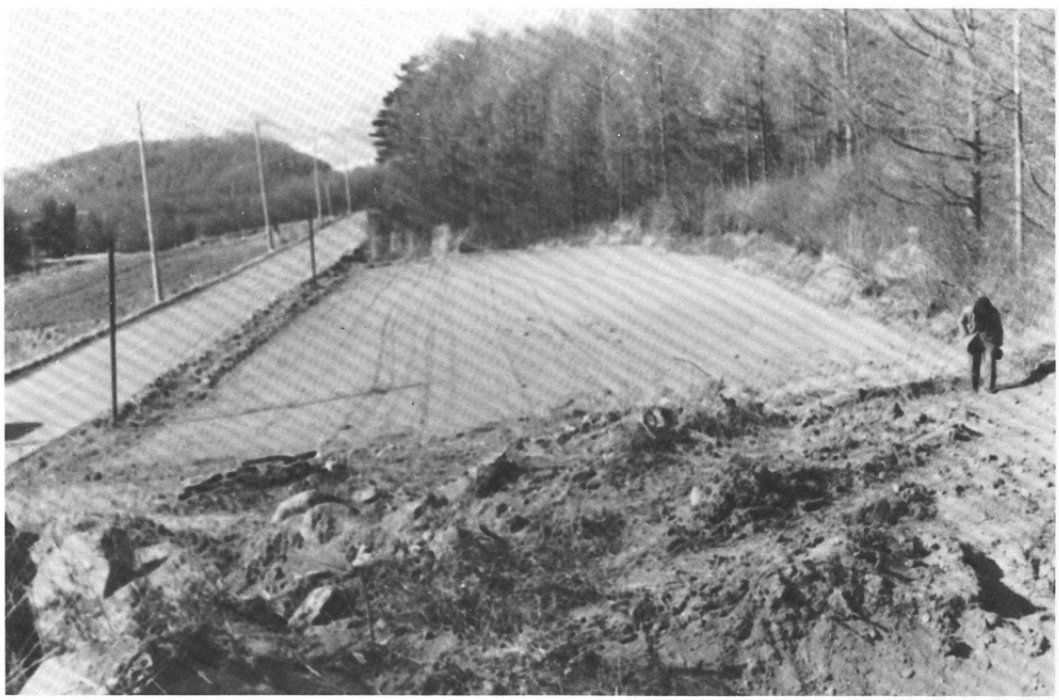
採集遺物	
既出遺物	ポイント・ナイフ、縄文中期土器・石皿・打製石斧 （由井明・由井一昭・由井茂也所蔵）

位置 地形 環境

御所平から埋原に上る道路が小海線にそって黒沢川を眼下にしながら東から西に大きく迂回して、埋原の台地上に達したところ、道路の北側の畑地と付近一帯が唐沢遺跡である。過去に道路わきより土器・石皿が出土し、畑を開くときポイント・ナイフ形石器を発見した。北に七久保遺跡、西北方に浜場遺跡がある。



21 唐 沢 遺 跡



21　唐沢遺跡出土石器（$\frac{1}{3}$）

天神林遺跡出土（$\frac{1}{6}$）

遺跡番号	22	遺跡名	切草	遺跡の種類	包蔵地	部落名	御所平
地目	畑	面積	40,000m²	時代	先土器・縄文 弥生・平安	調査年月日	58年11月25日

所在地・土地所有者

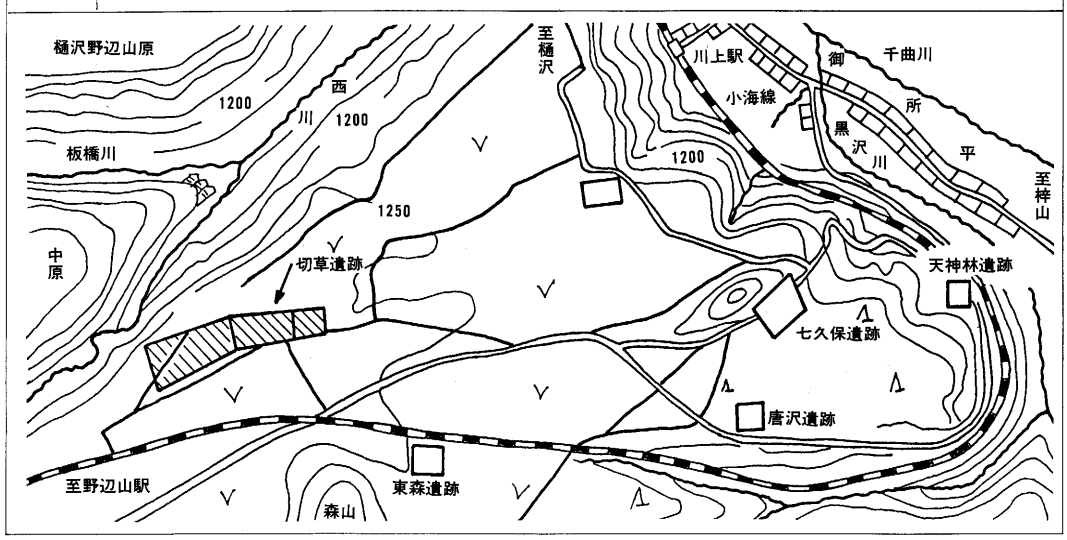
字名	地番	氏名
切草	1,832-11	由井祐太郎
	1,832-10	〃
	1,832-6	由井重治
	1,831-39	由井庸云
	1,831-38	由井久俊
	1,830-1	由井敏一
	1,830-2	〃
	1,830-4	中島誉雄
	1,830-3	由井昭彦
切草	1,830-5	由井茂璞
	1,830-6	由井正治

遺物

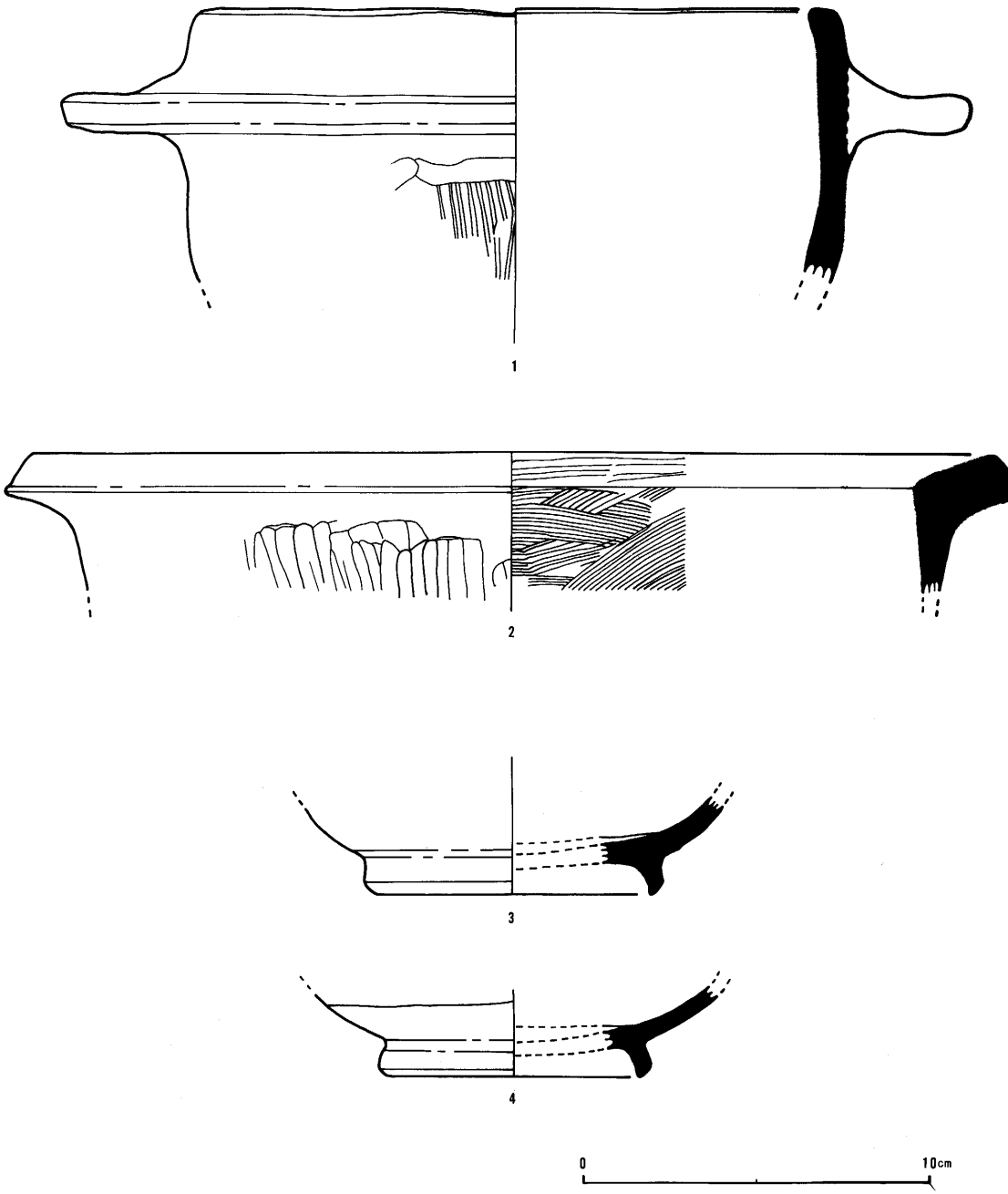
採集遺物	
既出遺物	ポイント・ナイフ・スクレーパー・石匙・弥生磨石鏃3・土師甕・鍔釜 1 須恵・灰釉高台付杯2　（由井茂也・由井明・由井祐太郎・由井一昭所蔵）

位置 地形 環境

広大な埋原の西部に位置し、西方西川（矢出川）の深い溪谷を越えた対岸には、南牧村野辺山原の中原遺跡がある。台地上西に接して、日影遺跡、その西南に西の腰・柏垂等の大遺跡が連続している。東方には浜場・七久保・唐沢・東森等の遺跡が台地上に点在している。高原野菜の畑地開発によって遺跡の存在が知られるようになった。



22 切 草 遺 跡



第20図　切草遺跡採集土器実測図（1：2）
（1　羽釜、2　甕形土器、3・4　碗形土器〔灰釉陶器〕）
（由井茂也所蔵）

遺跡番号	23	遺跡名	西の腰	遺跡の種類	包含地	部落名	御所平
地目	畑	面積	40,000m²	時代	先土器 縄文	調査年月日	58年11月25日

所在地・土地所有者

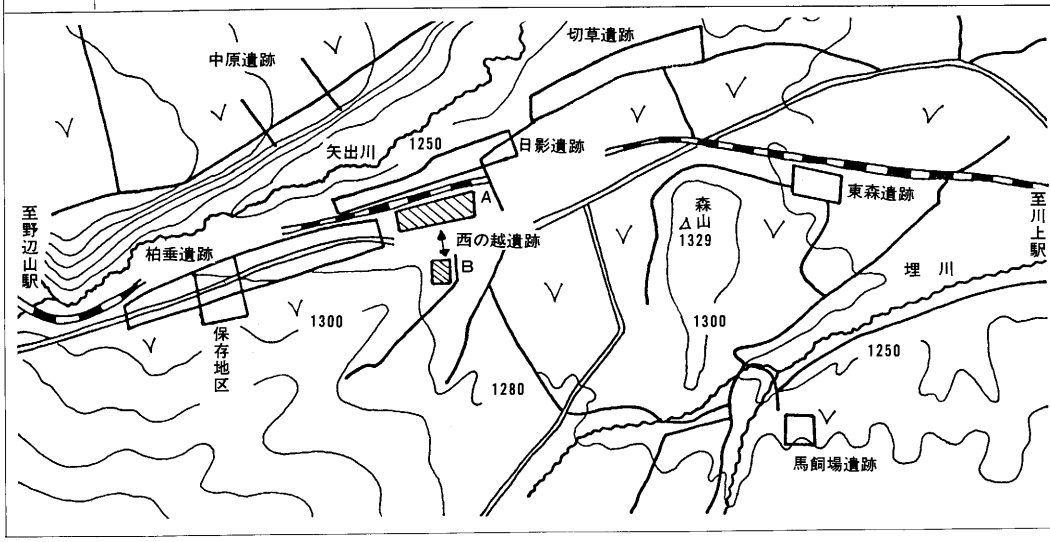
字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
西の越	1,836-54	由井直治	西の腰	1,835-50	清水元
	1,836-53	由井清次		1,835-53	由井章隆
	1,836-41	由井若葉		1,835-52	新海吉夫
	1,836-39	由井盛雄		1,837-14	由井常三郎
	〃	由井明義		1,835-40	由井二平
	1,835-39	由井貞夫		1,835-43	〃
	1,835-48	由井徳人		1,835-49	由井ちかえ
	1,837-15	由井誠		1,837-12	由井徳人
	1,835-51	由井欽治			

遺物

採集遺物	ナイフ形石器1・石鏃(有柄)・黒曜石1・チャート5・石英1
既出遺物	ポイント・スクレーパー・ナイフ形石器・石核・石鏃 (由井明・由井茂也・由井一昭所蔵)

位置 地形 環境

埋原西部の中心、小海線と村道川上野辺山線にはさまれた地帯で、もと凹地と微高地があったが現在は削平して平坦な一面の高原野菜畑となっている。やや南によったB地点からもポイント・ナイフ等の出土が多い。西に柏垂、北に日影・切草等の著名な諸遺跡が連続している。かつては凹地部分に湧水があったものと考えられる。



23 西の越遺跡

遺跡番号	24	遺跡名	柏垂	遺跡の種類	包蔵地	部落名	御所平
地目	畑・山林	面積	150,000m²	時代	先土器 縄文	調査年月日	58年11月25日

所在地・土地所有者

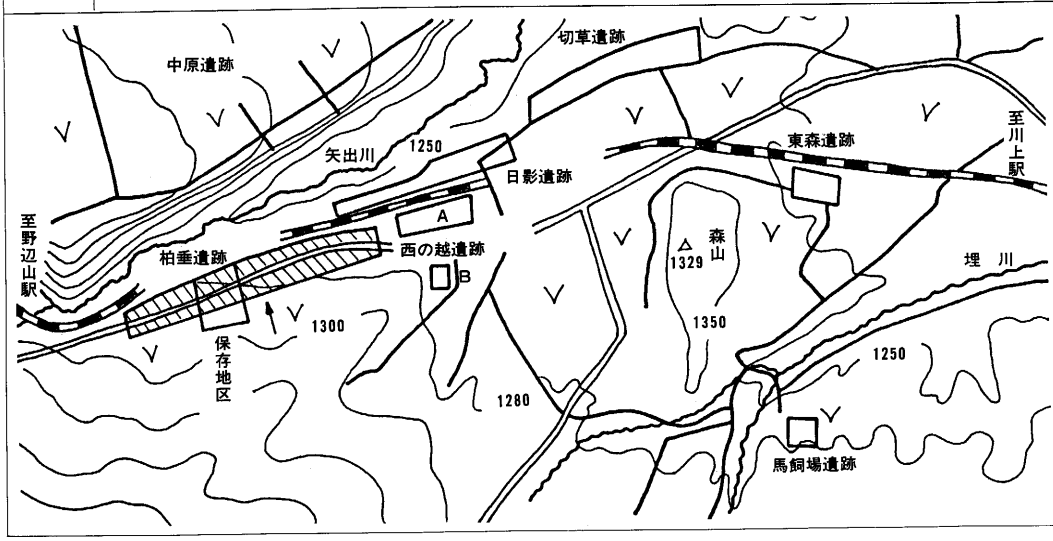
字名	地番	氏名	字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
柏垂	1,838-3	由井六三郎	柏垂	1,839-3の内	由井近江	柏垂	23	由井広太
	1,839-3	由井明義	〃	〃	由井正文	〃	24	新海平二
	〃の内	由井澄人	〃	〃	由井章隆	《永久保存地区》		
	〃	由井誠	〃	〃	由井宗祐	〃	26	由井清次
	〃	中島徳	〃	〃	由井清次	〃	25	由井正文
	〃	由井俊彦	〃	13	由井藤三	〃	24	由井猛朗
	〃	由井良夫	〃	14	由井貞夫	〃	29	由井大次
	〃	由井晥一	〃	15	中島道範	〃	28	由井徳治
	〃	高見沢文広	〃	16	由井七郎	〃	27	由井若葉
	〃	由井かのと	〃	17	由井茂璞	〃	35	渡辺貢
	〃	由井勝人	〃	18	由井勘作	〃	〃	由井勝男
	〃	田中栄	〃	19	由井正治	〃	〃	吉沢千勝
	〃	由井嘉	〃	20	由井善長	〃	〃	吉沢具春
	〃	由井茂延	〃	21	由井利治			
	〃	中島徳	〃	22	由井文男			

遺物

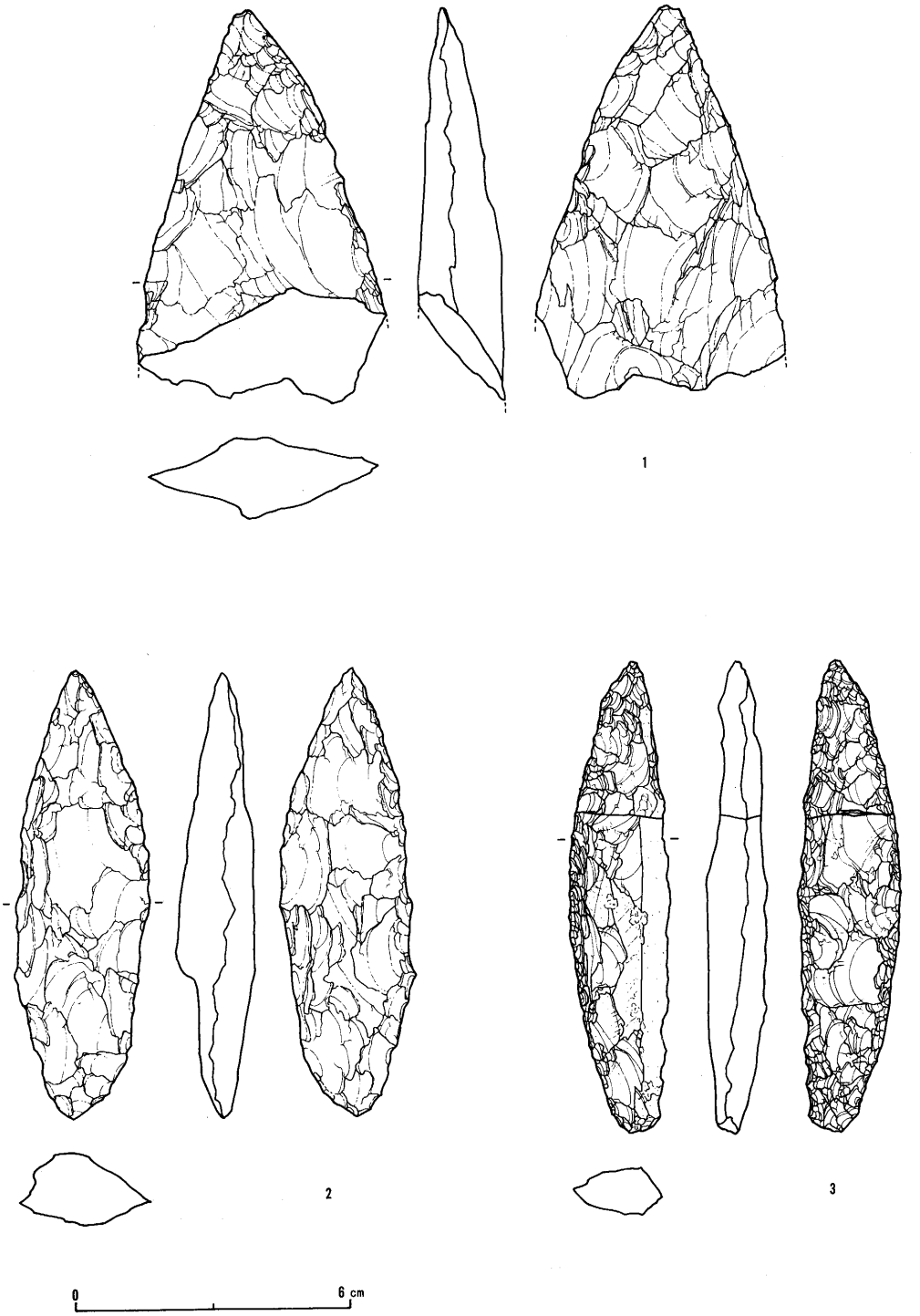
採集遺物	ポイント(水晶)・ナイフ・縄文前期土器
既出遺物	石核・ポイント・ナイフ形石器・スクレーパー・彫刻器・縄文土器(前期)・石鏃　(土屋忠芳・由井一昭・由井明・由井茂也所蔵)

位置 地形 環境

埋原の西端に位置し、北は小海線路を限り、南は丘陵のすそまで、村道川上野辺山線（農面道路）をはさんで南北巾約130m、東西延長約1kmにわたる大遺跡で、中に30,000m²の保存地区を設けている。はやくから石器の出土が知られていたが、昭和28年由井茂也・芹沢長介氏が矢出川の細石刃探査にいく途中で、旧石器の存在を確認した。昭和47年川上村教育委員会の事業として東北大学考古学研究室の芹沢長介氏によって発掘調査が行われた。

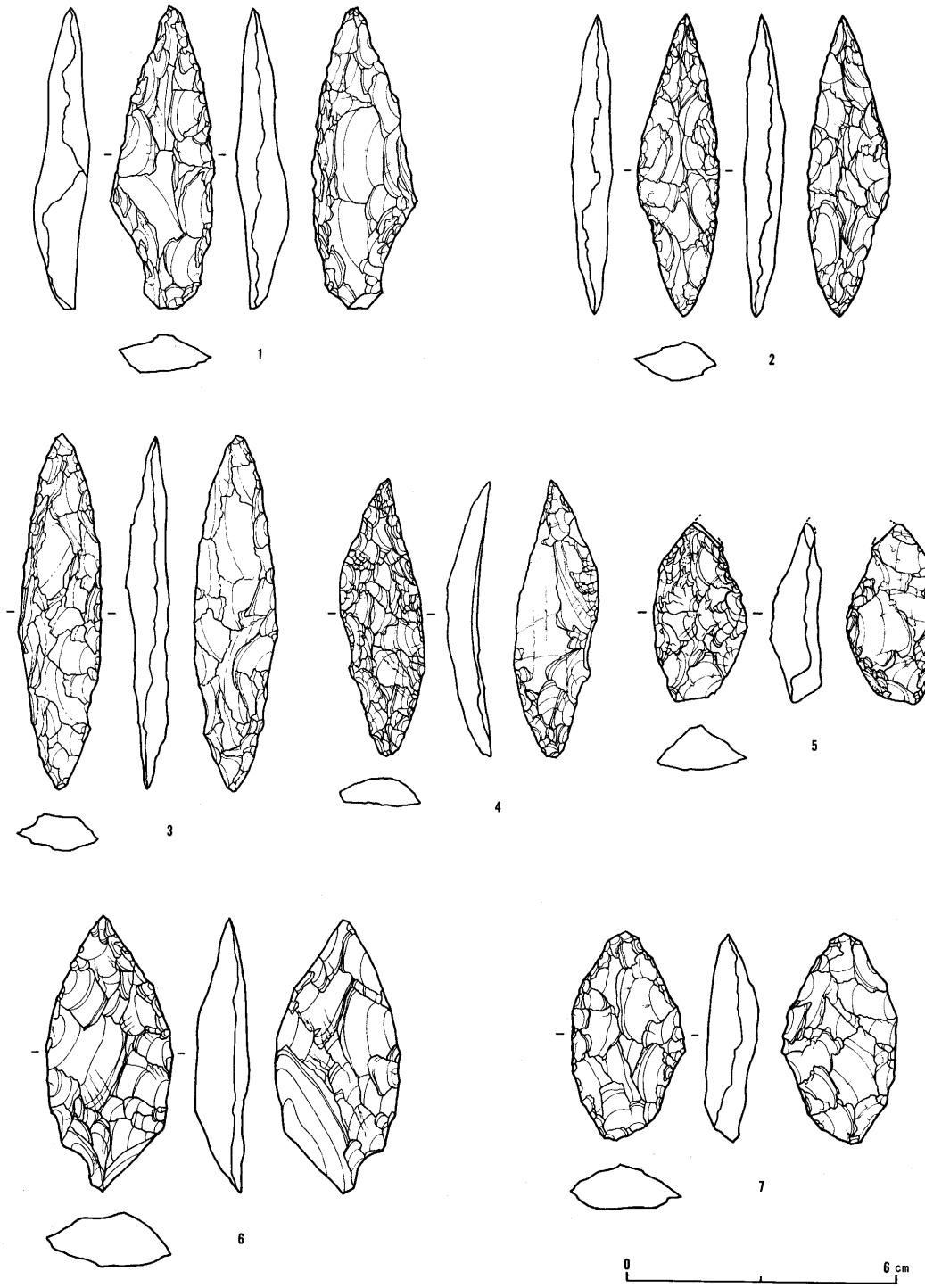


24 柏垂遺跡

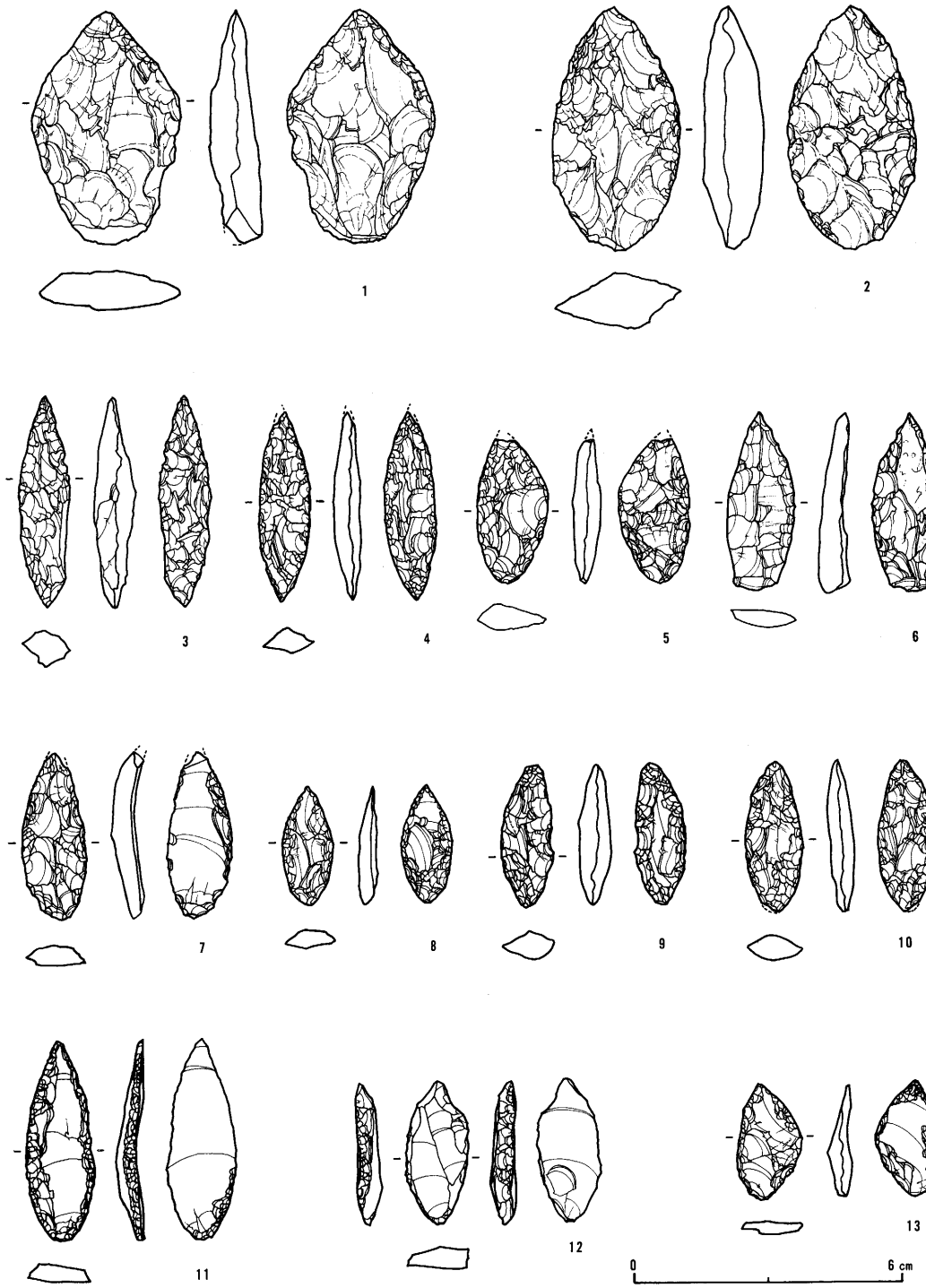


第21図　柏垂遺跡採集石器実測図No.1　（2：3）

1～3　槍先形尖頭器（由井一昭所蔵）



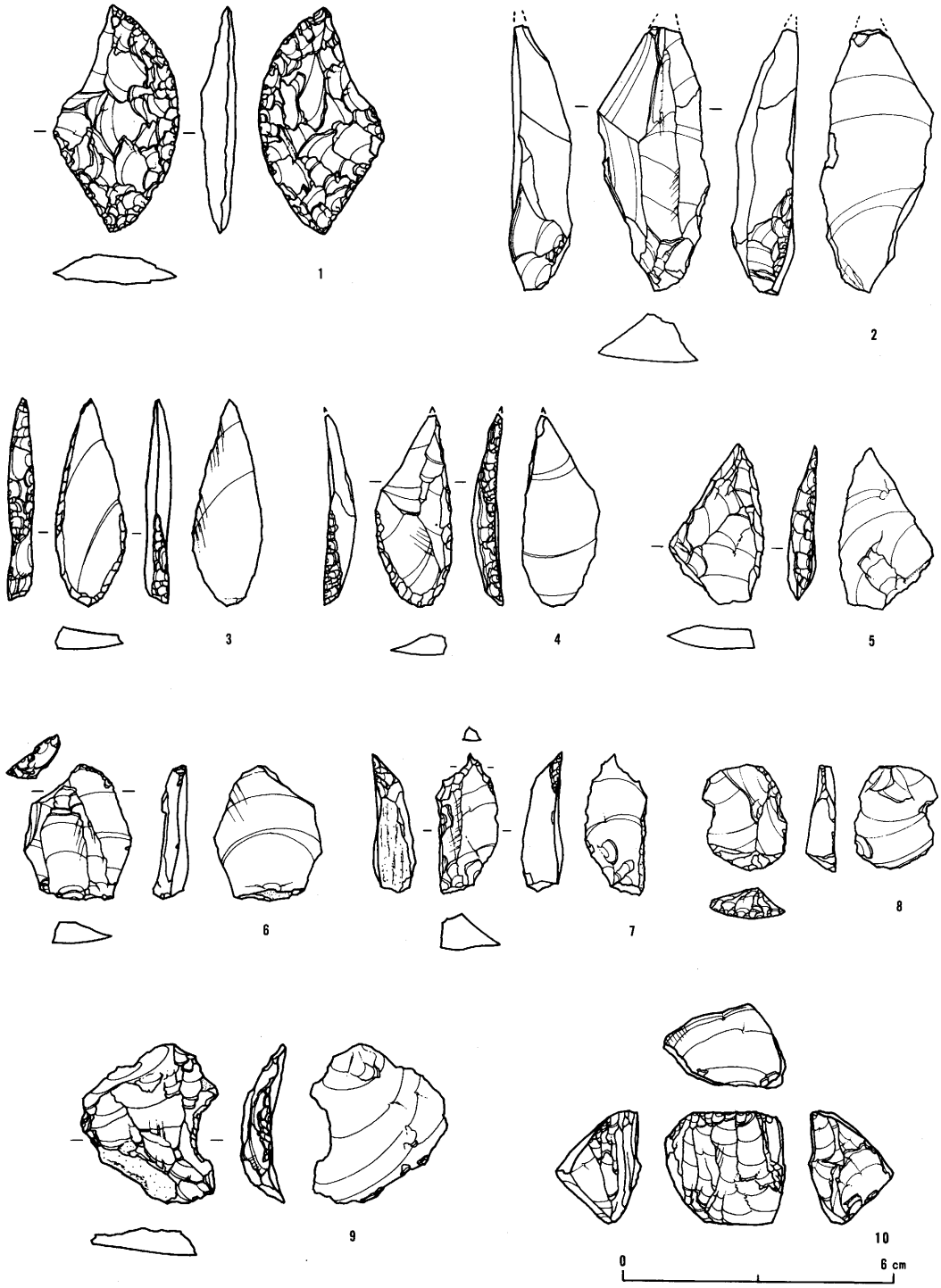
第22図　柏垂遺跡採集石器実測図No.2　1～7槍先形尖頭器
（1．3．5～7 由井　明、2．4 由井一昭所蔵）



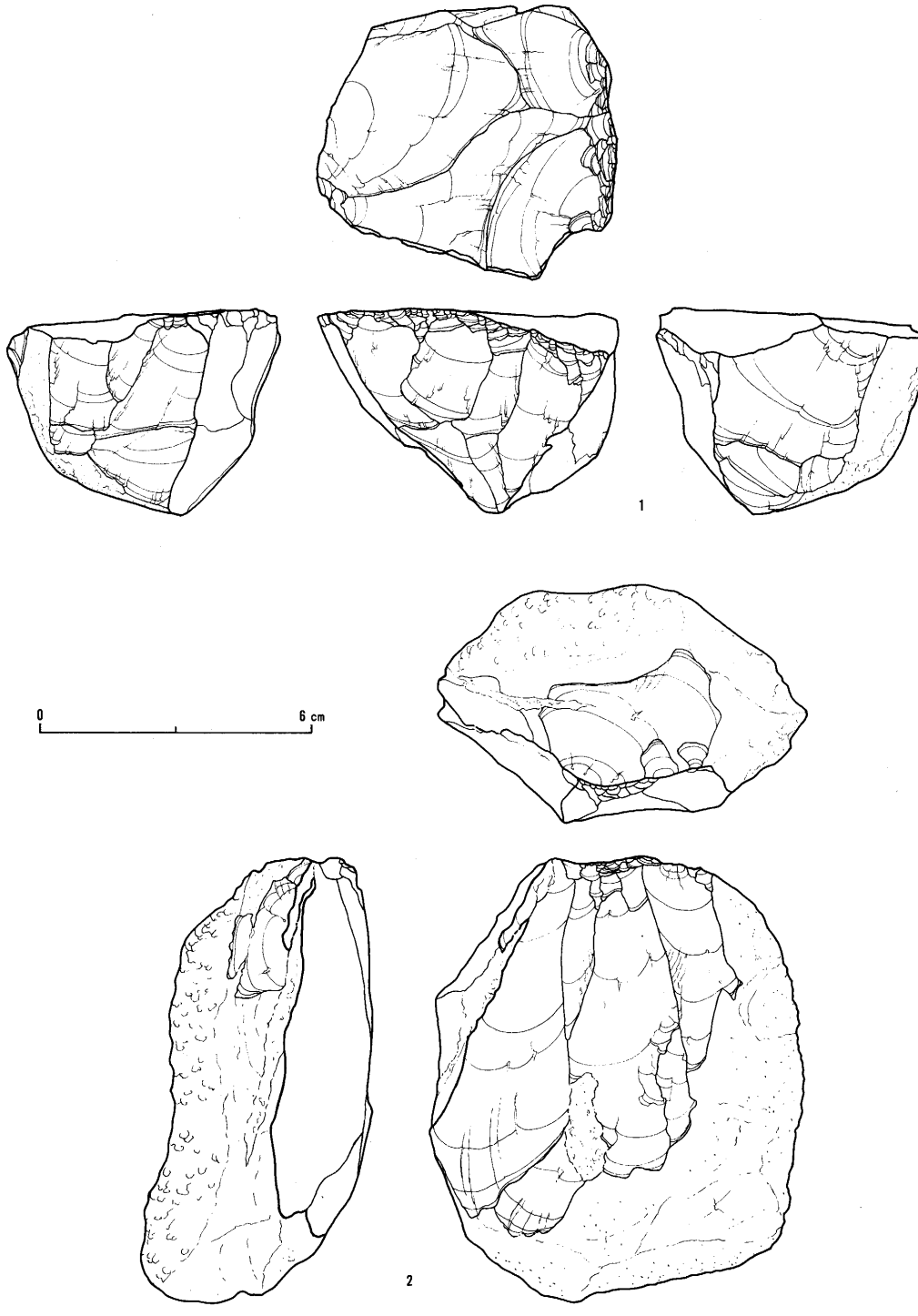
第23図　柏垂遺跡採集石器実測図No.3　（2：3）

1～13：槍先形尖頭器

（1．4～6．9．10．13 由井　明、2．3．7．8．11．12 由井一昭所蔵）



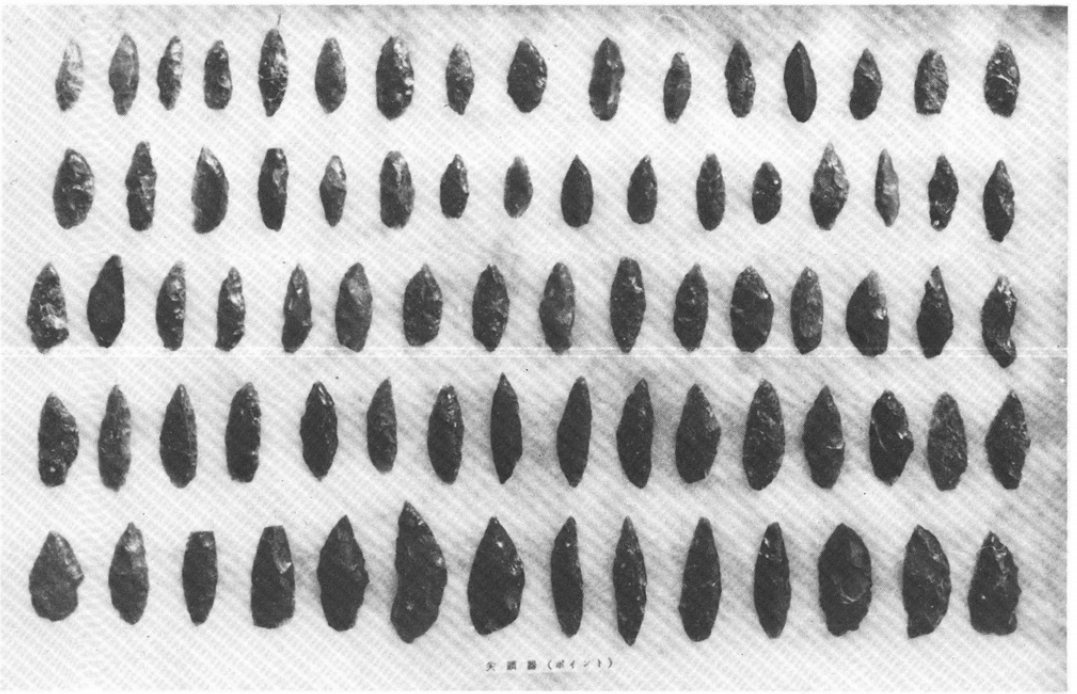
第24図　柏垂遺跡採集石器実測図No.4（2：3）1．彫器　2～6 ナイフ形石器　7 石錐　8 掻器
9 削器　10 細石刃核　（1 由井一昭　2～10 由井 明所蔵）

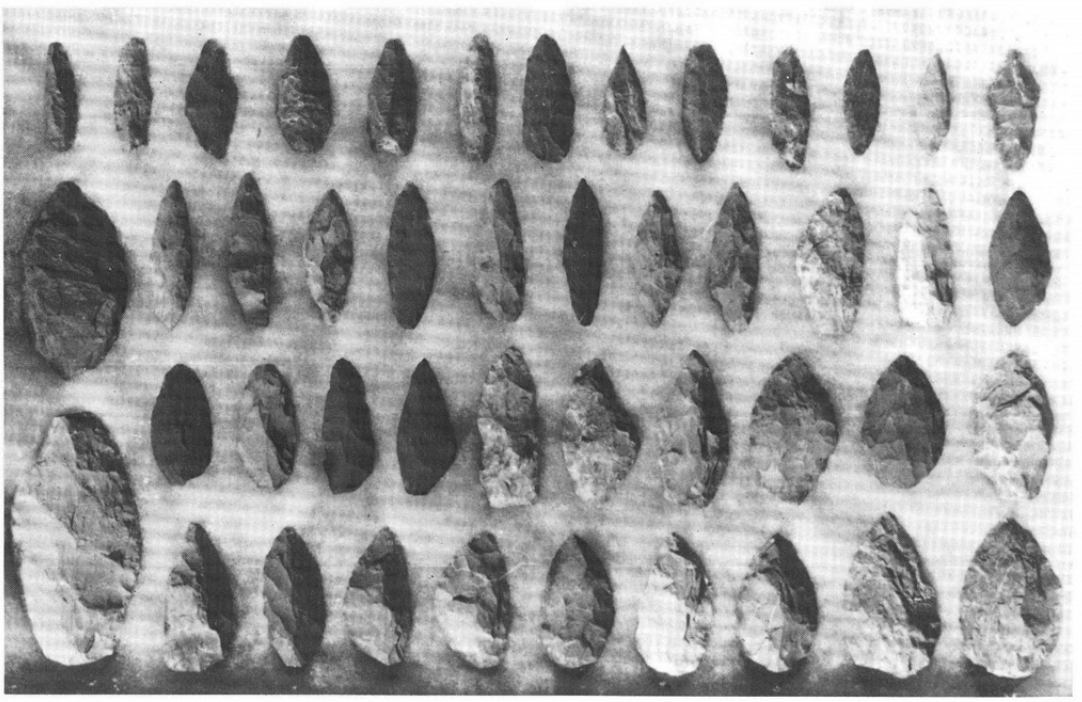


第25図　柏垂遺跡採集石器実測図No.5　（2：3）
1．2、石核（由井　明所蔵）

24　柏垂遺跡採集石器（$\frac{1}{3}$）

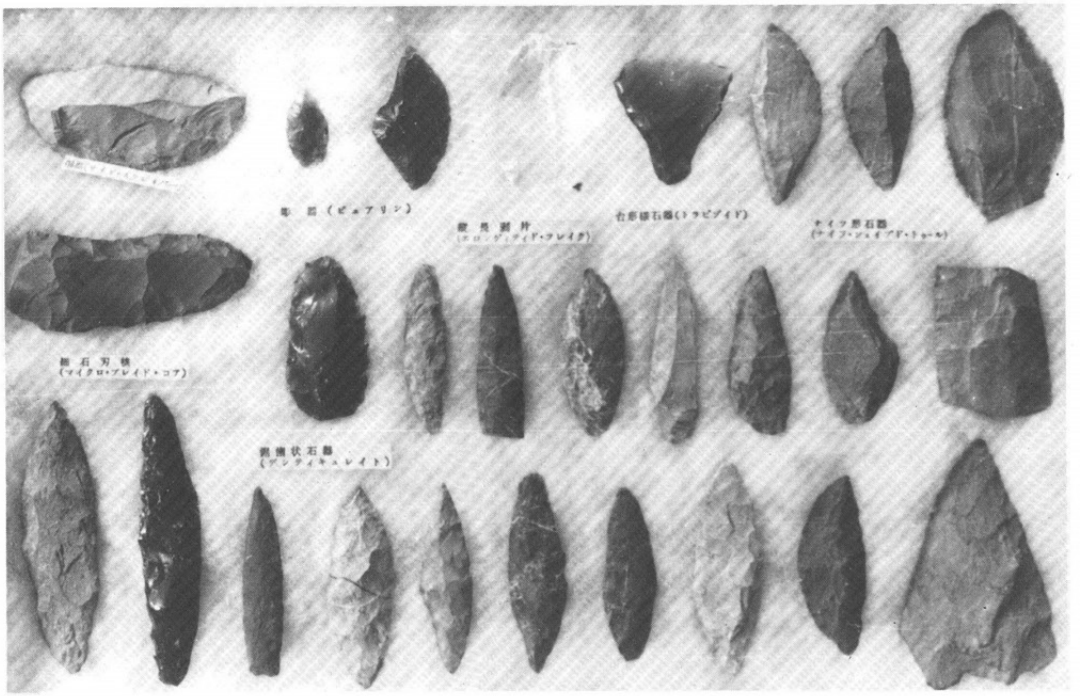
由井一昭所蔵

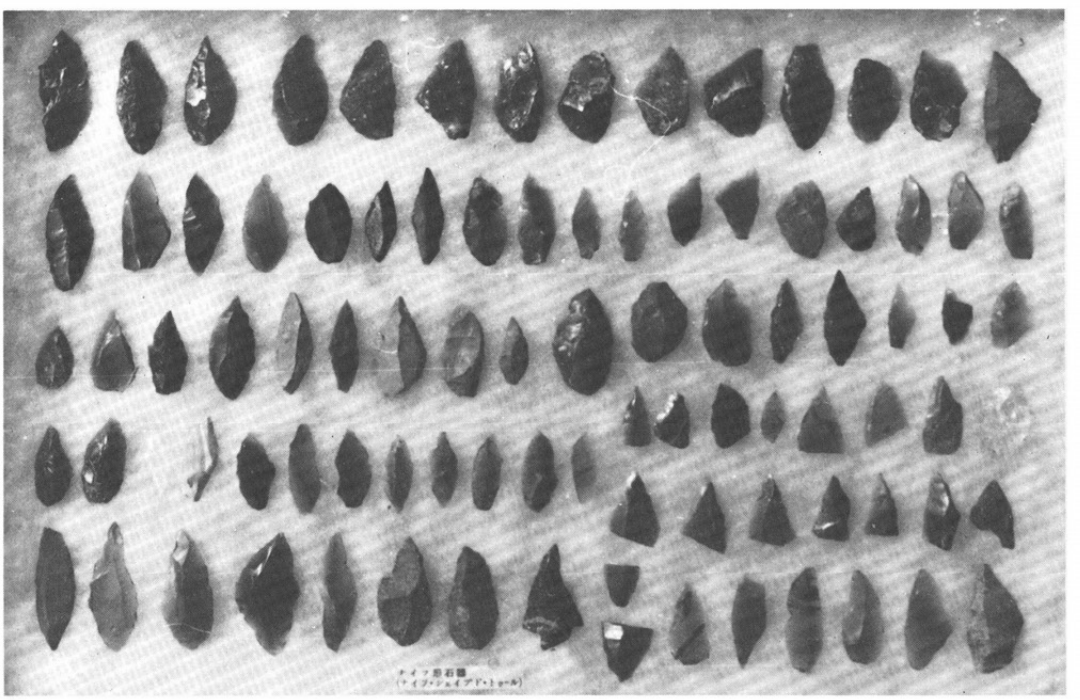




24　柏垂遺跡採集石器（$\frac{1}{3}$）

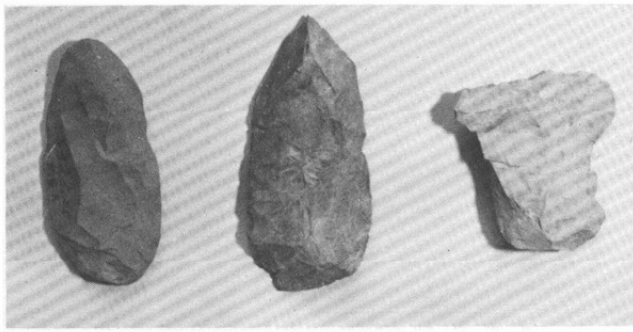
由井一昭所蔵

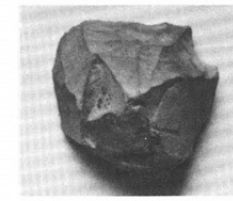


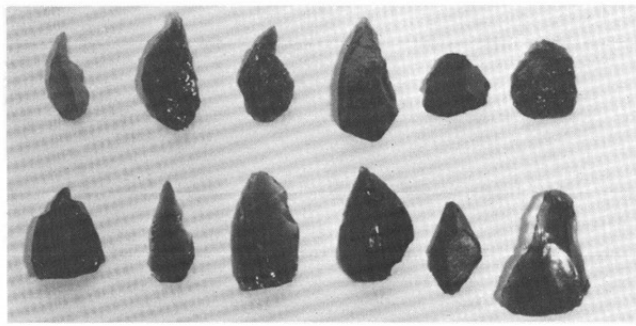


24　柏垂遺跡採集石器（$\frac{1}{3}$）

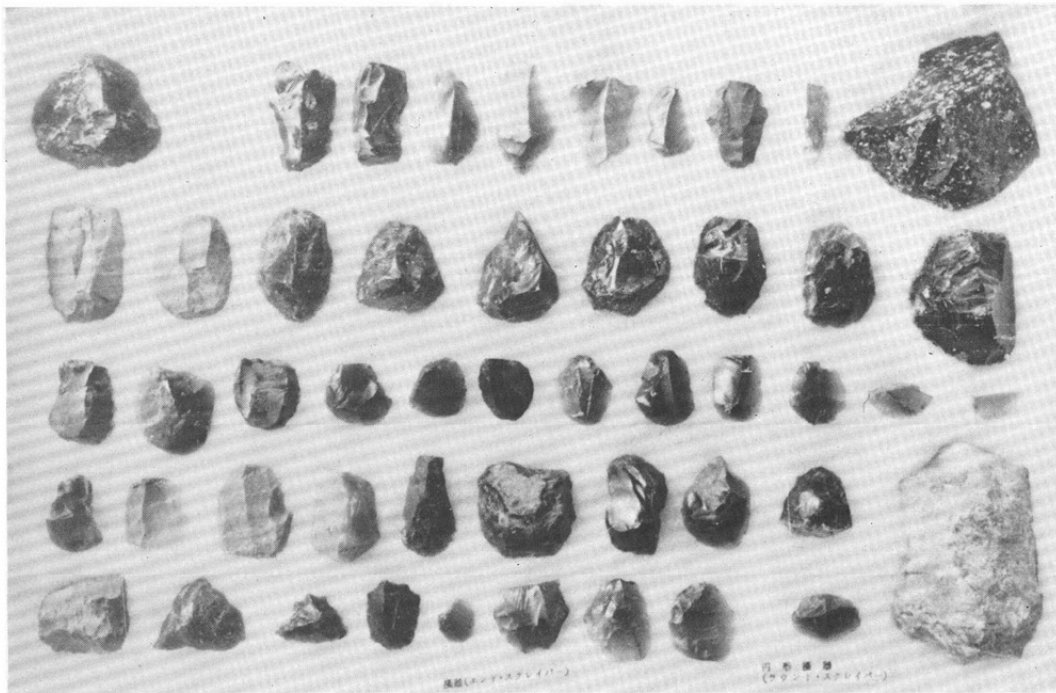
由井　明所蔵





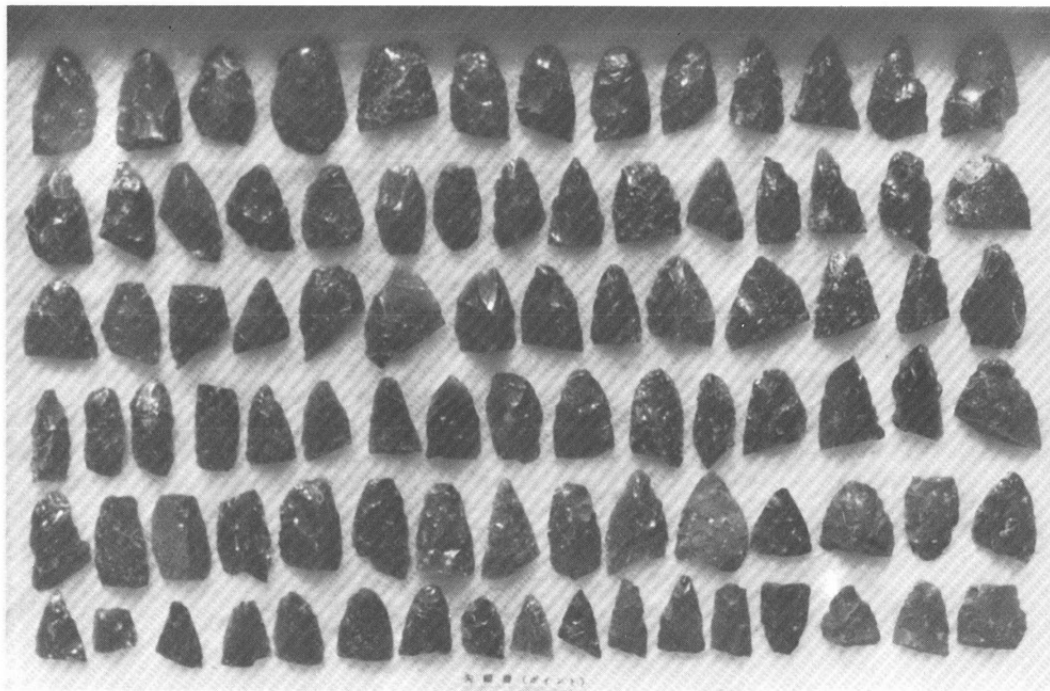


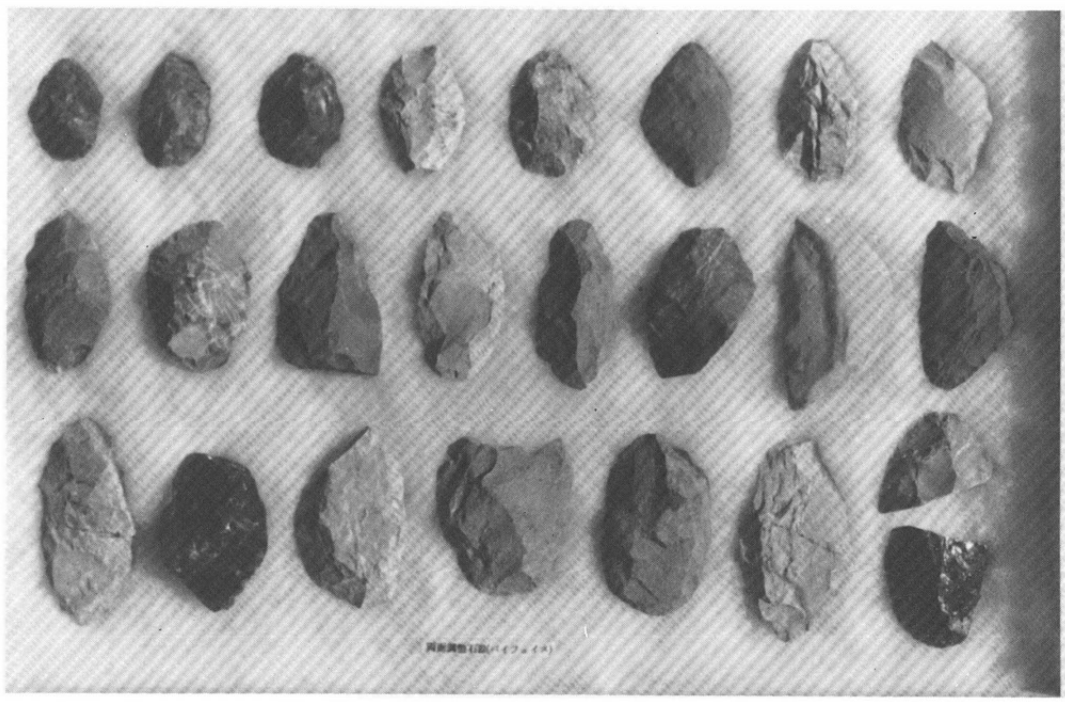
由井一昭所蔵



24　柏垂遺跡採集石器（$\frac{1}{3}$）

由井一昭所蔵



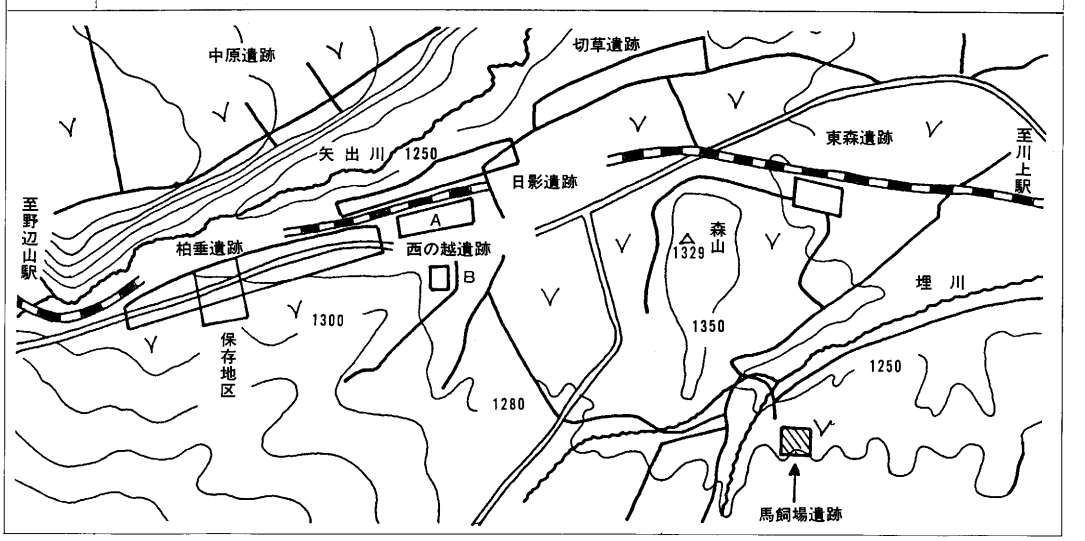


遺跡番号	25	遺跡名	馬飼場	遺跡の種類	包蔵地	部落名	御所平
地目	畑	面積	30,000m²	時代	縄文・平安	調査年月日	58年11月25日

所在地・土地所有者	字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
	馬飼場	15	由井清次			
	〃	1,844-44	新海徳雄			

遺物		
	採集遺物	土師器破片2
	既出遺物	縄文(中期)土器・土師器杯(内面黒色・暗文・糸切・高台付)・灰釉陶器・須恵器 (由井明・由井茂也所蔵)

位置 地形 環境	
	埋原の中央、森山の東南の沢で、埋沢川を渡った右岸の山麓台地上に位置する。標高1,260m、北に緩傾斜する台地で、前面段丘下を埋沢川が流れている。もと山林であったが、高原野菜の畑を開く際に遺物が発見された。



25 馬飼場遺跡

遺跡番号	26	遺跡名	三屋敷	遺跡の種類	包蔵地	部落名	御所平
地目	畑	面積	1,000m²	時代	縄文	調査年月日	58年11月22日

所在地・土地所有者

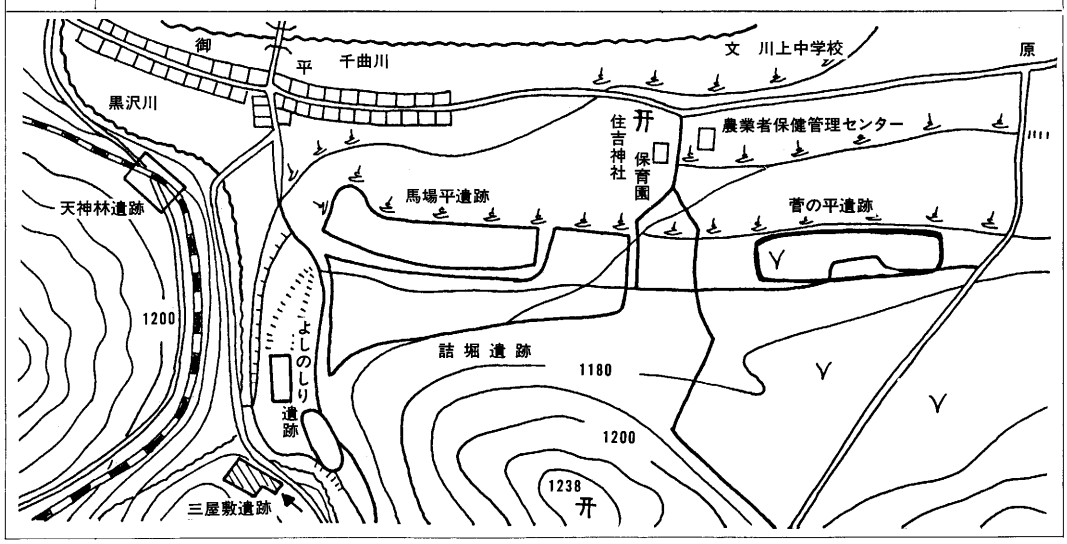
字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
西黒沢	1,503	由井文次郎			
	1,502	由井武彰			
	1,503	〃			
	1,504	由井雅彦			

遺物

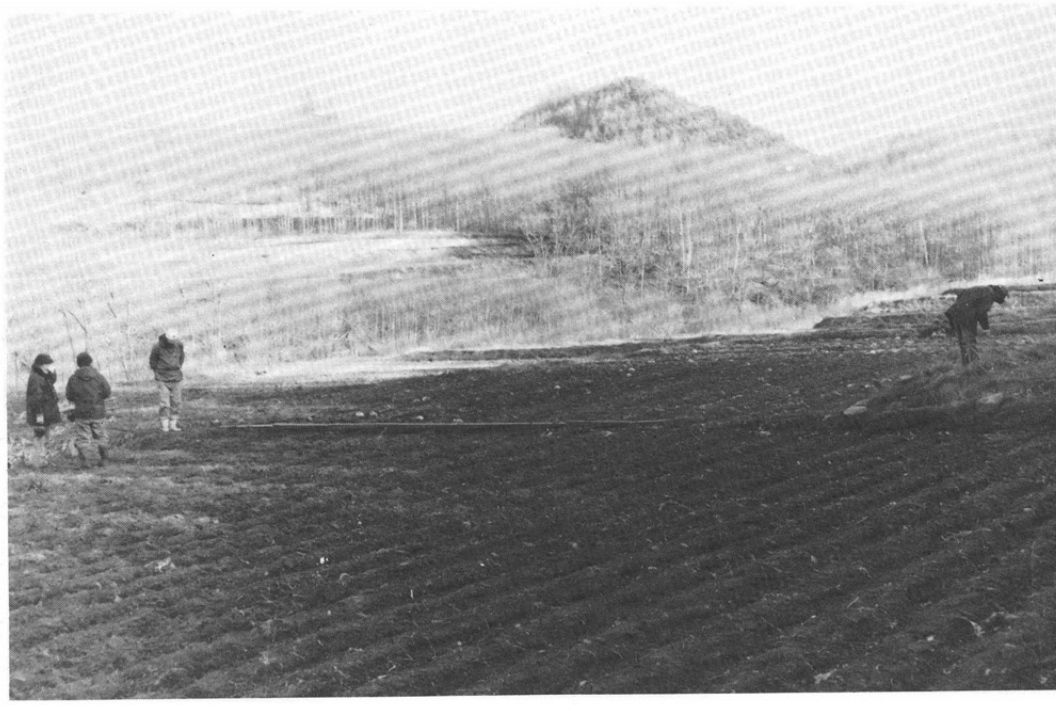
採集遺物	
既出遺物	縄文土器　早期　押形文(山形)・前期　諸磯・中期　籠畑、石鏃 (由井明・由井茂也所蔵)

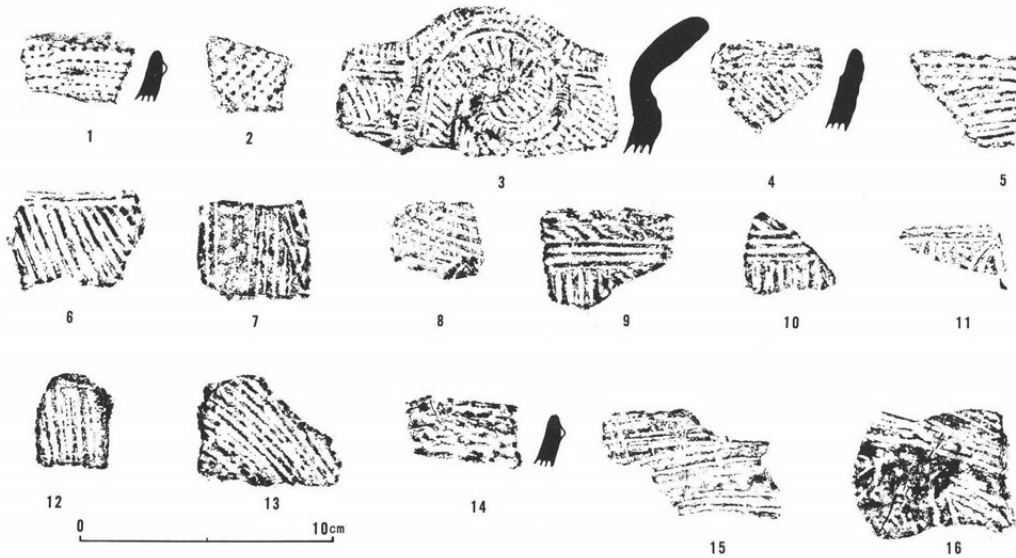
位置地形環境

御所平部落の南方、黒沢川と埋沢川の合流点で、両川にはさまれた山麓台地の先端に位置する。南方背後は女山(1,734m)を中心とする深い山林地帯である。埋沢川をこえた西北方には、埋原台地の段丘崖(比高50m)がまじかに迫っている。東北方黒沢川の対岸は、馬場平・詰堀等の大遺跡の所在する段丘が目前に展開していて、段丘南端のよしのしり遺跡とは150mほどの距離で相対している。明治初年開田の際たくさんの土器・石器が出土したと伝えられているが、現在は高原野菜畑となっている。中世黒沢氏の屋敷跡との伝承がある。

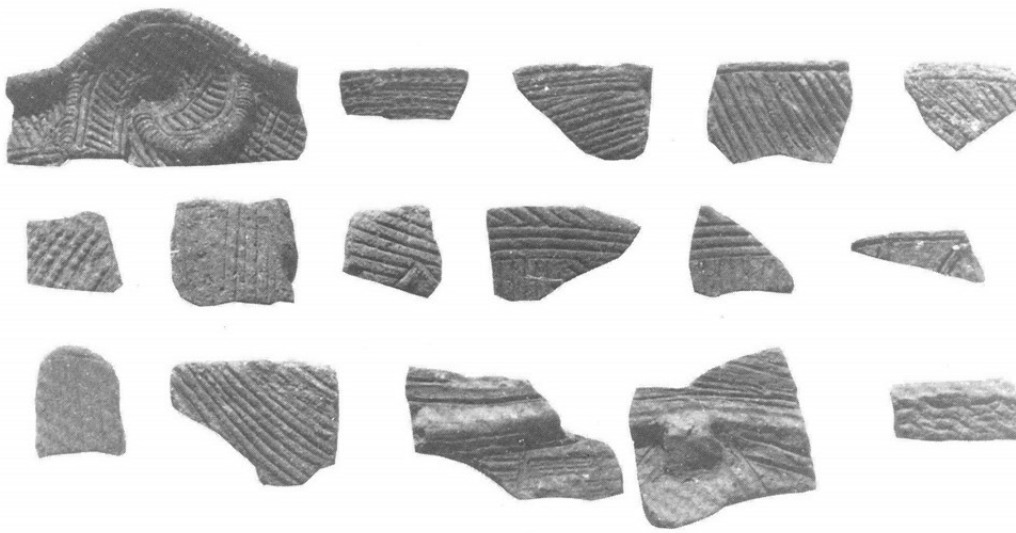


26 三屋敷遺跡





第26図　三屋敷遺跡採集土器拓影（１：３）



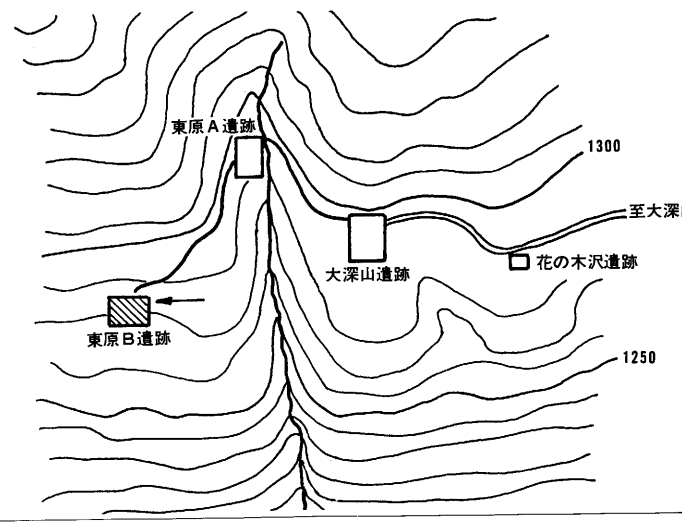
遺跡番号	27	遺跡名	東原B（石橋向）	遺跡の種類	包蔵地	部落名	原
地目	畑	面積	20,000㎡	時代	縄文	調査年月日	58年11月21日

所在地・土地所有者	字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
	東原	1,457	中島宝			

遺物		
	採集遺物	黒曜石5
	既出遺物	縄文中期土器（由井港所蔵）

位置・地形・環境

大深山遺跡と西原沢をへだてて、その西方50mにある。北方100mの上方には東原A遺跡がある。赤顔山（1,597.9m）の山麓で、標高1,270mの南面する台地上に位置する遺跡である。戦後開田の際土器が発見されたが、現在は高原野菜の畑地となっている。



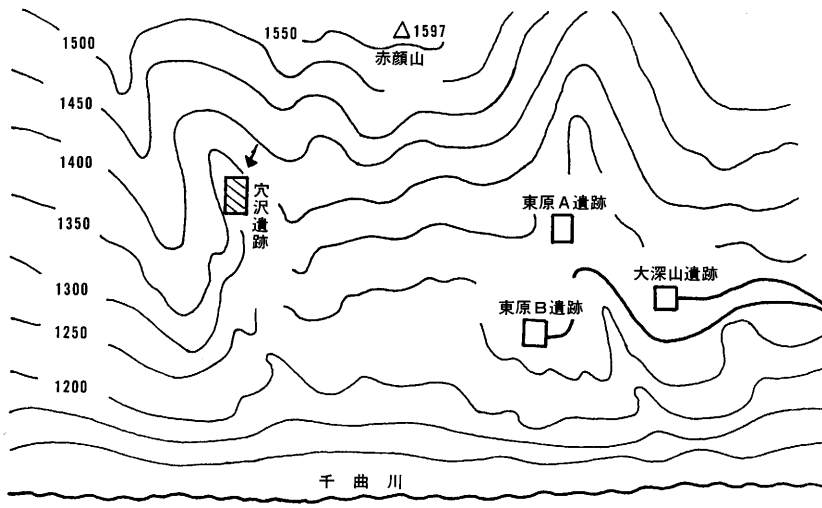
27 東原B遺跡

遺跡番号	28	遺跡名	穴　沢	遺跡の種類	散布地	部落名	御所平
地目	山　林	面積	1,000m²	時代	先土器	調査年月日	58年11月21日

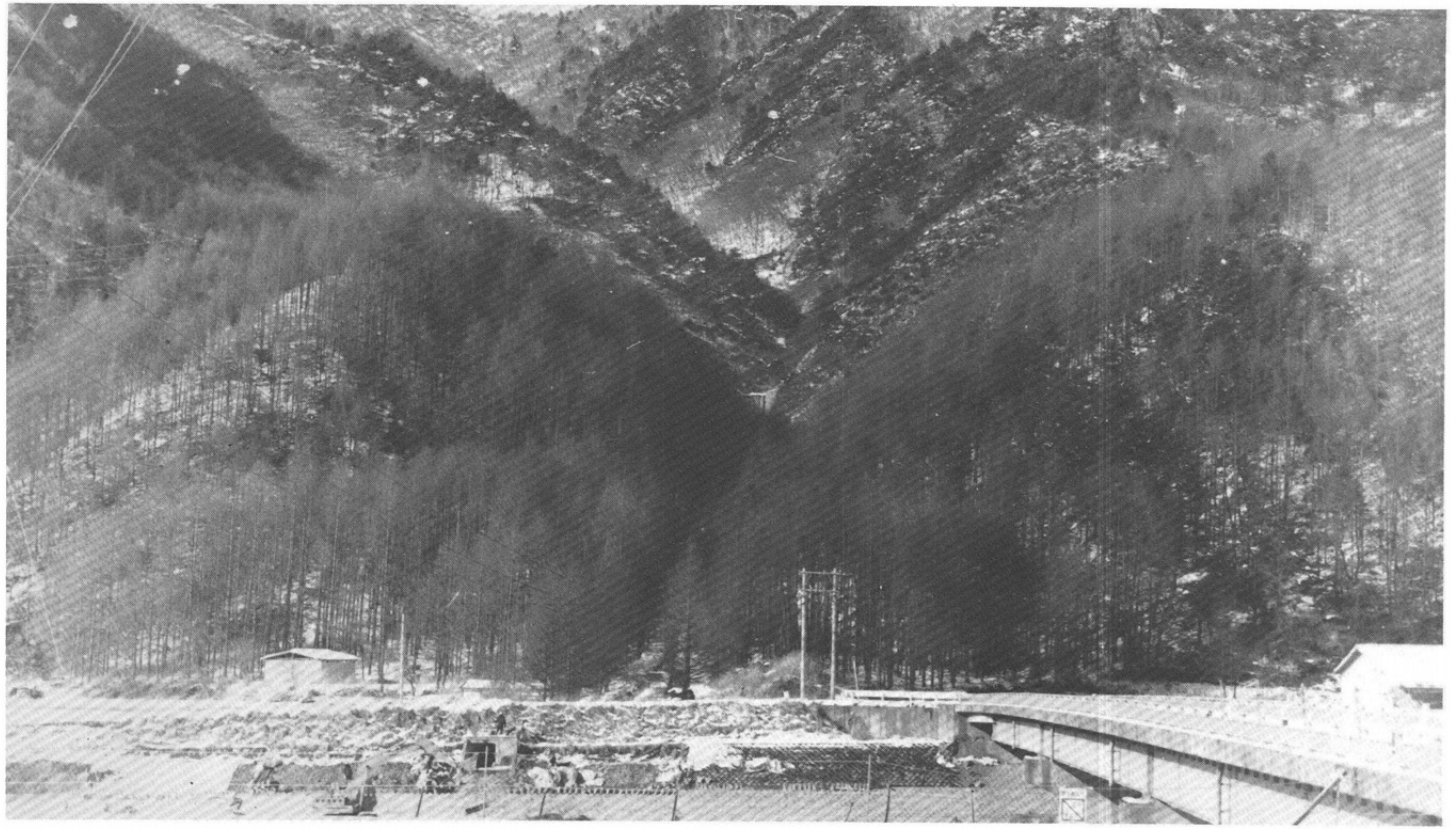
所在地・土地所有者	字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
	穴　沢	608	川上村			

遺物		
	採集遺物	
	既出遺物	ポイント（ハリ質安山岩）

位置 地形 環境	
	赤顔山西側の急峻な峡谷の中にあり、湧水がある。昭和初年製炭窯を構築中に馬場平型のポイントが発見された。峰近くに保科五無斉が電気石、ならびに水晶を掘った跡の洞窟がある。東方約1kmの間に東原A・B、大深山等の遺跡がある。



28 穴沢遺跡

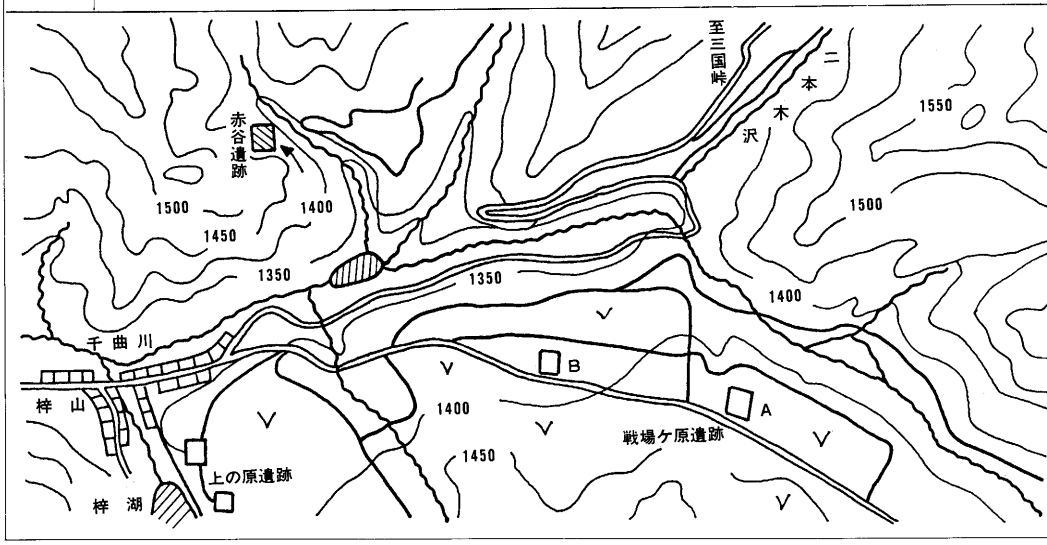


遺跡番号	29	遺跡名	赤　谷	遺跡の種類	散布地	部落名	梓　山
地　目	山　林	面　積	3,000m²	時　代	縄　文	調査年月日	58年11月16日

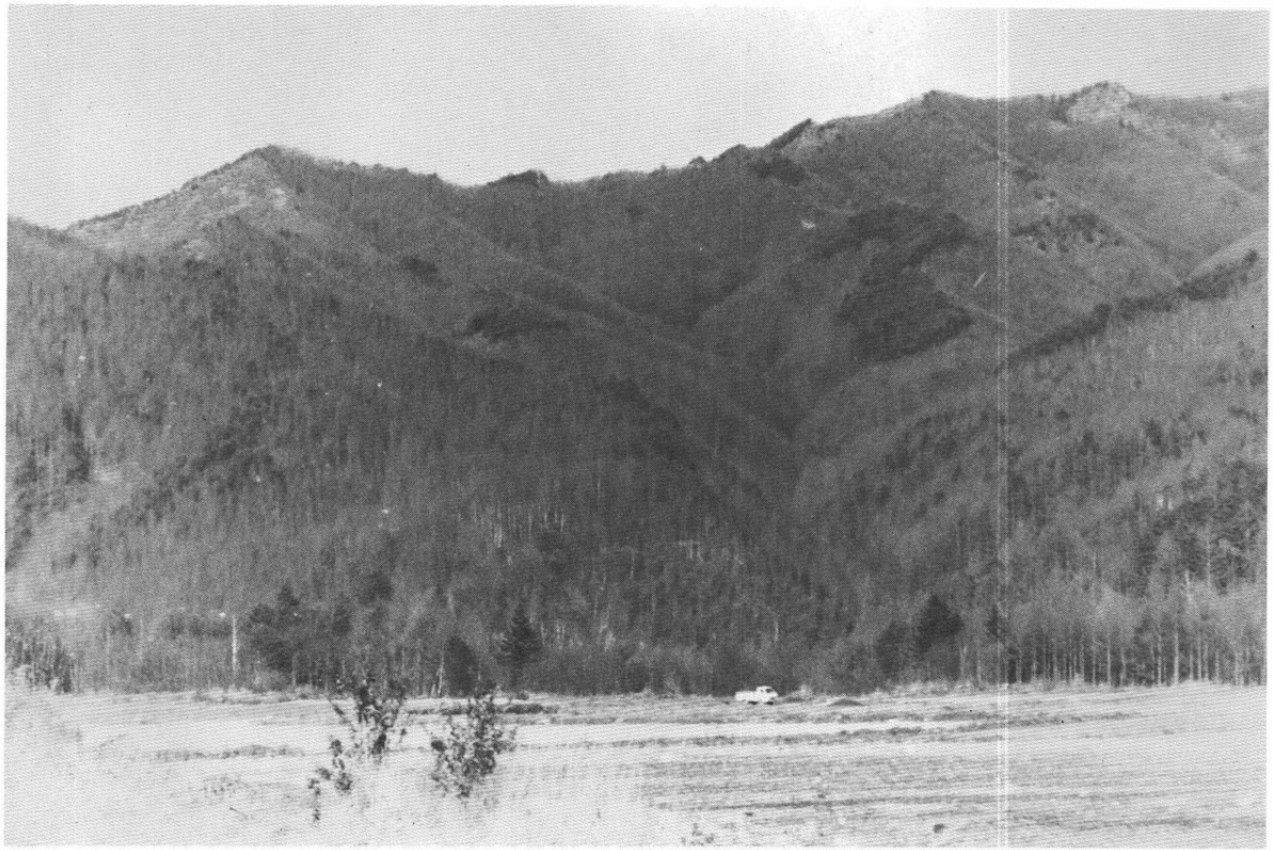
所在地・土地所有者	字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
	赤谷	58－15	関　決次			
		58－28	〃			
		58－31	〃			

遺物		
	採集遺物	
	既出遺物	石　鏃（関決次氏採集）

位置 地形 環境	
	梓山部落の東北方、扇平山（1,700m）の東南山麓の谷間をさかのぼった標高1,430mの東南面する緩傾斜地にある。かつて関決次氏がソバや雑穀をつくり、傾斜地には桑を植えていて、耕作中に石鏃を発見した。現在は山林となっている。



29 赤　　谷



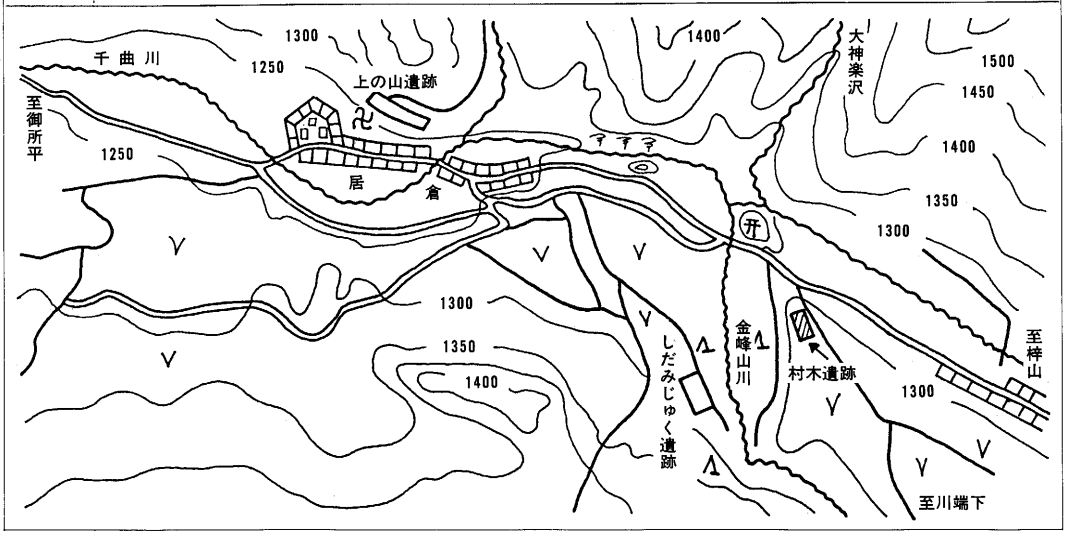
遺跡は左手前方の尾根のかげ

遺跡番号	30	遺跡名	村　木	遺跡の種類	散布地	部落名	秋　山
地　目	畑	面　積	3,000m²	時　代	縄　文	調査年月日	58年11月17日

所在地・土地所有者	字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
	村　木	296	川上　源			

遺物		
	採集遺物	
	既出遺物	石　鏃（黒曜石）

位置 地形 環境	
	秋山部落南方、比高50mの広大な秋山台地の西北端に位置する。遺跡の下方、東北方500mで千曲川と金峰山川が合流している。本遺跡の西方約500m、金峰山川の西岸にしだみじゅく遺跡がある。昭和30年代に耕作者（川上もり子）が石鏃を採集している。標高1,310m。



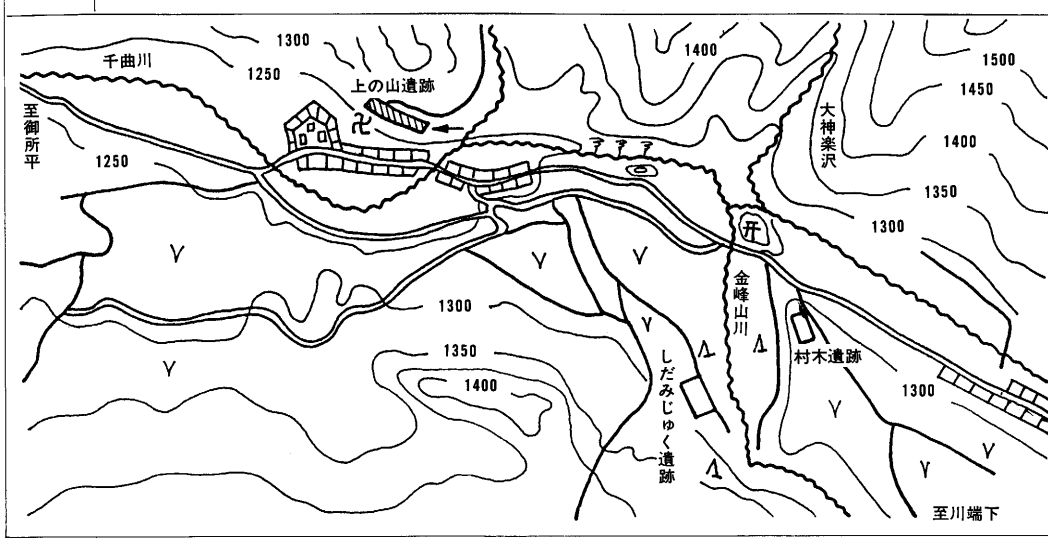
30 村 木 遺 跡

遺跡番号	31	遺跡名	上の山	遺跡の種類	散布地	部落名	居倉
地目	畑・墓地 屋敷	面積	5,000m²	時代	縄文	調査年月日	58年11月17日

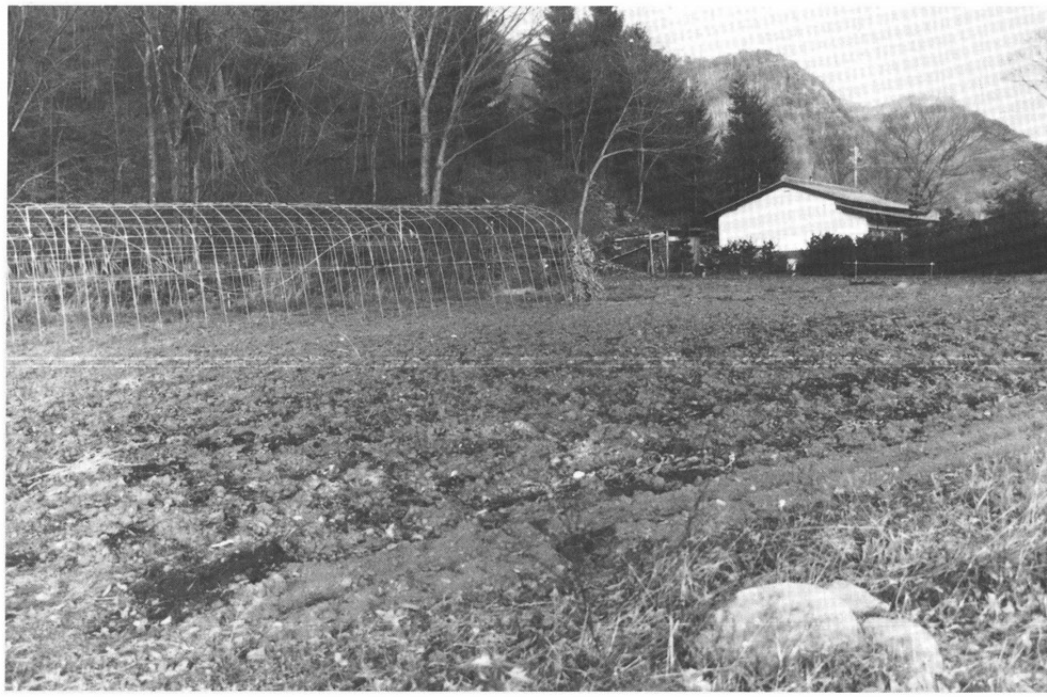
所在地・土地所有者	字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
	上の山	1,611-1	遠藤高次			
		1,610	赤堀直太郎			
		1,603	原三郎			
		1,609	〃			

遺物		
	採集遺物	
	既出遺物	石鏃

位置 地形 環境	
	居倉部落の北方、宗泉寺（曹洞宗）の背後にある山麓台地に位置する。標高1,250m、南面する台地で、前面に居倉部落があり、千曲川がめぐっている。背後は岩山で、松林である。古くから学童たちによって石鏃が採集されていた。



31 上の山遺跡



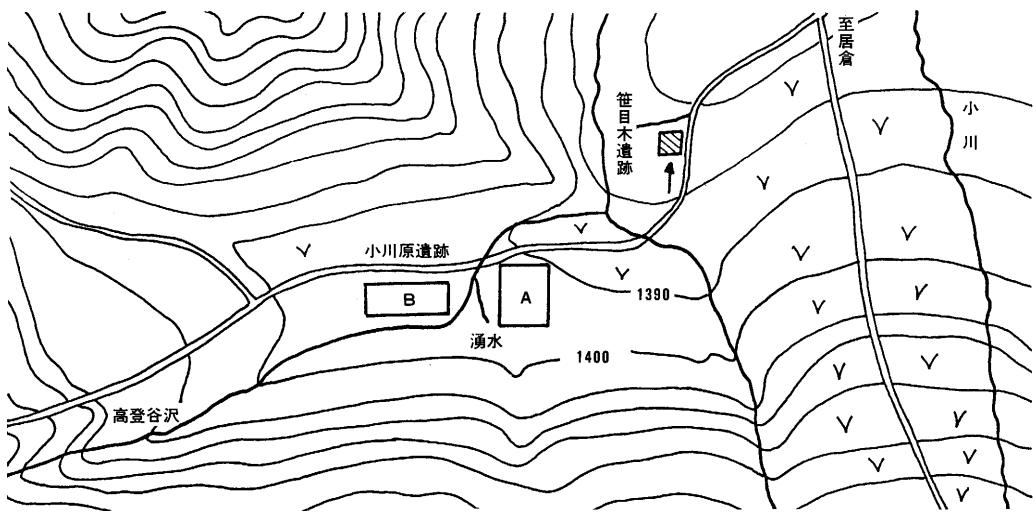
遺跡番号	32	遺跡名	笹目木	遺跡の種類	散布地	部落名	居倉
地目	畑	面積	2,000m²	時代	縄文	調査年月日	58年11月26日

所在地・土地所有者	字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
	中原	20－4	伊藤綱雄			

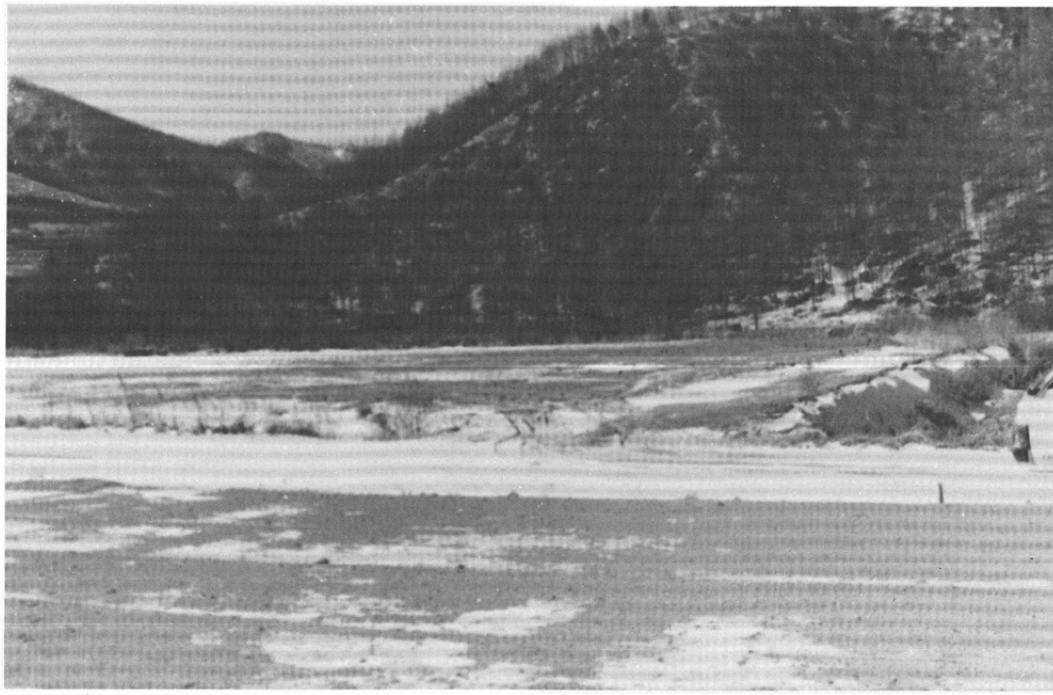
遺物		
	採集遺物	
	既出遺物	石皿（由井港所蔵） 縄文中期土器

位置 地形 環境

小川山麓の高原台地の中原の西方に位置し、高登谷沢の入口付近にあたる。西方は高登谷沢から流れだす渓流が北流している。川の上流300mに小川原遺跡がある。
耕作中に縄文中期土器と石皿が発見されている。



32 笹目木遺跡

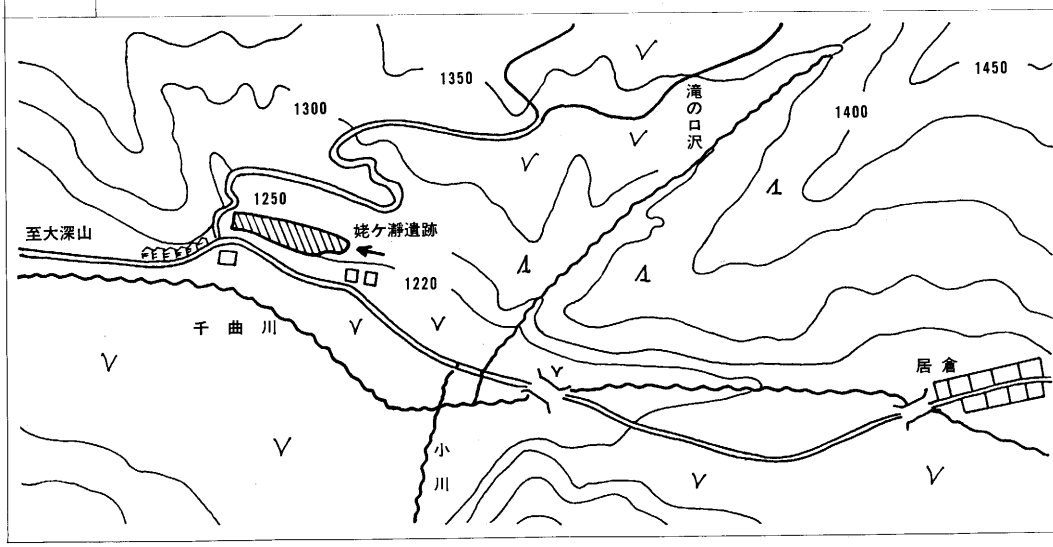


遺跡番号	33	遺跡名	姥ケ瀞	遺跡の種類	包蔵地	部落名	居倉
地目	畑	面積	3,000m²	時代	平安	調査年月日	58年11月21日

所在地・土地所有者	字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
	うばがと	1,008-1	新海作治			
		1,010-4	〃			

遺物		
	採集遺物	土師器10点（杯、内面黒色等）
	既出遺物	土師器杯（内黒）　（由井茂也所蔵）

位置 地形 環境	
	居倉部落の西方、大深山部落との間の滝の口沢の出口の西方約300m、県道の北方、比高約10mの細長い山麓の小台地上に位置する。標高1,220mの南面する台地で、前面に千曲川が流れ、背後は大門峠を越え、南相木村中島に通じる。遺跡の中央の山根に湧水がある。



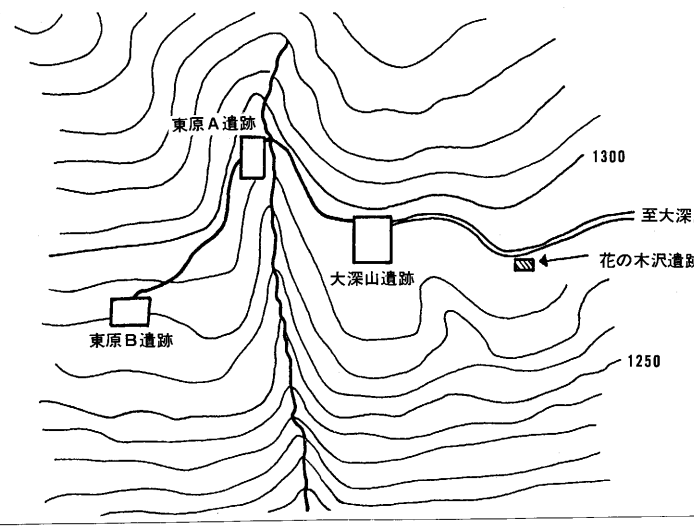
33 姥ケ瀞遺跡

遺跡番号	34	遺跡名	花の木沢	遺跡の種類	包蔵地	部落名	大深山
地目	畑	面積	1,000m²	時代	平安	調査年月日	58年11月21日

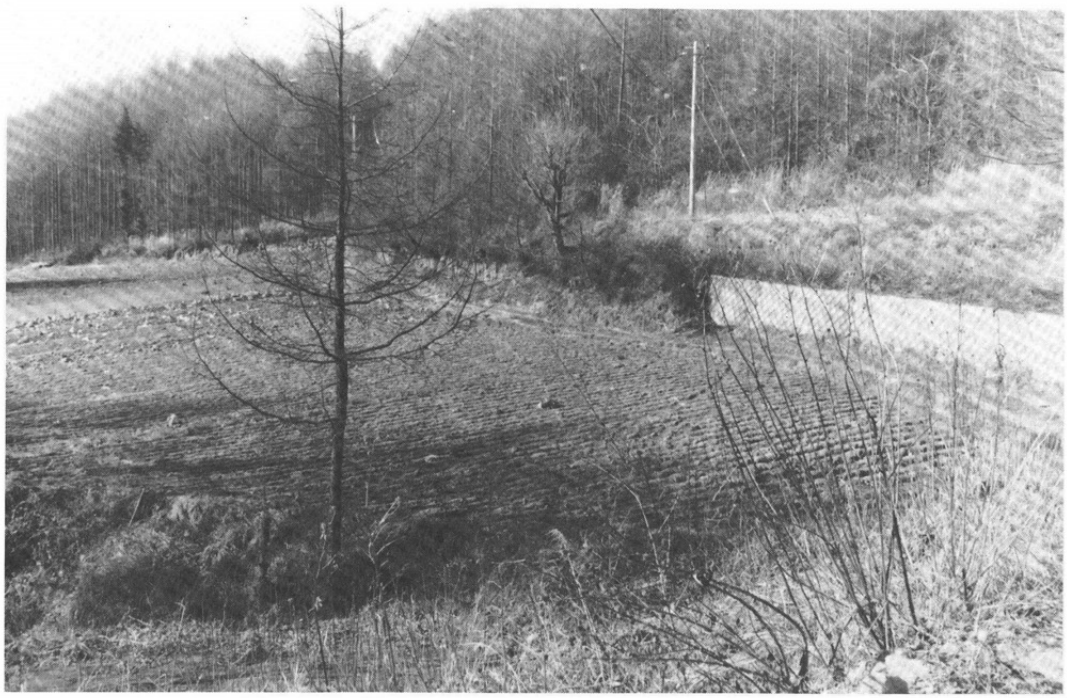
所在地・土地所有者	字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
	花の木沢	925	篠原正水			

遺物		
	採集遺物	
	既出遺物	土師器（新津開三所蔵）

位置 地形 環境	
	大深山部落の裏山、比高100mの南面する山麓台地上に所在する。大深山遺跡の東方約200mにあり、標高1,290mである。遺跡範囲は大深山遺跡に通じる道路の下段の畑から道路敷にわたるものと思われる。道路拡巾の際に炉址が出たといわれる。



34　花の木沢遺跡



遺跡番号	35	遺跡名	宮　下	遺跡の種類	包蔵地	部落名	大深山
地目	宅地・畑 墓地	面積	10,000m²	時代	縄文・平安	調査年月日	58年11月21日

所在地・土地所有者

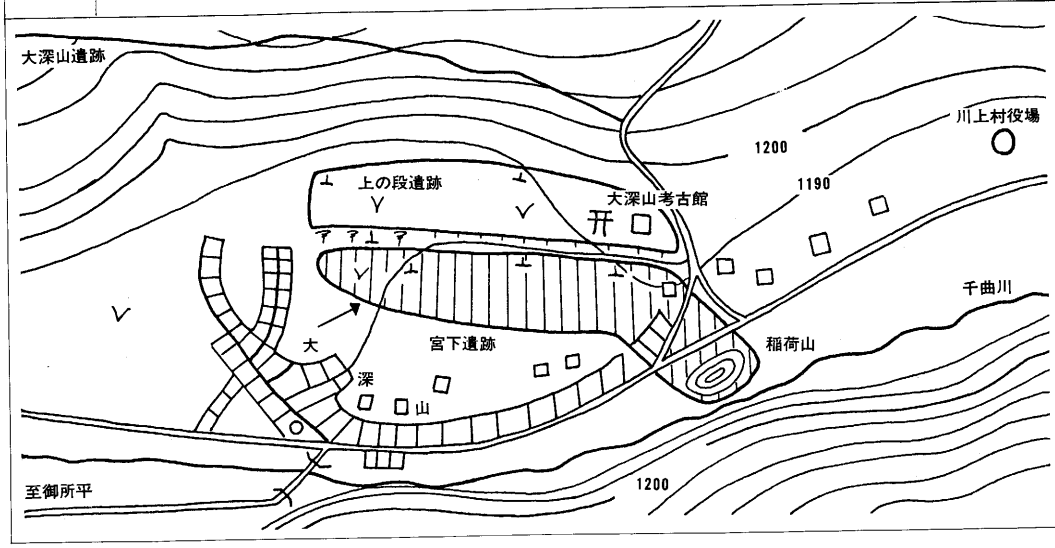
字名	地番	氏名	字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
宮下	744・745	中島喜重	宮下	700	篠原正水	宮下	709・708	油井　薫
〃	741・742	中島　浩	〃	704	由井尚志	〃	706	由井松治
〃	729	日向義治	〃	711	由井文明	〃	705・696	藤原昭二
〃	728	原　義三	〃	710	由井和喜司	〃	697・698	原　竹徳
〃	721	原　美治	〃	712	藤原美昭	〃	699	〃
〃	720	小金沢正雄	〃	719	小池一衛	寺下	836	油井三男
〃	718	中島治平	〃	723	篠原安穂	〃	837	日向明人
〃	717	由井康久	〃	722	中島恒夫	〃	838	藤原紀昭
〃	715	由井良雄	〃	724	藤原一平	〃	839・840	由井　港
〃	714	由井亮二	〃	726・733	中島一郎	〃	848	由井龍雄
〃	713	日向義治	〃	727	由井波治	〃	847	藤原二郎
〃	703	油井　薫	〃	732・740	篠原安穂	〃	846	由井文明
〃	701	由井　治	〃	739	中島恒夫			

遺物

採集遺物	打製石斧1
既出遺物	縄文・堀ノ内・加曽利B、石棒・磨石・打石斧

位置 地形 環境

大深山部落の東方、千曲河畔の稲荷山の丘陵から東北方へのび、上の段遺跡の南にそってその下段に位置する。上の段遺跡とは神社に通じる細道を境に、低い段差を以て区切る。古くから遺物の出土が知られている。上の段と一体をなす遺跡である。



35 宮下遺跡

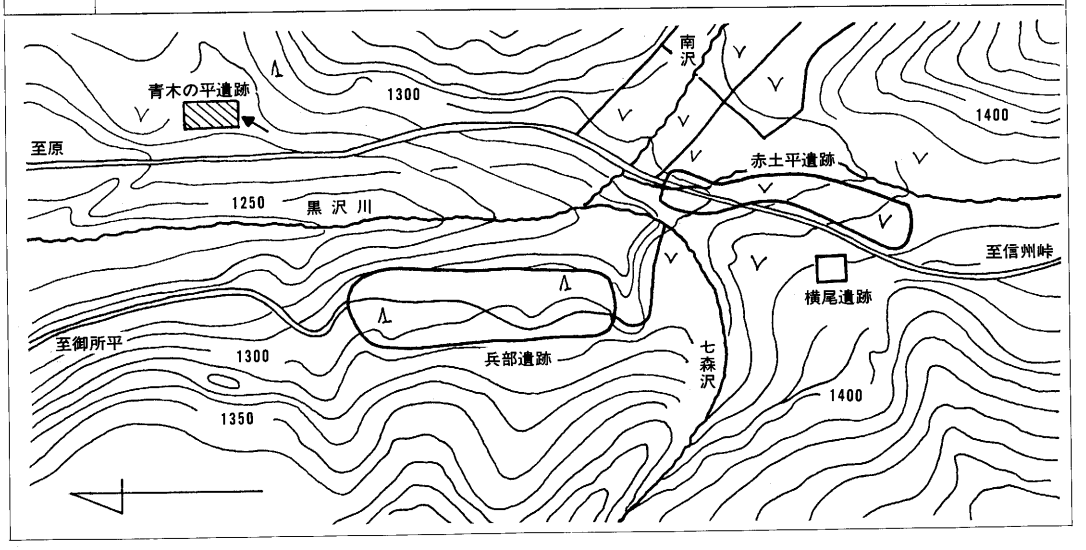
遺跡番号	36	遺跡名	青木の平	遺跡の種類	包蔵地	部落名	原
地目	畑	面積	10,000m²	時代	先土器 平安	調査年月日	58年11月18日

所在地・土地所有者	字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
	青木の平 (通称中原)	576－61 576－90	渡辺智徳 〃			

遺物		
	採集遺物	
	既出遺物	ポイント（石質チャート）　（渡辺智徳所蔵） 土師器（内面黒色を含む）破片　（由井佳幸・渡辺智徳所蔵）

位置 地形 環境

原部落から信州峠に通じる道路にそって黒沢川右岸、標高1,270ｍに位置する。西面する山麓緩傾斜地を削平して、現在は高原野菜畑となり、客土も行われている。南方約２㎞の上流には赤土平遺跡があり、西南方黒沢川の対岸には兵部遺跡がある。道路ばたに樅の老木があり、馬頭観音の石像数体が建てられ、湧水もある。古来往来の人たちの休場に利用され、「青木の平」といって親しまれてきた。遺跡名はここからでた。



36　青木の平遺跡

下は青木の観音（林の中に石仏がいくつもある）

遺跡番号	37	遺跡名	詰堀	遺跡の種類	包蔵地	部落名	原
地目	畑	面積	15,000m²	時代	先土器 縄文・平安	調査年月日	58年11月18日

所在地・土地所有者

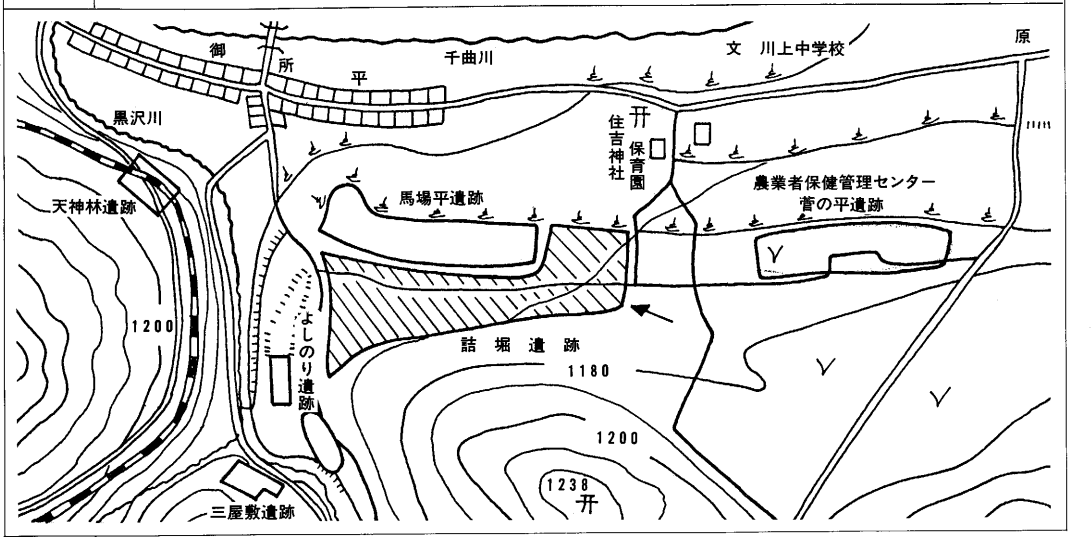
字名	地番	氏名	字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
詰堀	464-1	由井文治郎	詰堀	457-2	新海米六	詰堀	492-2	由井茂延
	464-2	由井信雄		475-2	由井主計		489-1	〃
	464-3	〃		479-1	由井美妃		494	由井利治
	463	由井文次郎		479-2	由井主計		495	新海妙博
	465-1	渡辺寅雄		490-1	由井美妃		496	由井雅幸
	466-1	〃		481-1	由井勇之助		498	〃
	467-1	今枝盛太		481-2	由井美夫		499	高見沢武重
	467-2	中島徳		481-3	由井勇之助		501	由井盛夫
	468-1	今枝ゆかり		491-1	由井欽次		503	高見沢武重
	468-2	小池藤吉		490-1	由井美夫		504	由井竹平
	469-1	由井治録		483-2	由井一邦		505	由井二平
	469-2	由井保雄		489-2	由井茂延		506-2	由井清幸
	457-1	中島喜夫		492-1	池田勝		506-1	由井直治

遺物

採集遺物	水晶5・黒曜石9・チャート3・石鏃1・土師器1
既出遺物	ポイント・スクレーパー・ナイフ形石器・石鏃 （由井一昭・由井茂也・由井明所蔵）

位置 地形 環境

御所平住吉神社の南方段丘上一帯にわたって、馬場平遺跡を東と南から覆うように存在する広範囲の遺跡である。もとこの段丘上は馬場平遺跡の名で代表されていたため、詰堀遺跡はごく小範囲のものとされていたが、今回は地籍図に基いて範囲を画定したので、馬場平遺跡の面積は小さく、詰堀遺跡の面積が大となった。昭和28年発掘調査地点を中心にして遺物の出土は馬場平の方が密度が濃いが、詰堀地区も全面に出土し、特にこの地区には水晶を主とした遺物をだす地点がある。



37 詰 堀 遺 跡

遺跡番号	38	遺跡名	蕨窪	遺跡の種類	包蔵地	部落名	御所平
地目	畑	面積	1,500m²	時代	縄文・平安	調査年月日	58年11月22日

所在地・土地所有者

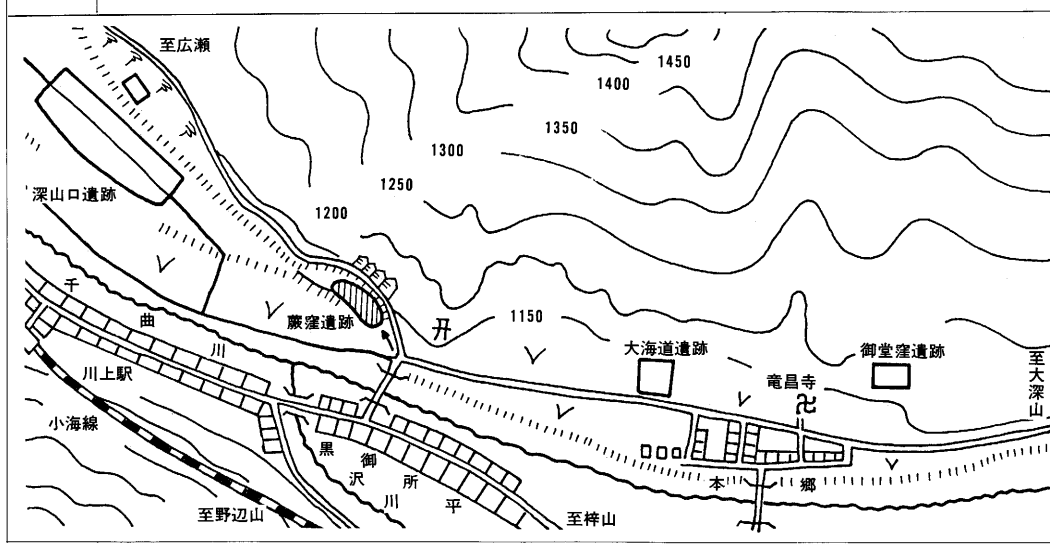
字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
蕨窪	161－1	由井敬作	蕨窪	151	由井正光
	162－1	由井こはる		152	由井嘉
	160－1	由井正文		149	由井こはる
	159	由井敏一		147	由井章隆
	158	由井章隆		148	由井辰治
	157・135	中島浩		144－3	由井晥一
	153	由井敬作			
	154	由井昭吾			
	156	由井武久			

遺物

採集遺物	
既出遺物	縄文土器・打石斧・凹石・土師器　（由井明所蔵）

位置 地形 環境

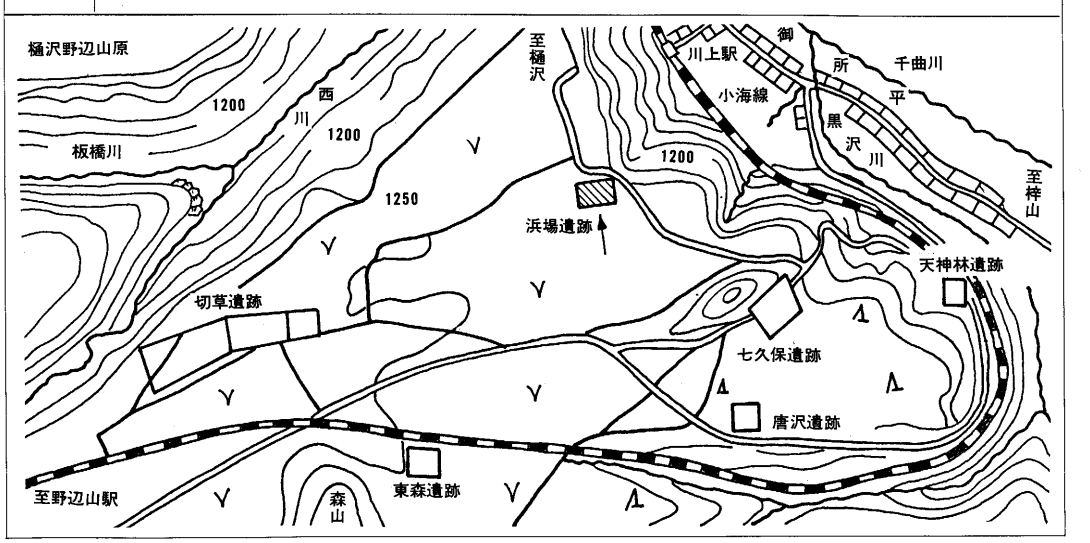
御所平部落から男橋を渡って、大蔵峠に向かう県道の下に、これにそって東西に細長い。南面する小段丘上に位置する。千曲川との比高約10mである。段丘の西方には深山口遺跡が連続している。東方1kmの間には、大海道・御堂窪等の遺跡がある。



38 蕨窪遺跡

遺跡番号	39	遺跡名	浜　場	遺跡の種類	散布地	部落名	御所平
地目	畑	面積	20,000m²	時代	縄文	調査年月日	58年11月22日

所在地・土地所有者	字名	地番	氏名	字名	地番	氏名
	浜　場	1,768-1	由井二平			
		1,768-イ	〃			
		1,768-ロ	〃			

遺物		
	採集遺物	
	既出遺物	縄文後期土器・石鏃・石錐　（由井二平・吉沢時之助所蔵）

位置 地形 環境	
	埋原の北端に位置する。東は段丘崖となり、比高100m、直下に御所平部落、信濃川上駅がある。西方一帯は広大な埋原で、切草・東森・唐沢・七久保等の遺跡が半径1km以内に散在している。遺物は耕作の間、特に最近の深耕等によって多く発見されている。段丘崖に湧水がある。